

尤利生も著明く都鄙參詣する事になん、されば東武の廣さは上に往々いえる如く、方量莫大なる上にかくのごとく故ある神社佛閣の追々殖ぬれば、江戸名所圖繪の出版の沙汰は近年よりありながら、今に延引するも理ぞかし、東武の内は勿論、武州二十一郡の間、明細に神社佛閣洩ざる様に事歴を明し、猶又絶景の地、大家の林泉埋れたる古跡古物等まで具に盡し誌し、印刻せん事恐らくは難かるべし、京浪華の狭きに倣ひ餘國の繪圖を羨むより、江戸名所圖繪を編で海内に廣めんとするは、配慮の大望といふべし、武州の地理廣さに至りては、東西三十六里餘何ぞ盡す事を得ん、もし出版するとも定て杜撰の事多く、唯書肆の有となるものならし、

三拾八

牛島村加東節の徒六代の墓

一、武州葛飾郡本所牛島村寶壽山長命寺天台は、牛の御前の北後土手下にあり、門に掲し寶壽山と書たる横額は、左玄龍の筆也、今はむかし寛政初年の頃は、住僧惠海は坂東新水に茶法を學びて、木の端炭の折に似も付ず、東圓先生が古風をたのしみぬれば、秋葉満願寺と更々終日罷りて清談せし事もありけり、惠海は上野の國何寺とやらへ轉住し、それよりは最早三代にもなるやらん、當寺に河東節の初代伊藤十寸見堂より六代まで、同會の石碑三本ならべ建たり、これは初代河東菩提所は、築地本願寺地内成勝寺にして墳墓ありといへども、墓所の地狭きゆへ六世の河東といふもの建しと見えたり、

近年かやうの事天行ものにて、佛神の地面に猫も杓子も無性に碑をたて、己が名を賣んとす、詩あり文あり歌あり、發句ざれ歌など事々しく鍛付たる中には、下手不學を後世に傳ふるもありけり、河東が同會の碑左の如し、

元祖 釋 清西 信士	二世 妙屋 紹音 信士
三世 潭譽 澄瑞 信士	四世 一法 圓諦 信士
五世 曉照院遊山東雲 士居	六世 妙音院正山道榮 士居
十 寸 見 河 東 墓	

右三本目の碑の左脇に、六世の河東が辭世を刻せり、
極樂のみちも明るし梅さくら 六世 河 東

三拾九 丹羽家澁谷の長者が古墳

一、東武青山長者が丸といふ處は、百人町中程より東へ入澁谷長谷寺門前へ、往來する細小路五六町の間をいえり、此地往古澁谷の長者といひし者住し土地なればとて、今此邊を地名に呼り、彼長者が塚といひ傳ふるもの、長者が丸丹羽加賀守下やしきの内にあり、太さ小山のごとく一里塚などに類して、塚上に古松の大樹貳株生茂れり、その摸形只芝山にして、裾通りには杉木の角物を以て行馬を作り高さ三尺四五寸、前に株木門を建て注連を張、猥に圍の中へ入しめず、是むかし澁谷の長者が寶器を埋めし塚のよし、世替り年推移りて、丹羽加賀守此地を下屋敷に拜領せしが、中古此塚を破壊し崩さんとせしに、人夫は勿論幸領小頭の者、須臾に發病し、或は怪我し、又は鼻血眩暈等して纔に堀崩したるまゝにて止め、しかるに其夜司役の者人夫一同惡寒發熱して、塚を崩し評し事口ばしり更に狂人の如し、是によつてその事を止たり、古より堀崩さんとする度、かやうの怪異三度におよべば、今は力なく廻りに行馬を拵へ、注連を張て人を入しめず、例年八月朔日は此塚を祭るとなん、土俗の説には黄金の長者ともいえりとかや、むかし貞治應安の頃までは、長者が家大に富榮えしと、しかる

に澁谷の郷度々の兵火によりて家衰え、今その子孫いさゝか成百姓となり血脈絶ず、此近邊にありとなん、重て尋ぬべし、

四拾 熊谷稻荷安左衛門夫婦が墓

一、東武淺草長隴山本法寺日蓮は、新堀ばた横町竹屋敷に有、當寺にむかし熊谷稻荷を勸請せし、越前の産熊谷安左衛門夫婦の墓あり、安左衛門の種性は越前の國にて、尾先の白き狐を助け、後浪人して江戸へ下り稻荷を崇めし一件は江戸砂子に見ゆ、石碑よみ歌圖のごとし、

石碑のうらに歌四首を刻せり

二木三木四木は咲どもあたにちる、みゆる蓮の花こそ花よ

はらへども浮世の雲の果そなき、くもらば曇れ月は有明

世の中を柳に風の吹なかせ、こゝろをとむる色しなれば

色しなに迷ふ小蝶の花なれや、ちる一ふきに夢覺にけり

妙法

正徳三癸巳年三月十九日

隨喜院妙理日達信女

山本院東雲日頼居士

寶永四丁亥年九月四日

四拾壹 淺草の五ヶ所の古額

一、東武淺草寺の観音は、上にいへるがごとく、武城にての古跡、殊には境内廣く南北五町東西四町餘ありて、古來の品物若干現在すれば、明細に見盡し難し、爰に僅に五ヶの古筆を明すこと、左のごとし、

- 一、金龍山といえる額は 竹の内の宮良恕法親王の御筆、
- 一、淺草寺といへる額は 曼珠院の宮二品良尚法親王の御筆、元祿五壬申九月御下向、
- 一、観音堂の額は 大明福建漳郡龍邑徐紹勳立筆、元和九癸亥年孟春穀旦書とあり、
- 一、常念佛堂の額は 大明院の宮廣辨法親王の御筆、
- 一、施無畏の額は 肥前の國長崎玄岱の筆、

右の外諸堂社及び花表門々等に名たる、中古の筆者凡八十五品ありて、逐一しるすに暇あらず、況や建碑に於ておや、

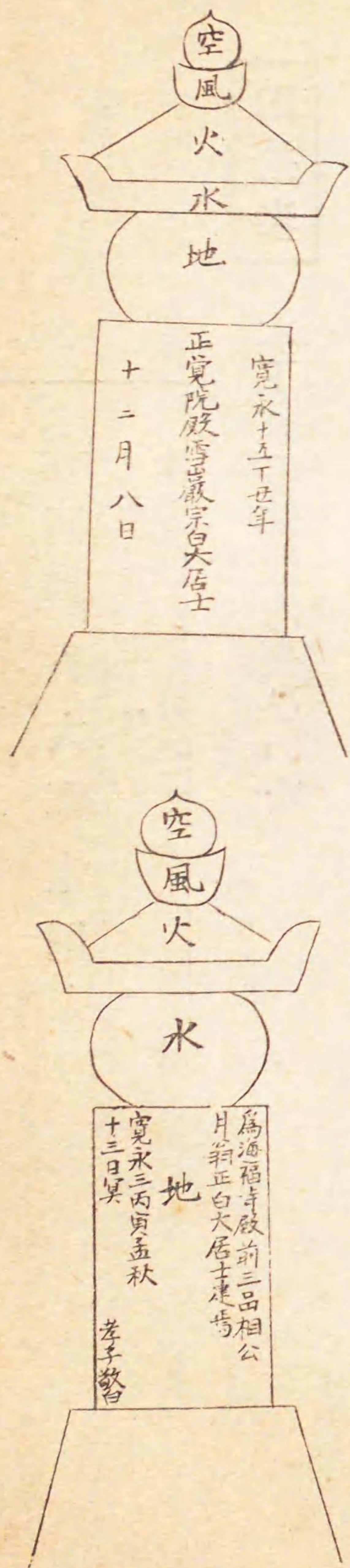
一、観音堂の左の方の柱に、むかし又八といふもの、大指の跡とて長さ壹寸餘幅八分餘、○ かくの如く棗形に似て、貳分ばかりくぼみたる處あり、此鎌田又八といひしものは、勢州松坂の産れにて、寛永の末より延寶の頃まで江戸本町に住し、秋より春までは絹をひさぎ、夏は奈良近江などの晒布を商ふを作業とせしとぞ、此もの聞ゆる大力にて、或年居馴れし居室を仕舞、他町へ引越けるに、車、長持、戸棚、持佛堂、曲突、米櫃、味噌樽、糠味噌桶までを一荷にからげ、大八車にも積べき品く

を、自身に脊負家移りしけり、凡其力量三十五人にも倍せしとん、此又八が親指の腹にて、押たりし跡なりといひ傳へて、今に存ず、

四拾貳

福島左衛門太夫正則の墳墓

一、東武芝三田平等山正覺院 曹洞に、福島左衛門大夫正則の墳墓あり、むかし豊臣家恩顧の諸侯なりしも、世變り年移りて今古墳の容體何となく懷舊少なからず、海福寺殿といふは正則也、正覺寺殿といふは正則の次男、春同妙香尼は正則の女なりとぞ、末の世の今は、福島左門山名靱負留島伊豫守の三家より付届け吊ひありとなん、墳墓左のごとし、



寛永九年

春同妙香大禪定尼

正月三日

四拾參

木下家の絲櫻内裏ひいな

一、東武麻布廣尾木下肥後守の上やしきには、毎年三月朔日より十日まで、さくら見物として諸人を許し入て見せしむ、その場所は廣庭の真中に一株の櫻の古樹あり、高さ凡六七丈幹の太さ三抱餘、枝の四方へ垂茂せし事二十八間づゝ、絲櫻にして花やさしく色又うるはし、此樹一株にて大方に廣庭を覆ふ、遠くしさりて見れば更に花の山の如し、枝又悉くしだれておのゝ枝先へ手届けり、故に來集のもろ人矢立取出し、こゝろくに腰折など申捨、懷紙にしたゝめ結付るもありけり、武城の内にかゝる大木の絲さくらある事なし、此外に廣庭の中には連翹檜の樹など二三株あるばかり也、男女押合へし合群集して見物す、但し庭口の門に司役の若侍出張して、銘々の腰の物を預る事也、

一、廣座敷に毛氈を敷詰て、むかし太閤殿下より淀どの、拜領ありし、内裏ひいな壹對をかざり置てもろ人にみせしむ、大さ人の座したるよりも大さし、雛の装束はその頃の時代金欄にして實に賞すべし、總てひいなの大さ成は凄涼ものなるに、容貌柔和にかわゆらしき古今に獨歩せしは、名たゝる雛屋の作りしものならん、此壹對の雛にて三間半のざしき大方にふさがれり、後世の今は高さ八寸の内裏雛の外はひさぐ事なし、豊臣殿下の時代は花麗に、人氣も寛活と思はる、嗚呼世の中のかたりたる事を、

四拾四

千住掃部宿徳しまやの林泉

一、武州足立郡千住掃部宿徳島や忠左衛門といふは、穀問屋にして往還をまたがり兩側に、地面を所持し土地に名たたる者也、忠左衛門年七十六歳六根ともに壯健にして年よりは大に若く、俳名を子讓といえり、和歌をたのしみ謠をなぐさみ、手跡も又拙なからず、よみ置し短丹數多ある中に、述懐をよめりし歌あり、自身にもホトくと懷舊して清談しけり、

思ひやれし人あまた先たて、残るわか身のこゝろほそさを

子讓

忠左衛門が、居やしき間口二十間奥行九十五間庭三ツあり、居間の庭は黒朴とかやいふ石夥しく、取集めて見上るばかり山を三面に築き、楓の樹を石の間くに植込、又諸木を蒔込、泉水には橋をわたしたる風情一品にして面白し、斯て子讓は先に立ちて案内し、その次の庭へ同道せしに、右側にはしだれざくらの古樹、十四五種を繼わけし楓の樹は、以前上覽もありしとなん、同所に牡丹の花壇あり、

右側には柿の大樹二三株廣庭を覆、又葡萄棚は細流れの形に長さ凡八九間、此下の小橋を涉り萱門を過て、三ツ目の林泉にいたる、左に敷寄屋に似たる屋敷あり、幅七間奥行間南面に作り、造作の摸形約かにも綺麗に、此椽側に腰かけつゝ、庭上の風景を眺望すれば前に泉水あり、飛泉口には水車を仕懸、古木の松が枝の溶りて水面へ横はれる、又は諸木の振よく菫込たる風情一品ありて面白し、又東北の方には山を築き、高さ凡二三丈、奇木怪石を以てし、此處に登臨し見わたせば、向ふに氷川明神の社より遙に綾瀬川の流れ、北は渺茫と取はなしたる耕地を望み、風景天然にして佳興いふべからず、斯て山を東へ下れば、小砂利敷たる流れありて更に澤の如し、右の方に藁屋に似たる一亭あり、これ書齋と見ゆ、此處流の中の飛石をつたはりて往來す、恰も仙境の思ひあり、頓て子讓は此處の枝折戸を推ひらけば耕地の往來也、これより氷川明神まで凡貳町餘、左側の圃は見はたす處、みな徳しまやの地面となん、くはへぎせるにたばこ吸ながら、氷川の神社に逍遙し、爰にて子讓に暇乞し堤へあがりて立わかれき、町家にも手を盡せし林泉世上に間ありといへども、居やしきの奥行九十五間に林泉二つならべ、しかも三ツながら風景おのゝ異にして、日々庭作りと覺しき者二三人づゝ懸り居て、或は菫込し又は掃除し、木の葉一枚も落散ず掃目の地上に残りて、綺麗なるはめづらしくも又心よし、かならず芽吹の頃は來よがし、取分楓の芽出しのうつくしさ、三月節句前後はかならず待どとありしまゝ、翌春は遠山瀾閣館幡里など誘引つゝ、谷中法住寺又感應寺の花見より、千住の大橋の

眺望も又面白く、橋の長さ七十間水隈のさくら、菜圃の花ざかりも又一品にして、頓て子讓が宅へ罷り、楓の芽吹に良なぐさみて時を移し、今宵は離れざしきに一宿せよなど、奥底なく取はやしけれど、三人ながら泊るもいかゞ、且は聞およぶ淺草馬道眞珠菴の林泉をも見んものと、よしなに暇乞して立出ぬ、夫より打解て心やすく、その後も兩三度罷りて清談し遊べり、されど市中にして林泉の廣く、泉水に船を浮べ出島あり、又ところ々茶亭もありて、庭中を廻りて風景あるは眞珠菴の庭なるべし、眞珠菴といふは京都小室の御所の出張とかや、僧房の住居廣く普請の仕方又一品なり、庭は通傳を需めて見物すべし、左はいへ徳島屋忠左衛門が居やしきは、上にいふことく間口二十間奥行九五間なるを、表の方店と住居に少々建坪し、残りほみな林泉に作り、而も三ツならべて所持し、もろ人の聞つたへ來て見物するをよろこび、且はめづらしき人に出會して清談するを、己がたのしみとせり、いろくの人心ぞいと面白かりき、

四拾五

深川成等院中紀文が事實

一、東武深川道本山靈岸寺塔中成等院淨土は、江戸に美名を傳えし紀文が菩提所也、過去帳に歸性融相信士、享保十九年甲寅四月廿四日、紀伊國屋武兵衛としるせり、左はいへ家名斷絶し一門悉く退轉して、今は無縁となれば、いつ頃にか石塔を廢しけん、成等院持の卵塔場三ヶ所を明細にたづねしか

ど、さらに墳墓なし、予思ふに世の人みな紀伊國屋文左衛門といひ傳ふれども、過去帳には武兵衛と記せしを見れば、初は文左衛門と號し、後に深川へ轉宅して、武兵衛と改名せしもしるべからず、又按ずるに本名は武兵衛なれども、紀武とはいひにくければ、自然と反て紀ぶんといひ倣はしたるものや、傳え聞元祿寶永の頃までは、材木問屋にして大に富、本八丁堀三丁目總て壹町はみな紀文が居宅なりしとかや、その性質活達にして曰く定式疊さしども、七人づゝ招き疊をさゝせけり、居宅の廣さを察すべし、或年新よし原揚屋町いづみや半四郎方にて、年越の夜退儼のあそびするとして、升マスに小粒金を入、鬼打豆の戯れして興ぜしとなん、依てその頃は紀文大盡と稱しけるとぞ、正徳の頃は家事大に衰へ、深川八幡一の花表の邊に住し、享保十九甲寅年四月廿四日家に病死しけり、俳諧をば其角に學びて千山と號し、又書畫を能す、邂逅ダマシカに今書讚等世上に散在せり、家名斷絶すといへども、東武に美名を傳えて江戸の花とす、近年には紀文に半及ナカダばすといへども、御藏まへの文魚などその名高し、大和屋九郎次といふ是なり、

四拾六

山田淺右衛門が千人斬の供養塔

一、同寺内に山田淺右衛門、御仕置者千人を斬て、後爰に石碑を建立し、千人の亡靈を吊ひし供養塔あり、高さ六尺餘ナレ己れが積惡によつて命を墜せば、司役の人々の私にはあらねど、多年の間の首切役な

れば、死後の怨恨凝滞して自然に、その身は勿論家族に報ふに依て、現報を減せんが爲に、爰に供養塔を建置り、石碑の摸形左のごとし、竿石の三面に名號を彫付たり、此碑成てより文化十二己亥年まで百六十三年に及ぶ、

(梵字) 南無阿彌陀佛 大譽眺願主念譽稱入大徳

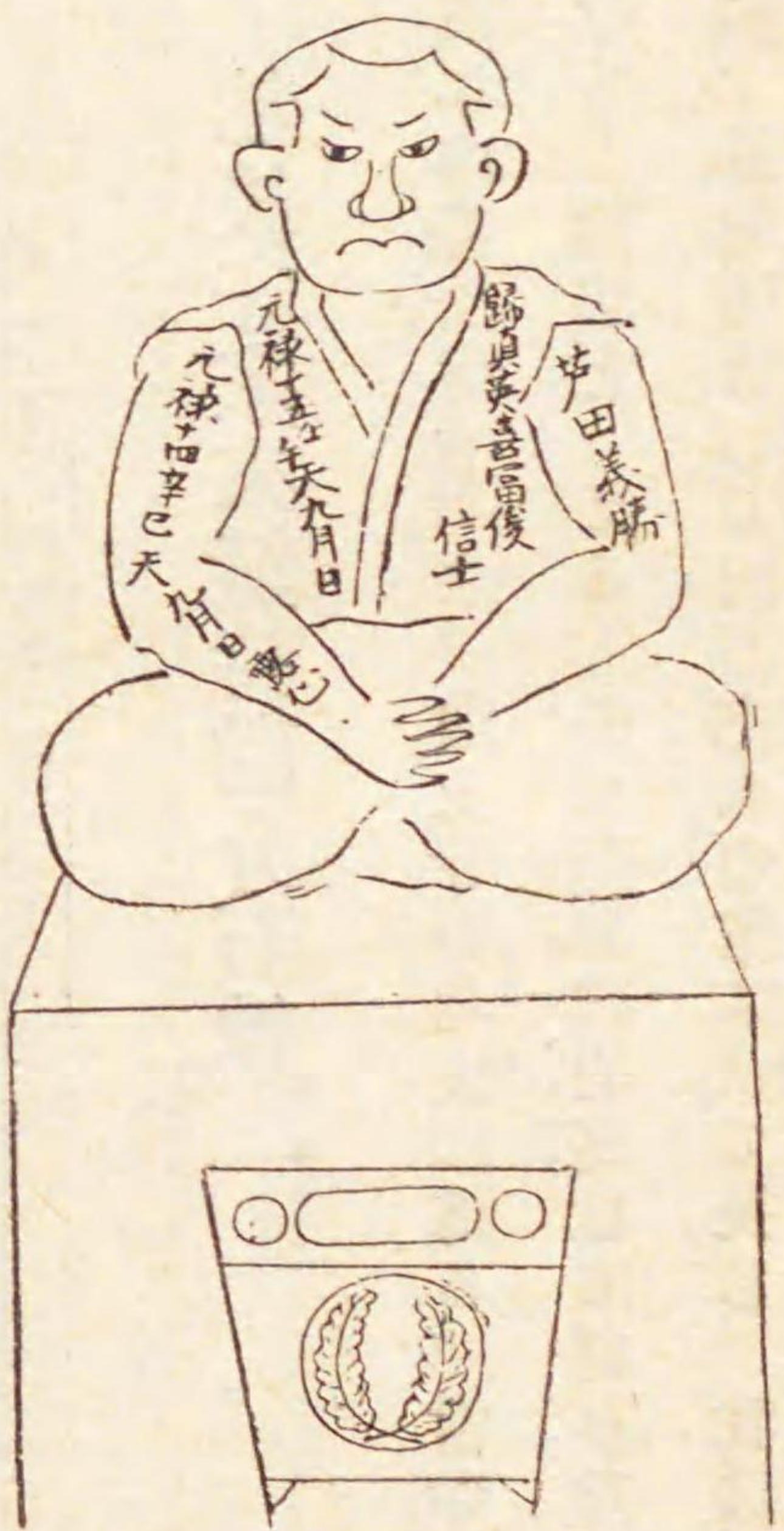
三世大譽上人承應二癸巳曆九月一日

四拾七

越後守家來鎗持勘介石像

一、東武芝愛宕下萬年山青松寺曹洞は、増上寺の北後に隣る、當寺に元祿年間松平越後守從四位少將源シノブミの宣富の家來、鎗持の勘助といえるものゝ姿を、活寫イキカッして刻みたる墳墓あり、此由來は越後守の鎗は勝れて長かりしが、勘助遺言して曰、主人の鎗は至て長し、我は生涯持たれども後の人には難儀なるべしと、鎗の柄を三尺ばかり伐折て切腹し相果ぬ、依て勘助が仁勇を感じ形相を作りて墓印としたる也、夫より以來越後守の持鎗の柄はみじかく成しとなん、しかるにいつの頃よりか鎗持勘助が石像は、腰より下の病ひを祈ればかならず奇瑞ありとて、此墓前に來りて願込し、病氣平愈をすれば、竹

筒に酒を入れて備える事となりぬ、今は小さ柱を建屋根を葺て雨露を覆えり、しかしながら上にもいふごとく、病ひにはくすりあり醫を以て療すべし、薬用なりがたき非人體の類は格別、その餘の人何ぞかやうの類ひのものに念願せん、盲昧にしてまどふに至りては論なし、墓形左のごとし、



四拾八

樹木谷覺林寺の清正の肖像

一、武州荏原郡樹木谷最上山覺林寺日蓮は、二本榎の北二町にあり、當寺に加藤肥後守清正の畫像あり、是は清正存生に自身の影を寫さしめ、親族加藤彌兵衛正親といえる人に附屬せし束帶の肖像也、正親の子孫相續して今も肥後の國熊本にありとなん、此家より近年當寺へ納めしとぞ、

一清正朝鮮國より文通せし書付數通

壹卷

一日延といふ僧の筆曼陀羅

壹幅

一日遙といふ僧の筆曼陀羅

壹幅

一清正朝鮮國よりの起請文の寫

壹幅

是は或諸侯の家に傳來せしを敷寫しにしたるもの也

一、清正むかし朝鮮國王の皇子兩人を擒にして歸陣せり、壹人を臨海君と號し、今壹人を順和君と申けり、清正此二太子を日本へ連れ來りしが、後年順和君は出家受戒して日遙と號し、肥後熊本の本妙寺の開山となりて一字を建立し、寺領三千石の寺主となり、又臨海君は安房の國小湊村誕生寺十八世の住職となりて、日延と號し老年にいたりては、東武樹木谷に庵を作りて隱居し住り、今の樹木谷覺林寺これ也、その後元祿年間山號と寺號を給はりて一ヶ寺とはなれり、例年六月廿四日は清正の祥月なれば、清正公の祭りと稱して聊祭禮の規式を取行ふ、清正の院號を淨地院殿永運日乘神儀と號す、即ち細川家より年々祭禮の扶助ありとかや、又例月廿四日は朝巳の刻まで、清正の像を開扉してもろ人に拜せしむ、清正の墳墓及び社は壯麗に作りて、墳は熊本本妙寺に現在し、社をば城下町に造營して、例月廿四日は一國の人群參して、清正公の宮と稱し、擧て崇敬する事となん、

四拾九

宗參寺中牛込氏の墳墓

一、東武牛込辨天町雲居山宗參寺曹洞は、榎町濟松寺西南貳町にあり、當寺の表門に掲し第一義と横に認めし額は、心越禪師の筆にして、東皇越杜多と記せり、當寺境内甚奥深にして門より本堂まで凡壹町餘、古松兩側に繁茂し日の目を見ず、此寺に牛込氏代々の墓あり、先祖は上野の住人大胡太郎重俊の歴世のよし墳墓に見ゆ、されど樹下の雫の苔むして長き銘は暎とは見分がたし、宮内少輔重行武州豊島郡牛込に住し、その後勝行の代にいたり北條氏康に屬し、十萬餘石を領し地名を以て氏とすと云々、今牛込といふ地名は、此牛込氏のむかし住し土地なりとぞ、その子孫御旗本、今に小日向龍慶橋通り諏訪町へ入角より牛天神廣小路の角まで、一構えに居やしきする、牛込彦次郎これ也、

貞享四丁卯年

時樂院殿藤原重恣大居士

十二月九日

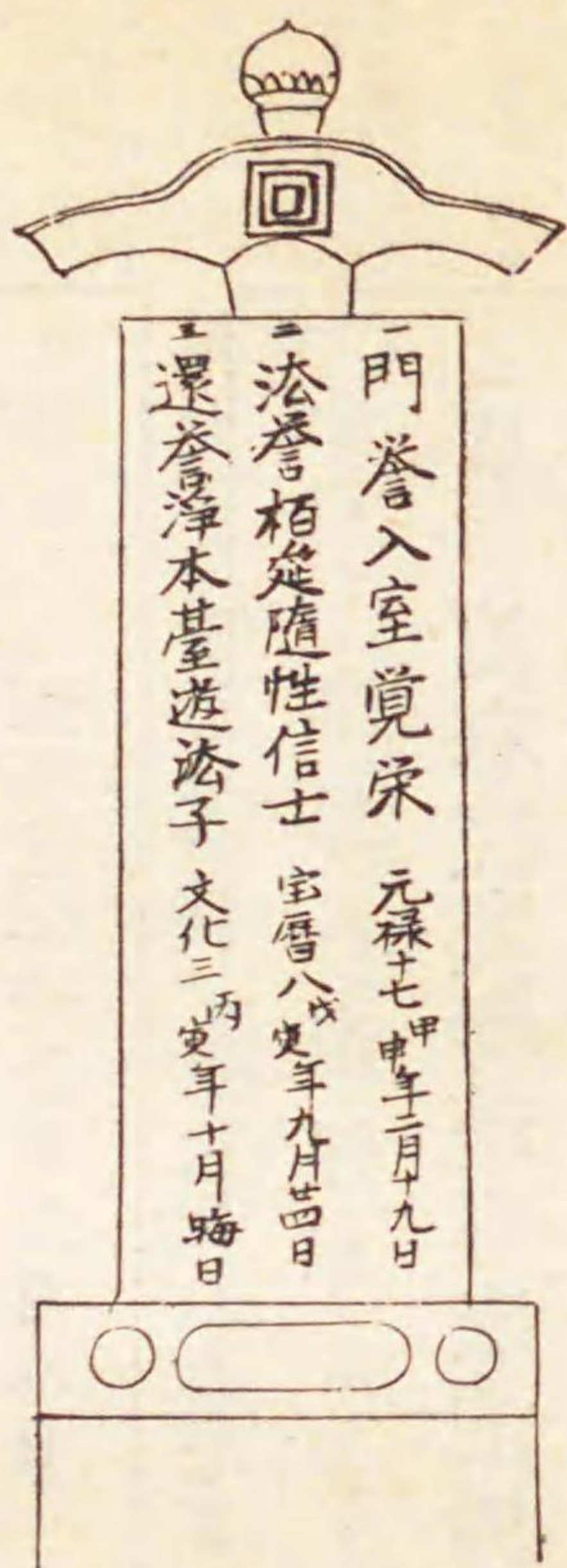
五拾

市川團十郎家の代々の墳墓

一、東武芝増上寺常照院淨土は、世俗みなアカン堂と稱す、爰に火炎地藏といふを安置して秘佛と

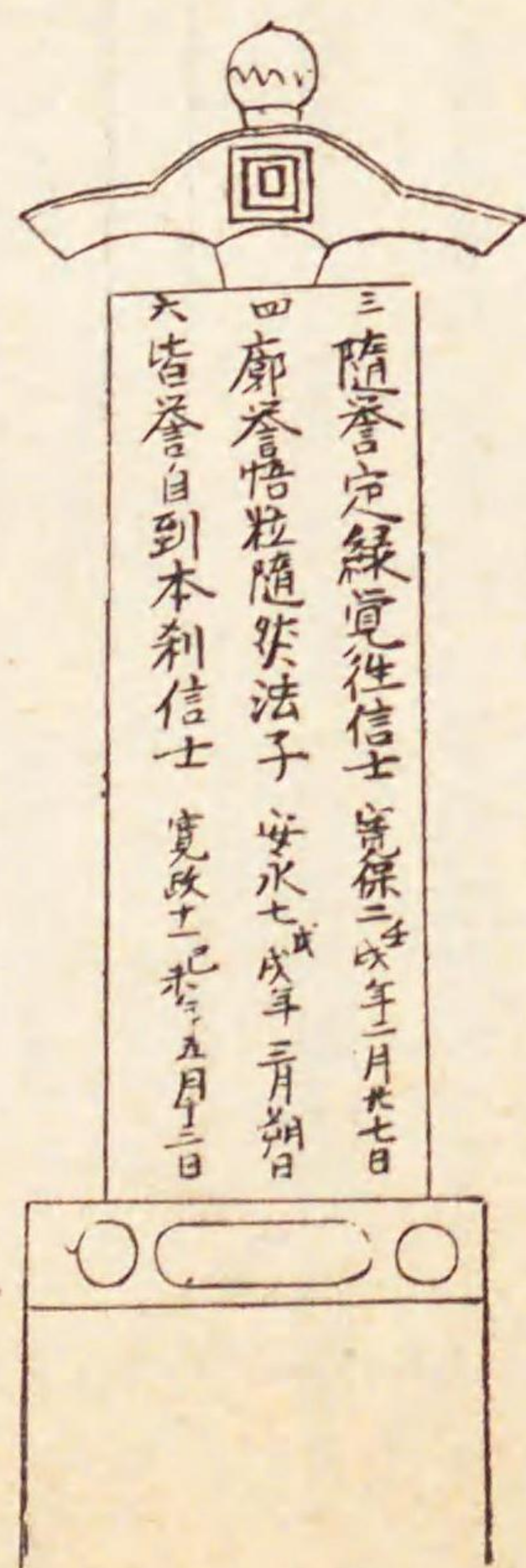
す、又當寺に俳優市川團十郎代々の墳墓あり、元祖柏筵は元祿十七二月十九日七十一歳にて死せり、石碑の後に俗名市川團十郎と刻し、右の横に辭世の歌を鍛付たり、左の如し

終に行みちとはかねて芝海老を
はからせ賜へ極樂の升 拍筵七十一歳



右の標に辭世

極樂も哥舞の大鼓に明からず
いまより西の芝居へぞゆく 悟粒



左の横に病中の吟有 花道のつらね
福地より無福地へかへる沙婆なれば
今しばらくのうき世なりけり

戒名の上に數字をしるせしは、團十郎が代々の順を予がしらしめたる也、

五拾壹

佐々木玄龍文山兄弟の墳墓

一、同所同寺地中淨運院淨土は常照院の向にあり、當寺に寶永正徳の頃東武に名高かりし書家佐々木玄龍兄弟の墳墓あり、碑の銘に曰、先生、姓源佐々木氏、諱臥龍、字文山、以字行于世、玄龍之弟也、

と云々、名は襲墨花堂オシボクカドウと稱す、通名は百助、西の窪に住して入木道に名高かりき、性質甚酒を好み銘酌すれば、一入筆力妙なりしとなん、その頃は益道玄龍文山の三人を東武の三書家と取はやせり、今も佐々木百助と號し、松平讃岐守藩中に子孫ありとぞ、彼兄弟の墳墓左の如し、

享保二十年乙卯五月七日

(紋) 流芳院發譽黑花文山居士

示現院植譽徳本文源居士

天明元年辛丑年九月八日

享保八辛卯年

(紋) 領春院奥譽琉靈玄龍居士

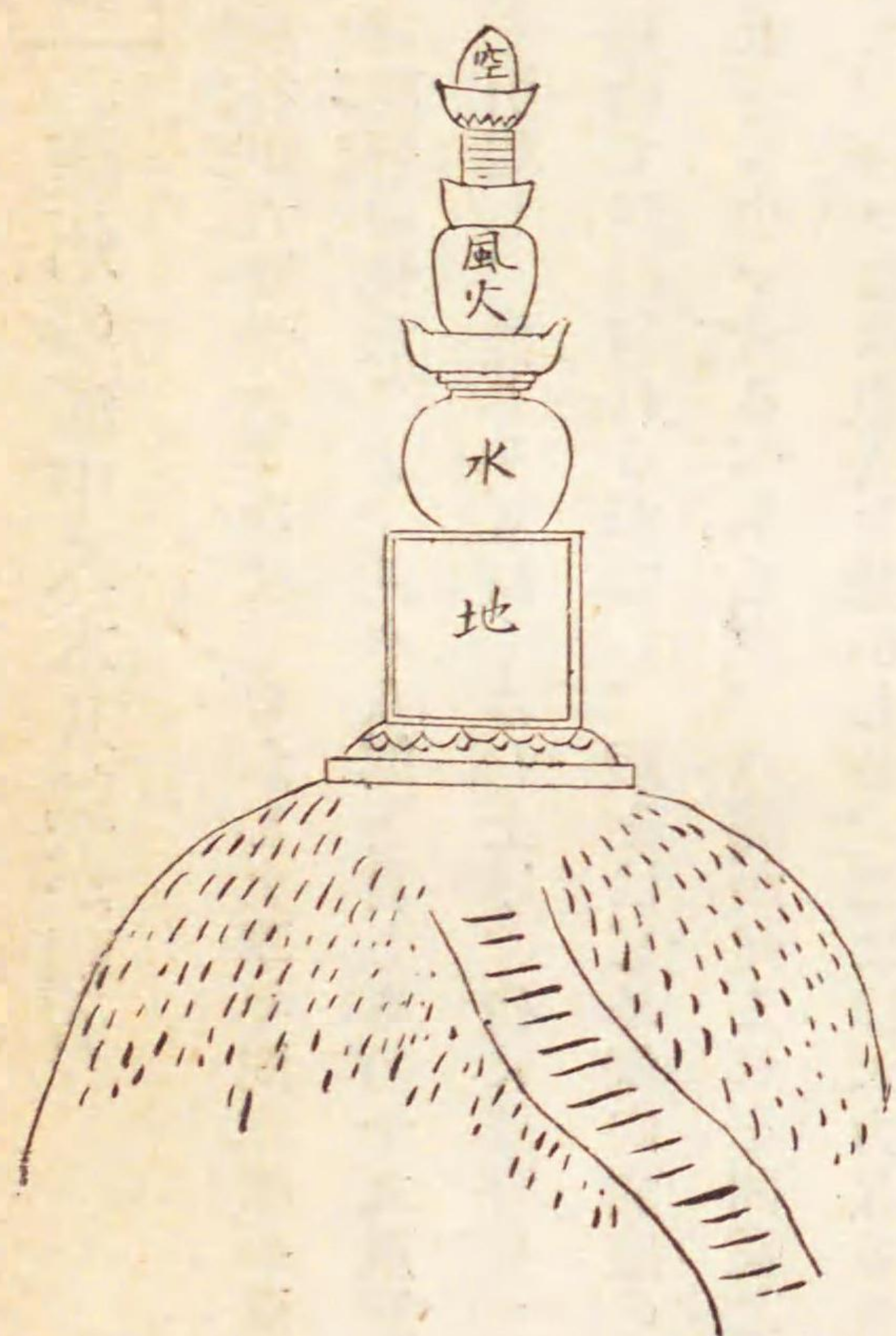
二月二十二日

五拾貳

聖坂功運寺渡邊綱が古墳

一、東武芝三田ひぢり坂龍谷山功運寺曹洞境内に、綱が塚といふものあり、相傳ふ、むかし源の頼光

卿に任せし、渡邊源次綱が墳墓なりとなん、予按ずるに、武州榛澤郡鴻の巢の驛と熊ヶ谷の驛との間に、箕田村といふところありて、箕田源次綱が出生せし土地ぞとて古跡残り、しかるに今東武の此寺に塚あるは如何、もして三田といへる地名に泥ヌみて作り設セふけしにや、真偽しるべからず、豊島郡豊島村に梶原塚などあるが如し、識者の後勘を願ふのみ、又三田ひぢり坂トキ土岐美濃守下やしき龜塚といふありて、例年二月初午の日世上の人を許し入て見物なさしむ、同じく腰懸岩といふものあり、或は又龜塚の観音は同所濟海寺にありて、むかしは龜塚の上ウにありしとぞ、依て此邊を總て龜塚ともいふよし、前にいふ綱塚の摸形左に圖するが如し、



五拾參

薩州の藩中八木八郎が強力

一、東武芝高輪泉谷山^{センゴウザン}大圓寺淨土中に、むかし貞享年間、松平薩摩守藩中八木何某といふ人の息^{シツ}甚剛力なりしが、中將繼^{ツグトヨ}豊の代かるとよ、八木八郎と言しもの十九歳腕試し力自慢の咄しに及びたるが、廣庭大石を軽く、と引起し、目よりも高くさし上げ、後には脊負て或は飛^{トビ}上り、又は走りしは、風呂敷づゝみ様の物を脊負て狂ひ戯れるが如し、殿をはじめ側向満座の面々、舌を震ひ只奇怪の思ひをなし、怪力の分量いかほど、中々量るべからず、八郎が父これを聞嘆息して曰、力は用ふる時あり、しかるに益なき所として、一ツには主人を驚かしめ、二には大力なるものは、己が剛にほこりて、多くは害を招く、勇士とはいふべからず、世^{セガレ}伴^{トナリ}が生長^{シヤウキヤウ}を見るに、家を亡す事もあらしと手討にし、その時脊負し石を以て墓じるしとせり、左の如し、

高さ九尺餘 厚さ七寸餘

貞享三丙寅歲六月十七日

正山常眞庵主

薩州生緣行年十九歳八木八郎

トのセン五尺餘

右石は根府川に似たる産れの石なり重さ凡七百貫目余、

一、同所に琉球國の醫師何某の墓あり、薩摩のやしきにて身まはり爰^{コゝ}に葬^{ムス}せしと見ゆ、墳墓左の如し、

琉球國

文化三丙寅十二月二日死

正使三度使醫役比嘉親雲上吳承恩舒昌之墓

法名環中院靈峯養仙醫士

五拾四

專稱寺の開山三光院求向善尼の墳

一、武城麻布櫻田町一向山三光院專稱寺淨土は、開山三光院比丘尼の建立也、此尼は織田上總之助信長公の婦筒井伊賀守順慶の姪^{メイ}なりしが、尼となり芝増上寺十六世の住職深譽の弟子となり、菴をむすび此處に閑居し、終に寺とはなれり、開山の石碑左のごとし、

寛文三癸卯年

三光院殿深譽清心求向善尼

九月十三日寂

五拾五

越ヶ谷の驛鹽屋吉兵衛の饗應

一、武州埼玉郡越谷の驛池田吉兵衛は、本町北側に家居して、通名はしほや吉兵衛と呼り、當驛に名たる豪家にして田地五百餘石、燈しあぶらをべ、又はよろづの鹽の間屋たり、居やしきは廣く間口五十餘間奥行三町餘、裏の中路に至りて一圓に見わたす。耕地悉くみな吉兵衛が田畑とかや、土藏兩側に建ならびし事三十餘庫、みなおのく幅三間奥行五間より小ささはなし、なを又文庫ぐらと覺しきは住居につきて四ツ五ツ見ゆ、家居元より廣く見およぶ、座敷の間數凡十二三、家内のくらし五十餘人、予草加の驛の市野屋が竹庭より竹輿にゆられながら巷談を聞に、越谷の驛新町中町本町大澤大房と次第して、長さ二十六七町の間の豪家の壹人といふよし也、爰に池田三鼎は、吉兵衛とは元より家附の親族にして、彌生のはじめより鹽吉方へ罷りしが、流石田舎人のめづらしくや、彼方此方より聞つたえて書書きて賜はれと、紙襖衝立振押和巾扇面の類ひまで持掛くたのひ程に、後には歸郷の句を取失ひ、晝夜畫筆のみ持つてけるにぞ、殆困窮し、館萬里と愚者とへ飛脚を差越、何卒土地道遙ながら迎ひに來賜はれかしと、しみくとの文通ゆへ、見物ながら兩人罷らんとせしが、爰、山又遠山潤閣翁は去冬霜月野島村の地藏尊へ詣て安産の守を請しが、程なく嫁たる人安くと平産せしま、件の守を納めたく禮參せばやなど兼々咄しもありし程に、誘引ければ忝なしと旅用意し、三人申合せ不束の土産など携えて、頃は三月廿日谷中感應寺の花の出茶屋にしばし憩ひ、路傍なれば千住掃部宿なる子讓へ音信けるに、青木一夢翁は何れにてや聞出しけん、徳島の宅に待合せ居て、越谷の鹽吉方へ同道しくれよといはるゝにど、元來は萬里と予と兩人を名ざし越たれば、潤閣翁を伴ふさへ先方へ氣兼ねのなきにしもあらず、又候や壹人同道の殖てはいかゝあらん、萬里も余もはじめて罷り、吉兵衛の居宅といひまだ吉兵衛は見し人にはあらず、家内の思はく氣のとく山くなれど能く老人の一緒に連立行度やありけん、延慮にも及ばず沙汰さかちると、そのまゝ千住まで出かけて待合せし心根も捨がたく、是より旅行四人づれとなりて徳島屋を立出ぬされば、千住より越谷まで行程四里半、その途すがら櫻梅桃李の花になぐさみ、又は菜圃の眞盛に目覺る心地し、風景に浮れ眺望に引れて歩むともなく、草加の驛の出はづれなる市の屋の酒樓に宴をひらき、是より竹輿にゆられながら鹽吉が軒端に乗付たりし、斯て鹽屋の座敷へ通れば家族は勿論、山鼎もホタ／＼悦び、書溜たりし書畫を見せつゝ、是より互に請談に時をうつす間に、黄昏におよべば間毎く燭を照し、良曲りて幾間

の句を取失ひ、晝夜畫筆のみ持つてけるにぞ、殆困窮し、館萬里と愚者とへ飛脚を差越、何卒土地道遙ながら迎ひに來賜はれかしと、しみくとの文通ゆへ、見物ながら兩人罷らんとせしが、爰、山又遠山潤閣翁は去冬霜月野島村の地藏尊へ詣て安産の守を請しが、程なく嫁たる人安くと平産せしま、件の守を納めたく禮參せばやなど兼々咄しもありし程に、誘引ければ忝なしと旅用意し、三人申合せ不束の土産など携えて、頃は三月廿日谷中感應寺の花の出茶屋にしばし憩ひ、路傍なれば千住掃部宿なる子讓へ音信けるに、青木一夢翁は何れにてや聞出しけん、徳島の宅に待合せ居て、越谷の鹽吉方へ同道しくれよといはるゝにど、元來は萬里と予と兩人を名ざし越たれば、潤閣翁を伴ふさへ先方へ氣兼ねのなきにしもあらず、又候や壹人同道の殖てはいかゝあらん、萬里も余もはじめて罷り、吉兵衛の居宅といひまだ吉兵衛は見し人にはあらず、家内の思はく氣のとく山くなれど能く老人の一緒に連立行度やありけん、延慮にも及ばず沙汰さかちると、そのまゝ千住まで出かけて待合せし心根も捨がたく、是より旅行四人づれとなりて徳島屋を立出ぬされば、千住より越谷まで行程四里半、その途すがら櫻梅桃李の花になぐさみ、又は菜圃の眞盛に目覺る心地し、風景に浮れ眺望に引れて歩むともなく、草加の驛の出はづれなる市の屋の酒樓に宴をひらき、是より竹輿にゆられながら鹽吉が軒端に乗付たりし、斯て鹽屋の座敷へ通れば家族は勿論、山鼎もホタ／＼悦び、書溜たりし書畫を見せつゝ、是より互に請談に時をうつす間に、黄昏におよべば間毎く燭を照し、良曲りて幾間

や趣けん、離れ座敷へ案内し、酒宴にぞおよびける、しかるに調味数を盡し道具組の器物おの／＼善盡し美盡し、殊には海江の鮮魚、山陸の珍物残る方なく、八百善さんは樓ものは庖丁の切目正しく、取替引替種々の好味の品を双べしほどに、さしにも廣き席上も食物ならずといふ事なし、跡にて聞けば兩度まで早馬を仕立日本橋本舟町まで六里餘の道を往返ともに走らせて、もろ／＼の鮮魚を買上しとなん、その外土地にも名たゝる利根川の鯉をはじめ、鮒鰻鯉の類までも切形を異にし、煮様を巧にせしまゝ風味等閑の事にあらず、爰に石河左京とかやいふ醫師來りて、席上を賑やかにし、又は男藝者とかや兩三人來りて三絃を彈今様を唱ふ、その淫聲絶にして愛すべし、爰に於てあるじを初め同道の人々みな興に入、元より酒長じちの／＼酌酌せしまゝ、件の醫師たる人も似も付ざる、俳優の聲色をあやどり、萬里は茶番に似たる躍りに興し、青木一夢は七十の歳をもわすれて、相馬の陣木挺とかやいふ物真似して、明日の旅行の腰痛を厭はざるもおかしく、席上漫興となれば果しもなかりしが、頓て鷄鳴寺／＼の鐘聲に漸く盃納まり、おの／＼臥處に入ぬ、その夜の馳走容易ならぬ事ながら、酒闌にして人沈醉せしまゝ、席上長く、予と瀾閣翁は下戸といひ六里餘を來し草臥出酒宴のかたはらに小夜着打かふり臥さんと幾度かすれど、人々の聲の大き躍りの足拍子に枕も共に躍動きて、寅の刻過るまでねふりもやらで、人々の馬鹿盡すを見つゝ居たりしは、實に憂く覺えて今に咄の種とする事になん、左はいへその夜の饗應翌朝の馳走、風呂屋の湯加減おの／＼に着せし夜具の一對まで、行届

きたる、今に語り出して賞する事にぞ、但しあるじ聞ゆる馳走好にして酒家なれば、はじめて東武よりの珍客もてなさばやと、心一盃に善美を盡したるか、又は驛路の片鄙といへども争か東武に劣らざらんと氣性を見せたるものか、いまだ興盡ず、あるじが馳走の含ありしかと、山鼎をしとめて止さしとぞ、斯て四人ながら臥床に入、明日は早く出立し山鼎をも同道せん、殊に野島の地藏尊も、明日より居開帳なれば見物して、岩槻邊を逍遙せんか、但し利根の川縁なる二十五里村の桃園は、一里四方みな桃林にして此處より路すがらは、松伏村堰わく通りの耕地尤よろしく、大相模の不動尊へ詣ててか、是より行程凡三里あるべし、いづれにやせんなど、相互に咄しながら臥ぬ、斯て明ぬれば三月廿一日、大師の御影供なれば、埼玉郡末田村島の金剛院密宗は、野島の地藏より岩槻へ通行する路傍にして四五町、これに御影供の法要ありて賑ふよし、野島の開帳へ參詣して、金剛院へも立寄ばや、岩槻の城下を一見し、角浦の淨國寺へも詣でなんと衆議一決し、そろ／＼身拵する折から、朝飯の振舞持出ぬ、膳椀みな宗和の根來塗にして二汁七菜なり、所謂鯉の差身鰻の長焼鯉の泥龜煮の類、海魚には鯛鮮鮑鱸海老の類手を替しなを替、切形煮方までこゝろを用ひしは、いか成料理人にやありけん、鹽梅一々賞するに堪たり、斯て各喰終り色めきわたりて中庭より直に勝手に廻り、暇乞して立出んとするに、あるじは勿論家族家來どもまで一同に立ふさがり引留、野じまへ參り賜はゞ舟にて送りまゐらせん、我も同道し見送ながら罷らんと留らるゝにぞ、過分とはいへど又候や、船中酒長じ遅刻

して岩槻へも越へず引戻さんは必定也、心入忝なしとはいへど振もぎりて打立んものと、達て離別に及んとすれば、あるじ少しく逆鱗し最早舟を用意し置り、今辨當の拵るべし、我心くばりを無にし賜ふは聞えがたし、但し舟嫌ひとあらば竹輿にて送りまいらせん、いづれにも歩行はせじと、家族一同前後に立ふさがり、袖をひかへて引留むるにぞ、惣客の思わく流石にも黙止がたく、しからば兎も角もと座敷へ通り、一つ二つ咄する内舟とのひぬ、乗賜へと案内につれて、中庭より北をさして居屋敷の中をゆく凡三町にして、耕地の中路にいたる、是より西の方數十歩に堤あり、堤の下に江河あり、川幅凡三十餘間清泉漲り流る、西岸川添の風景天然にして眺望又いふべからず、爰に舟二艘を繋り、一艘には天幕を張毛氈敷詰たるはわれらが馳走の舟也、次の一艘には膳椀皿砂鉢をはじめ萬の器物及び諸々の魚鳥野菜の類、酒も龜屋の菊とかやいふもの一樽を積入、今一艘は曲突鍋釜炭薪生膾板をはじめ料理人小使船頭の類五七人乗れり、時刻は暫く巳の刻に及ばんとするに、目の下壹尺七八寸にも及ぶ鯛より種々の海魚又品々珍らしき青物類若干積入たるは、夕べ午の刻よりも本舟町多町の兩所へ、早馬にて買上たるものにてやらん、實に吉兵衛が叔母が配慮假初の事にあらず、斯て瀾閣一夢萬里山鼎愚老又吉兵衛が叔母といふ老女都合六人、件の舟に乗泛て川添の風景、又は橋の上の往來のいろいろの風俗もおもしろく、右を見たり左りをながめ良時移りて清談すといへども、いかゞしてかは吉兵衛の來らざれば、舟に乗泛しのみにて漕出さでありしが、時既に午の刻に及ばんとす、しかるに瀾閣翁

は明日は是非歸宅したき譯あり、予も廿二日には歸らて叶はぬ要用あれば、寂と思惟し見るに、爰より野島まで陸地壹里半、道又平かにして直し、又舟路は溶り曲りて川丈凡貳里、殊更水上へ逆らひ漕揚れば恐らくは隙どらん、猶又酒客のみなれば船中酒狂ありて大方量とるべからず、又野島へ着岸すとも諸客酩酊せは直をに立別れん事成がたかるべし、十が九ツは又同船して漕戻し、吉兵衛方に一泊せん、若又野島にて別るゝとも斯隙取ては、未の中刻ならでは野島へ着がたからん、既に野島より岩槻へ貳里、此處より都合行先三里半あれば暇乞して別るゝぞ能ん、一旦あるじの意に隨ひしはしも舟に乗泛しからは、趣意は立なんと瀾閣翁へ目配して、四人へ暇乞し吉兵衛のいまだ來らざるを幸ひ、瀾閣と予は早くに舟上りし足早に立別れぬ、夫より兩人は野島の開帳へ詣で、末田村の金剛院より路すから眺に心服を悦ばしめ、岩槻の城下町を逍遙し、その日は大門とかやいふ驛に一泊し、翌れば三月廿二日赤山の百観音へ詣で、申の上刻兩人とも歸宅しけり、しかるに越谷より舟にて乗出せし人々は、予が鑑貞のごとく船中ことの外手間どり、野島の開帳へは詣でしかど、未の下刻にも及びしかば又候や、舟にて漕戻され黄昏過る頃、越谷の大橋の際なる酒樓へさゞめき揚りて、又酒蘭に及び、舞子來り藝者を呼漫興大方ならず、子の刻過る頃まで酒宴に長じけるまゝ、前夜篤と臥ざる上に、午の刻より子の刻迄飲つゞけし程に、あの一腹中を損じ或は頭痛を發し氣力勝れず、漸廿二日越谷を暇乞して立出て、その夜は鳩谷の驛けいとくやとかやいふ酒樓を頼みて一泊し、廿三日おのれ

が舎りへぞかへりける、されば越谷にてはわれら兩人暇乞もせて、舟より歸りしを本意なく思ひ述懐せしよし聞ぬれば、その後幸便に禮の狀細々と認め、文の奥に申遣しける、

その土地の様子さうたやほととさす 鮮僧以風

惜ひ哉、吉兵衛豪家の壹人なれど風流を好まず、劍術を好み弓を能して雅ならざるは、玉に鍛といふべし、

五拾六 岩槻の風土城内天守臺の怪異

一、武州埼玉郡岩槻は、大岡越前守二萬石居城にして、千住通り水戸まで九里八町といひ、又岩淵通り江戸まで九里半餘といへり、南北の町長さ凡三十四町東西の町長さ五町餘、されど家並多くは板屋根萱葺にして瓦葺は稀なり、爰に至りしは三月二十一日定式の市日とて堅町の町々賑ひ、別して南北の町筋は、種々の商人大還に店とり廣げ、都鄙の男女立集ふ程に、肆店みな人ならずといふ事なし、予瀾閣と兩人本町とも覺しき食店に立入晝餉して、慈恩寺の觀音は坂東の札所なれば、序手ながら參詣せはやと行程を問ふに、西北の方凡壹里餘といふ、又角浦の淨國寺はと問ふに、凡貳拾八町いづれも又此處へ戻るなりと答ふ、時刻はと問へば未の刻に向とす、殊に在郷道恐らくは遠からんと、歸路を急ぎて止め、されば岩槻の居城は南北の町の上北東の方にあり、平城にして二萬石の高に應じて

は方量廣しといはんか、理りなる哉日光御社參の砌は當城へ入せ賜ふ、爰に城内天守臺は東北の方にありて、今石垣のみ残り、そのあたり只草脊丈に生繁り、更に通路なしと、しかるに若人ありて天守臺の邊へ近付事あれば、忽然としてその人紛失すといひ傳えて、更に叢の近邊を通行するものなければ、草いよく繁茂す、是蝮蛇の所爲かと巷談す、奇怪といふべし、此外隙とりて逍遙せば、城下町にも佛神の古蹟もあるべけれど、歸路を差急ぎぬれば穿たて立出ぬ、

一、城下町を離れて南の方路傍の右側に淨國寺淨土は、十八檀林のその一ヶ寺にして、紅衣檀林となん、又同所龍門寺天台は、林泉の中へ河水を堰入たり、此川野島村の上たり、庭中の風景奇々妙々なりと、遙に行過て後に聞出し見殘したるは最殘多し、近在なれば追々に尋ぬべし、

五拾七 足立郡寺山村留山の鶉鷺

一、武州足立郡寺山村は、岩槻の街道にして大門といふ驛の北凡二十餘町にあり、此邊紀州侯の御鷹場なりとかや、爰に往來より凡見わたす處二三町、東に紀州の御留山と稱するものありて、樹林一際繁茂し竹藪を打越て見ゆ、此界隈みな一圓に山田常右衛門御代官領となん、予此處を通行せし頃は、申の中刻にも及ばんとす、しかるに件の紀州の御留山の森を見れば、鶉の鳥と白鷺の數千萬億樹上に群棲す、見わたす處方二町あまり、一面鶉鷺ならずといふことなく、ガア／＼と喧しく聲近隣に聞

ふ、御留山といふを以て誰追打ものなければ、鳥といへども天然とこれをしりてこゝろを安んじ宿すと見へたり、路傍に干たる雜穀を取入る嫗にたづねれば、五六里四方の鶉鷺みな此林に集るよし語りしが、左もあるべく夥しき事也、東武にては半藏御門と竹橋御見付の間御堀際の樹上に、鶉鷺夥しく枝に宿し尿するを以て、立樹白く葉落多くは枯たる事也、寺山村の鶉鷺の仰山なるはそれに百倍せり片鄙を遊行すれば、いろくめづらしき事を見るものになん、

五拾八

深川六間堀芭蕉翁住庵の舊蹟

一、東武深川六間堀芭蕉菴の舊蹟は、酒店のうらにあり、これ天和貞享の頃松尾甚七郎は、藤堂家の仕を辭し世を避て此處に菴をむすび、近邊の川筋に因んで泊舟堂と名付、芭蕉菴と號し、俳名を桃青と名乗て、住りし草菴の舊蹟たり、又かたばらに池あり、大さ漸く五六間四方、こればせを翁の古池の吟の古跡なりといふ、眞偽の程しるべからず、汀に建し青石は、蛙の蹲踞し形に彷彿たりとて、桃青翁常に愛せし石となん、後年雪中菴蓼太は此石に古池の句を鍛付置ぬ、左に圖するが如し、此方の汀に生茂りし柳は芭蕉翁奥筋遍歴の節彼西行の、みちのくの清水流る、柳影、と詠せし遊行の柳の枝を、翁折來り手づからさし樹にせし一株なりといひ傳ふ、川池の向ふにばせを堂あり、此方には詫たる菴室を構えて、實に市中の閑居といふべし、此菴はむかしばせをより嵐雪に譲りて、今雪中菴四世

完來の持となり、折く、完來をはじめ社中の人々爰に集會し、雅宴をたのしむとぞ、前にいふ石の形圖のごとし、

此の石の裏に彫付て

青石高さ凡四尺計

白妙の雪より出たり後夜の月夜
夜雪庵普成
夕汐やのほれは月のみやこ鳥
雪杉樓龜永
うつろはしくとてちる花か
玉雪軒子交

古池や
蛙とびこむ
水のおと
はせを

安永二癸巳歲四月十二日
深川親和七十三歳書

五拾九

深川六間堀要津寺中佛塚

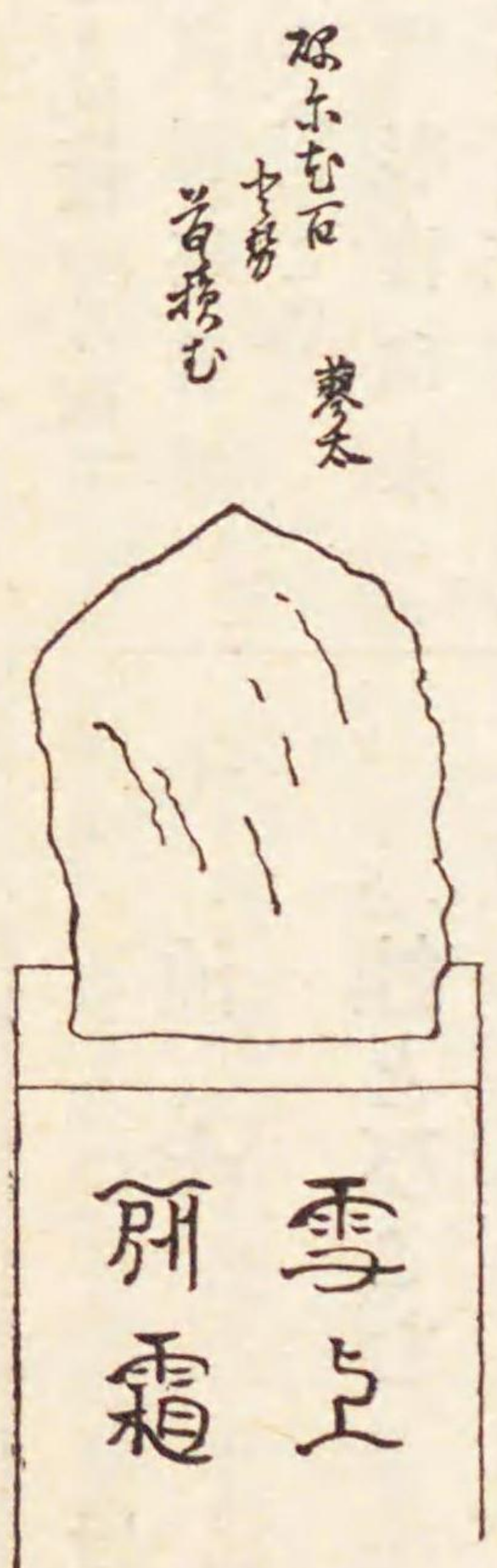
一、東武深川六間堀東光山要津寺ヨウジンジ曹洞は、牧野越中守の開基なりとなん、爰に拍子木地藏といふありて、いかにも古く、むかしは磯際にやありけんと思ゆる石像なり、御長凡六尺程、願懸しもの成就すればみな拍子木を供ず、依て此名あり、されば當寺は雪中菴蓼太の菩提所なれば、爰に芭蕉翁の碑を建て佛塚チモカゲツカと號け、又その左右に銘々の墳墓を營み、後世まで名の朽ざる事を願ひし也、

眞石に作り後に
安永五年丙申六
月蓼太建之と鍛
付たり

御影石にて作る
高さ凡五尺餘
ウラに寶曆十三
年と鍛付たり

前雪中菴嵐雪居士
後雪中菴吏登居士

芭蕉翁佛塚



六拾

深川森下町俳匠數十輩の墳墓

一、東武深川森下町蟠龍山長慶寺淨土に、芭蕉、其角、乙由、嵐雪、霜後等の墓あり、別してばせをの碑は、門人寶井其角師匠の遺徳を愛襲ナツカシみ、過し在世を慕ひ爰に塚を築きて亡魂ナキタマに仕えし碑イシヅミにて、其角自身に筆を下し石及恰好ハウシヤイまでも寶晉齋ハウシヤイが好みて造れる處也とぞ、今もばせをの俳風慕ふ雅人は、例年十月十二日爰ココに集會シケエして、追福の雅宴を催す事とぞ、又其角嵐雪等の碑は、その向ムキの社中より建たりと見ゆ、みなおのゝ裏に年月を刻み、總て石碑七本までならべ建たり、左に圖するがごとし、その外古來より名の聞ふたる俳匠ハイサイ大概みな爰ココにあり、

芭蕉翁桃青居士

竿石高さ四尺餘後に元祿七
甲戌年十月十二日と刻し眞
石にて作れり

玄峰嵐雪居士

同處右の方青石にて一枚の臺石に其角の碑
と二基にならべ建たり高さ各二尺五寸餘

寶晋齋其角墓

右二本の碑の後に
寶永四乙亥年二月三十日
知友門人建
佐文山書
寶永四乙亥年十月十三日とあり

眞石にて高さ二尺五寸餘柳下門建立之とあり

青石高さ二尺程

麥林舍乙由居士

二世
松籟庵霜後居士

裏に寛政十一年歲次己未十二月卅日卒
同十有二年歲在庚申中十月連中建之

守黑菴眠柳居士

松籟庵太無居士

御影石にて作る高さ二尺五寸餘
柳下門建立之
莫延元戊辰五月晦日とあり

竿石高さ四尺計裏に
安永三年申午十月二十二日卒
社中建之

六拾壹

深川臨川寺中芭蕉翁の碑

一、東武深川海邊大工町、瑞甕山臨川寺禪の開山佛頂禪師は、學才衆に超て道德逞しければ、彼芭蕉の翁は常に歸依し、朝な夕なに當寺へ參詣し、終に參禪の弟子となりしかば、芭蕉翁の没後佛頂は、桃青がために塚を築き碑を建置し處に、延享のはじめ白山老人洛東双林寺の墨蹟をうつしてふたゝび塚を營めり、是によりて例年三月十六日には墨直しとて、俳人會合し雅宴を設ふく、且又ばせを翁の墨蹟短冊發句帳等は、年番をたて、社中にあづかるよし也、當時は市ヶ谷の四睡といふもの會頭たりとかや、ばせをの墓及び碑の銘左の如し、

右の碑の銘に曰、

我師は、伊賀の國に生れて、承應の頃より藤堂の家に仕ふ、その先は桃地の黨とかや、今の氏は松尾なりけり、年また四十の老をまたす、武陵の深川に世を遁れて、世に芭蕉の翁とは、人のもてはやしたる名なるべし、道はつとめて日の變化をしり、俳諧は遊びて行脚の便を求といふべし、されば松島は明ほの、歌に笑ひ、象潟はゆふべの雨と泣とこそ、

姓文以傳
うしろに維石不言

其銘……

梅花佛

玄武佛

うしろに
白山下連建之

遊歴雜記 二編の下

富士吉野の名に對して、吾に一字の作なしとは、いにしへをはぐかり、今をおしふるの辭にぞ、漂泊
すでに甘とせの秋くれて、難波の浦に世を見はてけん、その頃は神無月の中の二日なりけり、さるを
湖水のほとりに、その魂をとめて、彼木曾木の苔の下に、千歳の名は朽さらまし、東花坊こゝに、
此碑を建る事は、頓阿西行に法縁をむすびて、道に七字のこゝろを傳ふべきと也、

其 銘

あづさ弓 ひさしの國の 名にしあふ 世に墨染の 先 に 立
人にあらずに ありし世の 言の葉はみな 聲にありて その玉川の
みなかみの 水のこゝろも 汲てしる 六すじ五すじ たてよこに
流れてすえは ふる川や 此世を露の をきてねて その陰たのむ
そのはらに いつ松風の やふりけむ その名ばかりに とさしおきぬ
春の霞の 人も見ぬ 身を難波津の 花とさく 花の鏡に
夢ぞ覺ぬる

同じく垣の外に石をたて、

抑此臨川寺は、むかし佛頂禪師、東都に錫をとめて給ひし舊跡也、その頃ばせを翁こゝの深川に
世を遁れて、朝暮に往來ありし參禪の道場也とぞ、しかるに翁先だちて卒し賜ひければ、禪師みづ

から筆を染て、その位碑を立置れたる因縁を以て、わが玄武先師、延享のはじめ洛東双林寺の墨な
をしを移して、年々三月その會式を営み、且梅花佛の鑑塔を造立して、東國に傳燈をかへげ賜ひし、
その發願の趣意を石に勒して、永く成功の朽ざらん事を、爰に誌すものならし矣、
此碑のうしろの方に刻して

文化坊應一 以中坊待賈 楚石坊四睡

六拾貳

押上村最教寺日蓮旗漫茶羅

一、武州葛飾郡押上村天松山最教寺日蓮は、同所妙見尊の西南横町凡三四町にあり、當寺にむかし鎌
倉の征夷大將軍惟康親王の所持し賜ひし、日蓮筆の蒙古退治の日の丸旗、漫茶羅といふものありて眞
僞はしらず、彼寺記に傳ふる、むかし人皇九十代後宇多院の御宇弘安四辛巳年五月廿一日大元國蒙古
の大將阿刺罕范文虎などいふ者を先とし、賊兵貳拾四萬人兵船四千餘艘を率ひ來りて、我朝を襲はん
と欲し、同じき七月蒙古の賊船悉く筑紫に到着せしかば、惟康親王は追々の注進によりて自ら九州表
に向はんとし賜ひ、武の大將として宇都宮貞綱を先陣たらしめんと、先此旗を作り兩面に四天大王八大
龍王日月等を書きて、日蓮に夷賊退治の護念力を乞しむ、爰に於て日蓮日月の兩面に大漫茶羅を書て
献ず、親王信受し思召、則ち宇都宮貞綱に此旗を與へ賜ふ、貞綱大軍を率ひて筑紫に進發し西海に乗

出さんとす、頃は弘安四年八月朔日なりけり、濱邊の山上に此旗を立しに不思議や、大風俄に吹發て天地震動し、樹を倒し石を飛ばし、大海盆を洶るが如く激浪狂奔し、數千の船碎破し蒙古の賊兵須臾の間に悉く溺死し盡せり、貞綱更に刃血ぬらさずして利を得、將軍いまだ戦ひ賜はずして勝賜えり、是全く此旗の威徳ならめと、貞綱をして永く此旗を守護なさせしめよとかや、今最教寺に傳ふるもの是なりと云々、以上、寺記の趣意を取れり、國史を案ずるに、文永年間蒙古より日本を襲ふべき、結構耿我朝に聞ゆ、後宇多帝諸山の名僧に勅して夷賊退散の修法を命じ賜ひ、主上にも八百萬の神々に祈誓ましめて、夷賊退散天下安寧の御祈念日毎に怠り賜はざりしが、頃は弘安四辛巳年七月賊船追々筑紫の沖に見ゆるよし、注進櫛の齒を挽が如くなりしかば、帝沐浴齋戒し給ひ、御身を苦しめ誠心を懲し御先代の神々を念し、怨敵退散の御修法最細やかなりしが、既に同じき八月朔日神風起發し、敵兵悉く大洋に沈没し滅亡せりと、國史に見へたり、實にも十善萬乗の帝王の御祈禱、天地神祇も争か納受せざらん、斯れば此旗漫茶羅の威徳のみにはあらず、全くは天子の御祈念、諸寺諸山の智識一同擧て夷賊退散の修法の上に、日蓮加筆の旗漫茶羅の奇特も、少しは加はりしものならん、彼旗漫茶羅といふもの長さ六尺五寸幅三尺五寸、色は茶色に似て赤く、地性は麻の布に似たり、左に圖するが如し、

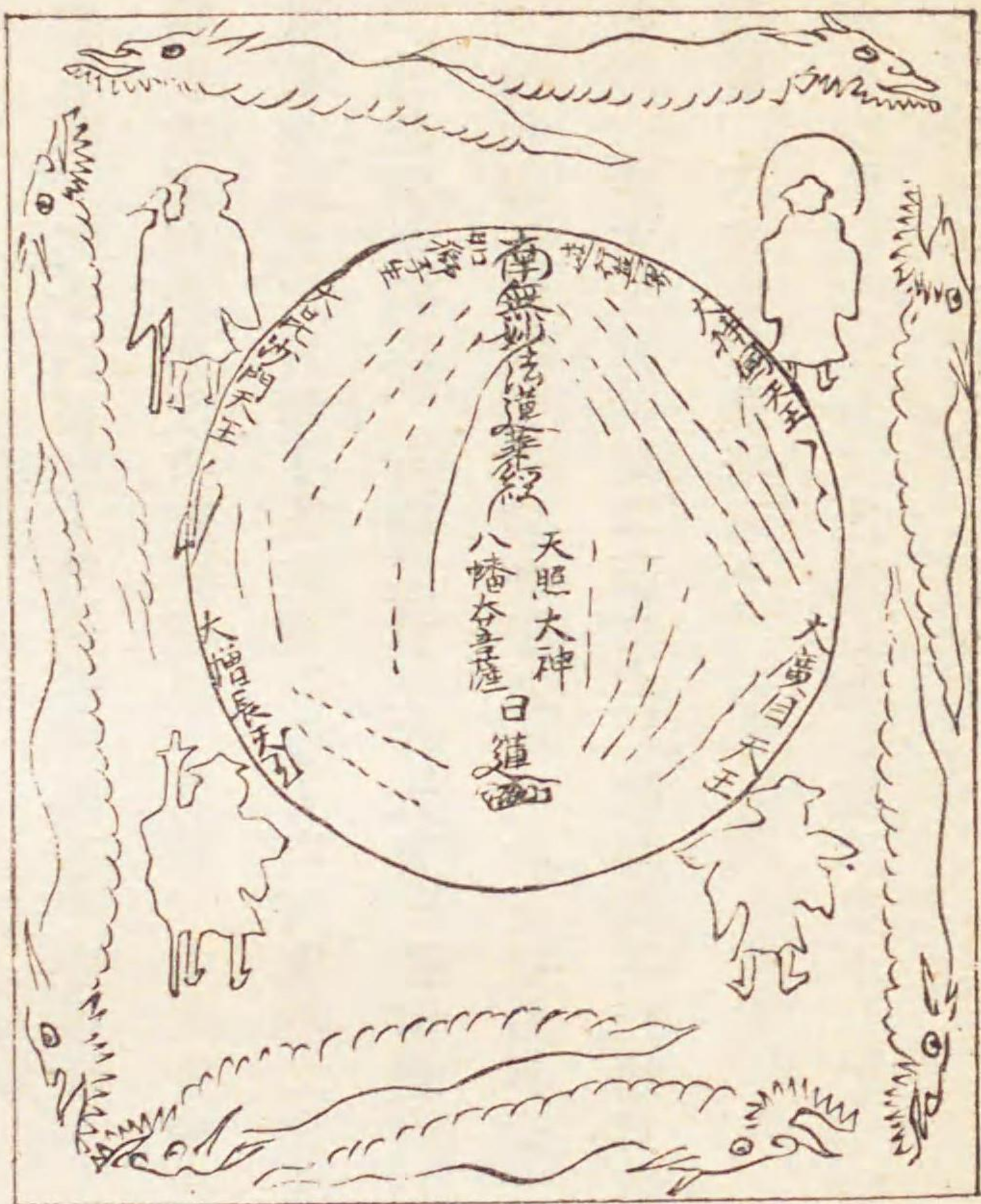
兩面之大旗來由記

弘安四年 辛巳 五月二十一日、從大元國蒙古、賊船四千餘艘人數二十四萬餘來、七月於九州防戰、其時這八大龍王之御旗、圓中日蓮上人爲祈禱大漫茶羅令書、此御旗先立向、親王九州給時、某爲武之大將至九州、則日本之靈神擁護、有神風吹彼賊船、其人數等不殘破、異國江追拂給、日出度旗成故、我家是預給畢、

十二月二十一日

宇都宮貞綱判

這、兩面之旗者



惟康親王所持之御旗也、弘安四年五月廿一日從大大元國蒙古、來船四千艘人數二十四萬人也、干時親王此旗四方八大龍王四角四天王中、圓相内十界、大曼茶羅、日蓮上人仰而令書之、爲時九州向襲、蒙古災ヲ給御旗是也、

正應元年十月十三日

武州池上村

右衛門大夫宗仲判

右等の品々例年七月十六日より廿二日まで、蟲拂ひとして諸人に見せしむ、しかるに又或古記にしるせし一條左に述るがごとし、

蒙古退治三籙之事

人皇九十代後宇多院御宇、蒙古使杜世忠來朝矣、蒙古大元國世宗皇帝姓 宇兒只斤名帖木眞 弘安四年辛巳正月有故而蒙古使杜世忠殺害、因是大元國蒙古賊船四千餘艘、阿刺罕范文虎、忻都洪、茶丘、張百戶、干闥、莫青、吳萬五以下貳十四餘萬餘人、同年五月廿一日九州責來、七月對馬國責寄、守護代宗對馬守平助國新中納言 知盛曾孫 防戰終討死、同十四日蒙古勢壹岐國襲來、守護代平左衛門景隆防之、爲加勢大友出羽守直安次男次郎重秀難波次郎在助菊池次郎康成以下防戰、七月於相州鎌倉將軍惟康親王蒙古征伐之評議有、宇都宮參河守藤原貞綱命、日蓮上人許遣、蒙古夷賊退治之爲祈禱、兩面而大王八大龍王日月之旗、圓中大曼荼羅書、即此旗貞綱與、貞綱蒙古征伐大將、西海發向、八月朔日、濱邊山上此旗押立、不審哉、俄大風吹起、浪荒變船悉吹損、蒙古夷賊大敗北、張百戶云者損船造處、隊將宇都宮參河守貞綱下知、日本勢勝乘拒戰、蒙古大將阿刺罕范文虎、忻都洪茶丘始、賊悉斬殺、于闐莫青吳萬五生擒蒙古放歸、是蒙古退治旗號、宇都宮貞綱家珍云々、
とも見へたり、か、れば此旗貞綱が家珍なりしを、池上左衛門へ譲りて後、遙過て此最教寺へ納めしものか、傳來の由緒しるべからず、

六拾參

押上村春慶寺三面大黒天

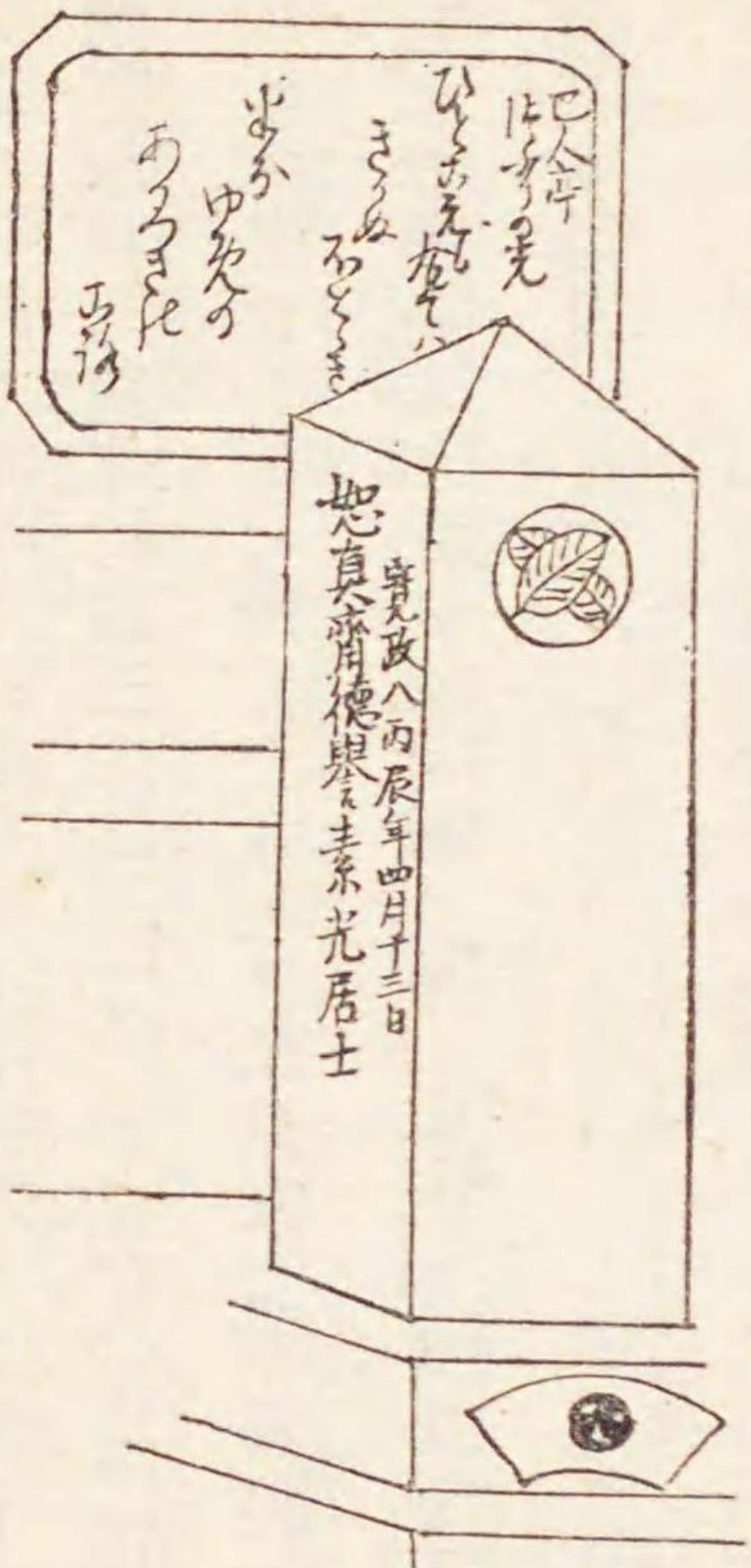
一、同處長養山春慶寺日蓮は、最教寺の西南に隣る、當寺に日蓮自畫讃の三面の大黒天といふ一軸ありて、最教寺の蟲拂ひ中、同じく取出して諸人に披露す、但し近年春慶寺十五世の住僧、日眞の代常州松岡郡水戸領龜作村藤三郎、後改名して大久保平左衛門といひし者より、當寺へ奉納せしよし也、當住持は十六世にして、漸く十六七ヶ年以來より春慶寺の常什物ビウツモノとはなれりとなん、彼一軸の紙中長壹尺七寸ばかり幅わづかに九寸ばかり、いつ頃よりか石摺にし參詣の人の需に應ず、彼筆意をちゞめ摸する事左の如し、



六拾四

駒込瑞泰寺中頭ひかるが墳墓

一、東武駒込四軒寺町桂芳山瑞泰寺淨土に、近年杏花園六樹園等の俊哲取たて、ざれ歌行はれてより
是も世に名高かりし狂歌よみ、頭の光といへるもの、墳墓あり、此大人の苗跡は今龜井町にて、家ぬ
し宇右衛門とかやいふ、當寺の本堂の脇に、左に圖するごとき墓をたて、自詠を刻し、同じく碑の裏
には、同行の行狀素性を鍛付置たる事、左の如し、



戊當七年之追遠、翁友人尙左堂俊滿與其社中諸子謀、立翁之墓碑、董堂并敬義爲之記、併書、

翁、名識之、姓岸氏、俗稱宇右衛門、其父
仕豐岡侯、生翁于龜井街之寓居、翁至中年好
狂歌稱頭光、又號桑揚菴、牛門先生以其巴
人亭之號與之、自是門徒益進聲震海內、鳴
呼名玉易碎寶器難全、寛政八年丙辰四月十
二日曉病卒、葬于駒籠瑞泰寺後山、今茲壬
伯樂 尙左堂 俊滿
鶴邊菴 佐保丸

- 不斷 七持
- 白鶴亭 羽風
- 一卷亭 長文
- 唐橋 和足
- 青陽亭 萬歲
- 愛樹
- 露頂軒 芳貫
- 庭訓舍 綾人

六拾五

淨心寺中行司庄之助が墓

一、東武深川淨心寺日蓮は、靈岸寺の南に隣りて西の表門より入卵塔の中路を過て、東のうら門へ出
る間凡三町ばかり、當寺の墓原には名たる俳優の徒の墳墓新古ともに多かる中に、享保の末より
六元の間、三都に名高かりし相模行司の名人と呼ばれたる木村庄之助が墳墓あり、左に圖するがごと
し、

寶曆五乙亥午
妙法 速悟勇心信士
十月二十六日

木村
紋
庄之助

件の竿石の右脇に、信夫山孫八、御所島浦右衛門と貳行に鍛付たり、其外芝居が、り一黨の者の碑若干あれども、數多なれば略す、

六拾六

青山青源寺赤樂管江が墓

一、東武青山百人町曹溪山青源寺曹洞に、近來山の手には狂歌に名高りし朱樂管江が墓あり、此管江は牛込山伏町に住て、通稱を山崎郷助景貫といひ、又道父と號せり、生涯若干のざれ歌多かる中に、曾て辭世の一首ありて、二代の秀逸といふべし、
執着のこゝろや娑婆に残るらん、よしのゝはなに更科の月

寛政十戊午年
運光院 泰安道父居士
十二月十二日
寥照院 孤月貞參大師
(朱字)

竿石の右の側に、俗名山崎郷助景貫、號道文と鍛付又左の脇には、小宮山常右衛門昌俊娘、山崎郷助景貫妻と貳行に刻せり、

六拾七

四ツ谷地福院中畫炎の墓

一、東武四谷北寺町地福院眞言は、定御火消やしき八軒の役場仲間どもを葬る寺なり、但し御同役十軒の内駿河臺と、御茶の水との貳軒は當寺になし、且又纏持と階子持と平のくわんゑん若い者等は、その徒の中にては格の違ふ事なりとなん、墳墓左の如し、



六拾八

新鳥越圓常寺中鬼坊主が墳

一、東武山谷新鳥越妙見山圓常寺日蓮に、近き頃強盜に名高かりし鬼坊主と異名したるものゝ墓あり、

蓋脊中一面に鬼の姿を彫ものにせし故かくは名付たり、是は享和のはじめより世上に恐怖させし強盜にて、名を清吉といひしが、業報の取感にやありけん、不圖ぬすみ初しより次第に忍びの術に妙を得て名たる諸侯大夫の家々に忍び込て盗まざるはなかりよし、道を走る事一日に三十餘里、度々追詰られ危急の難に迫るといへども、繩をぬけて塀垣等を越て走り、遁るゝ事鳥のごとくなりしとかや、故に官吏も召捕がたく、數月を経只その手配のみなりしが、後伊勢の國太神宮の社内にて終に生捕らる、是全く天罰としらる、此清吉が父は御役人附年代記など賣歩行しものゝよし、彼者刑に行はれし後その母たるもの密に骸を爰に埋み、墓石をたて、菩提を吊ひし事となん、彼竿石の右脇のざれ歌は清吉刑に行はるゝ時の辭世とかや、又同所に千人塚といふもの數多あり、これらは古來より刑罪のもの、骸を埋み來りしと見ゆ、墳墓左のごとし、

むさしにはゝかるほどの鬼あさみ
今日のおつさに枝葉しほれし

施主

文化二乙丑年
妙法 得實信士

六月二十九日

しゆん

千人塚

六拾九

谷中三崎七面明神の由來

一、東武谷中三崎七面大明神は、千駄木の坂下辻番の前南側にあり、小さき小祠にあがめたり、往古此邊人家稀にして大體は耕地なりし節、此近邊の武士やしきに勤し菊といひし下女、何ものとか密通しけん、懐胎の身にて或夜此處にして切殺されぬ、しかるに近邊の人の夢枕に立ちて、何卒神にまつりくれ候へと見る事度々なりしかば、土人相議して七面大明神とはあがめたる也、命日は七月廿六日なり、年號はその頃公儀にも御逝去ありし同日なりとのみいひ傳えたり、その後江戸一圓疫癘流行てみな行臥れけれども、此邊五六町の間限り煩ふ者一人もなきは、全く此七面明神の守護よとて、六月十九日祭禮を仕初てより以來、毎年不闕に例祭とはなりしと、七面明神に隣りたる商家の老人ものがたりき、江戸砂子の説もこれに似寄たり、

七拾

谷中長運寺大磯の驛虎が石

一、東武谷中大乗山長運寺日蓮は、隨林寺の東貳町にあり、當寺に相州大磯の驛、蓮臺寺の什物なりし遊女虎が石あり、これは中古寶曆の頃、東武へ出開帳に品々持來り、則ち當寺にて披露せし事數日なりしが、片鄙といひ流行して取賄ひに困窮し、件の石をば根岸大塚村の百姓何某方へ質物に預け置

て、金子借用し漸く歸國せしが、其後ふたゝび請戻さず、年月を累ね迷惑に思ひ爲方なく、彼百姓檀家なるゆへ當寺へ納めたるもの也、斯れば今大磯の驛に現在して、旅人の持上て輕重を試す虎が石といふものは、同名偽物たるもしるべからず、然るに長運寺貧地の上住持たびく移轉せしかば、是なりといひ送りし事なかりしか、何れの石とも分明ならず、但し盜れもせしや、當住持密に探し詮義すとなん、當寺元來は同處感應寺の塔頭なりしが、先年感應寺は邪義を執心して、法花寺自證院と同じく流刑に處し、天台宗に改派せし砌、感應寺に傳來する日蓮作の鬼子母神を持て、此處へわかれ本宗を立て移住すとかや、いひ傳ふ、

七拾壹

箕の輪龍泉寺反古塚

一、東武箕輪東光山龍泉寺淨土は、上千東にあり、爰に左の方圍の中に反古塚ホウゴヅカと鍛付し、四角の竿石の右手に一首の歌を刻せり、何人の建置しといふ事しらず、但し歌の様より案すれば、中古新よし原町の松葉屋の寮此處にありしといへば、大方は松葉屋の家族等が建置たるもしるべからず、古碑の摸形左のごとし、

父母の筆のすさみを埋み侍りて
 ちらさしとこゝろにうつむもひともの
 松をえにしの父か言の葉

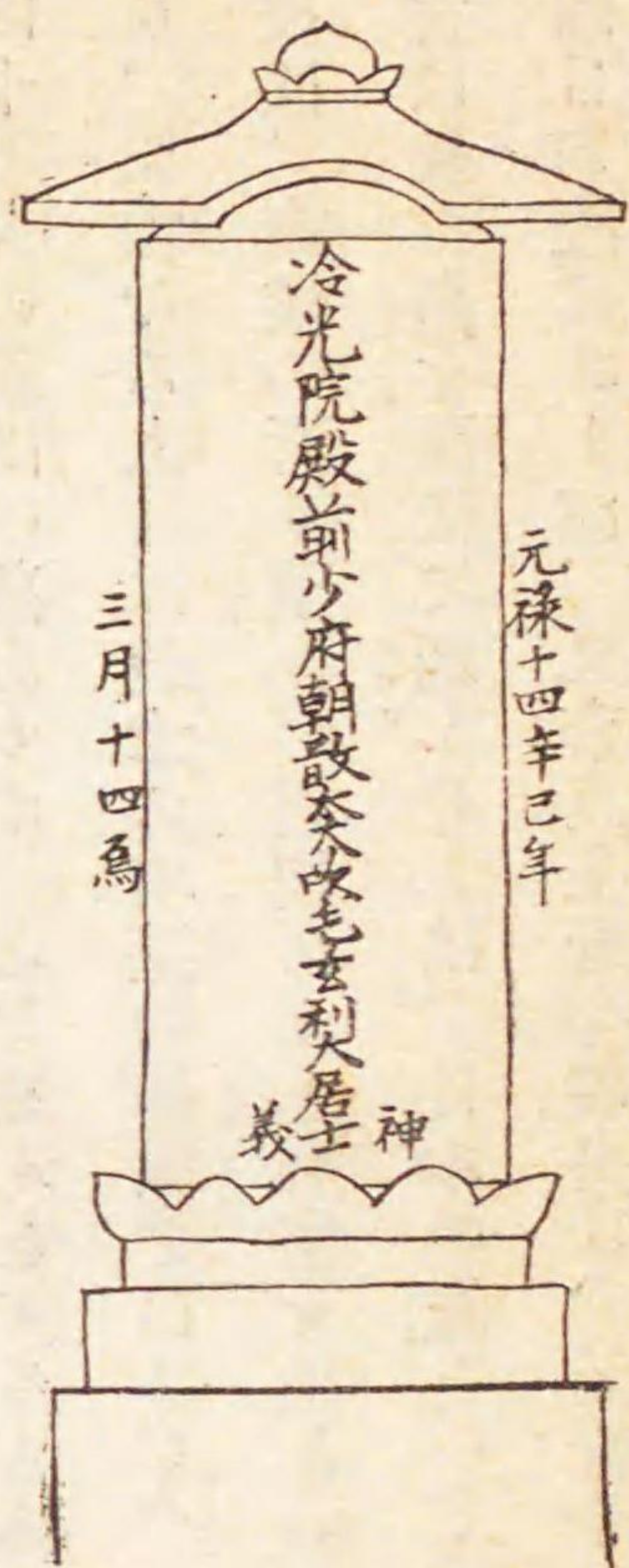
反古塚

七拾貳

芝泉岳寺中淺野家義士の墓

一、東武芝高輪萬松山泉岳寺曹洞は、奥深なる寺なり、此宗派にては江戸曹洞の三ヶ寺と稱す、所謂一に芝愛宕下青松寺、二に芝高輪泉岳寺、三に淺草橋場總泉寺なり、されば當寺には世にひゞきたる四十七人の義臣の墓ありて、之を見んとするものには、墓守するもの燈明錢を勸めて常夜燈の施主とし、又需むる人には義士の墳墓の繪圖をひさぐ、理はりなる哉、義を鐵石に堅めて古主の怨を報せし後は、諸侯の面々望んで召抱えんと利害を説といへども、おのゝ死を一決して更に取合す、終に生害に及び名を萬天に耀かせしは、日本の鑑といふべし、されば淺野内匠頭長矩は、元祿十四年三月十四日切腹におよび、又吉良上野介義央は、元祿十五年十二月十五日長矩の家來等に討れ、義士四十六人は元祿十六年二月四日一同に切腹せし事、赤穂記に見えたるが如し、長矩の墓及び義臣等の戒名左

のふし、



大石内藏之助良雄

元禄十六癸未年

忠誠院双空淨劍居士

二月四日

行年四十五歳



吉田忠左衛門兼亮

双忠光劍信士

行年六十三歳

右のごとく、大石氏のみ院號ありて、残り四十五人の義士には院號なく、又臺石も良雄のみ貳ッ用ひて、外はみな臺石壹ツづ、敷たり、石塔も良雄よりはみな一かさ小さし、且内藏助の墳墓は、上の初りの角に建て、その外は四方に取巻て、中通り二行に列せり見てしるべし、今は圖を略して、唯法名のみを記す事左の如し、

双峰毛劍信士	俗名	原惣右衛門元辰	五十六歳
双勘要劍信士	同	片岡源五衛門亮房	三十七歳
双譽道劍信士	同	間瀬久太夫正明	六十三歳
双以串劍信士	同	小野寺十内秀知	六十一歳
双泉如劍信士	同	間喜兵衛光延	六十九歳
双求周劍信士	同	磯谷十郎左衛門正久	二十五歳
双毛知劍信士	同	堀部彌兵衛金丸	七十八歳
双隨露劍信士	同	近松勘六行重	三十四歳
双勇相劍信士	同	富森助右衛門正因	三十四歳
双寛徳劍信士	同	大石瀬左衛門信清	三十七歳
双法參劍信士	同	矢田五郎右衛門助武	二十七歳
双察周劍信士	同	奥田孫太夫董盛	五十一歳
双廣忠劍信士	同	赤埴源藏重堅	三十五歳
双破了劍信士	同	早水藤右衛門滿堯	三十九歳
双窓空劍信士	同	潮田又之亟高教	三十五歳

右の十七人は、仇討の後細川越中守へ御預けとなり、元禄十六年癸未二月四日越中守宅にて、願ひの通一同切腹仰付らる、その節辭世の詩歌及び介錯人檢使等の名前は爰に略す、

- 刃袖拂劔信士 俗名 岡島八十右衛門常樹 三十九歳
- 刃當掛劔信士 同 吉田澤右衛門兼定 二十九歳
- 刃性春劔信士 同 武林唯七隆重 三十二歳
- 刃鍛煉劔信士 同 倉橋傳助武幸 三十四歳
- 刃摸唯劔信士 同 間新六郎光風 二十三歳
- 刃有梅劔信士 同 村松喜兵衛秀直 六十二歳
- 刃可仁劔信士 同 杉野十平次次房 二十八歳
- 刃量霞劔信士 同 勝田新右衛門武堯 二十四歳
- 刃風颯劔信士 同 小野寺幸右衛門秀富 二十八歳
- 刃補天劔信士 同 前原伊助宗房 四十歳
- 刃上樹劔信士 俗名 大石主税良金 十六歳
- 刃雲輝劔信士 同 堀部安兵衛武庸 三十四歳

以上拾人は、毛利甲斐守へ御預け、同日願ひの通切腹の子細等上にいふが如し、

- 刃露白劔信士 同 中村勘助正辰 四十五歳
 - 刃永流劔信士 同 菅谷半之丞政利 四十四歳
 - 刃觀祖劔信士 同 不破數右衛門正種 三十四歳
 - 刃道互劔信士 同 千馬三郎兵衛光忠 五十一歳
 - 刃通普劔信士 同 木村岡右衛門貞行 四十六歳
 - 刃回逸劔信士 同 岡野金右衛門包秀 二十四歳
 - 刃電石劔信士 同 貝賀彌左衛門友信 五十四歳
 - 刃無一劔信士 同 大高源吾忠雄 三十二歳
- 以上十人は、松平隱岐守へ御預け、願ひの通り同日切腹子細上にいふが如し、
- 刃利教劔信士 俗名 神崎與五郎則休 三十八歳
 - 刃珊瑚劔信士 同 三村次郎左衛門包常 三十七歳
 - 刃常水劔信士 同 横川勘平宗利 三十七歳
 - 刃響機劔信士 同 茅野和助常成 三十七歳
 - 刃太及劔信士 同 間瀬孫九郎正辰 二十三歳
 - 刃清元劔信士 同 村松三太夫高直 二十七歳

刃擲振劔信士	同	矢頭右門七教兼	十八歳
刃湫跳劔信士	同	奥田定右衛門行高	二十五歳
刃澤藏劔信士	同	間十次郎光興	二十六歳

右の九人は、水野左近將監へ御預けにて、願ひによつて同日同人宅にて切腹仰付らる、誠に義を鐵石に堅めし誠忠古今未曾有の美談とはなれり、但し血誓せし四十七人の内寺坂吉右衛門事は、夜討の後はしれずといふ説あり、又は上野介の首を古主の墳前へ手向し後は、直に泉岳寺より國々處々へ注進に立越たりといふ説もあり、

七拾參

本所數原氏石庫の妖怪

一、東武本所二ツ目相生町とみどり町との横町に寄合に入れる御醫師に、數原宗得^{スワラシウトク}とて持高五百石二十人扶持を賜ふ、今は宗得隱居して當主を宗安といえり、此やしきに作れる土藏の中に妖怪あり、是は場末の屋敷なれば持高に應ぜず、方量も廣さまゝ土藏は、居宅をはなれ廣庭の遙隔にありて、火災を厭ふには一入よし、此庫の作り方は屋根と戸前口ばかり木にて作り、壁といふものは皆切石を以て積上たり、恰も彼日本橋四日市河岸通の土手藏^{ドテゾウ}の類ひなるべきか、廣さ二間半に三間半かとよ、是はむかし有徳尊君より拜領せしといひ傳ふ、案ずるに此御代安南國^{アンナン}より象を一匹献せしに依て、置處な

く本所堅川筋にさし置く、その砌象^{ゾウツ}扶持のトウボウシなど積入し藏なるべし、されば此石藏の中に妖怪の住事なれば、夜は勿論晝とても兩三人づゝ連立^{ツレタチユキ}行て、萬のものを出し入れす、しかるに此石庫に這入て、小用を達し度とおもふ通氣の萌^{キヤシ}あれば、おのゝ早々に藏を出しばらく外にて猶豫^{タヌイ}て後、土藏に入れば子細^{シサイ}なし、是怪物の出べきしらせなりとなん、扱又小用の通氣あるを忍^{コラ}へて、若物など扱し居る事あれば、必ずしもその妖怪にあふ、但しその妖怪の形是とさだまるにあらず、小女、小坊主、小替^{コカヒ}、大達摩^{オホダマ}、木兔^{キウ}、犬張子^{イヌハシゴ}、竹輿^{カゴ}、からかさ、鬼女、よろづの面替^{オモカ}、女仁王^{メニウ}、鶏犬^{ケイケン}、牛馬^{ウシウマ}の類と種々に變化して出るとかや、これに依て庫に入て誰にても通氣の氣味あれば、申合せ早く^{トビ}飛いだす事となん、若又近邊に火災あらん前方には誰としれす、夜すがら鐵棒を引て歩行^{アルク}音す、是によりて家内火災のあるべきしらせぞとこゝろえ、諸道具取片付用心するに、果して不慮に近火ありて、宗安居宅のみ通るゝ事むかしより數度なり、既に去し寛政年間件のしらせありければ、大體^{ダイテイ}の品皆仕舞しかどその砌老母大病にして手放しがたく、今にも取詰やせんと見へたる折柄、出火ありて風又甚烈しく、近所一圓に燒廣がりければ、漸く手人ばかりにて竹輿^{カゴ}に懷^カさのせ一番輩^{ヒツ}さしそひつゝ、しるべの方へ立退けるまゝ、家内いよゝ人少になり、残れる道具を石藏の中へ詰入る暇さへもなければ、戸前口へみなり積置ぬ、スワといはゞ濡薦^{ヌモ}を懸んと、残りし家内只とりゝに立騒^{タテワザ}ぐばかりなりしが、彼石庫の内より壹人の女、髪をうしろへ下て振亂したるが、甲斐^{カヒ}ゝしく立出戸前口に積置たる品々を、土藏の内

へ抱えて運び入れる事取廻し速也、爰に居残りし卑女は不思議に思ひ駈來りて、件の女の顔を見んと彼方へ廻れば、こららへ振向、此方へ廻ればあちらへ顔を背けて、見せざりしかば不圖こゝろ付是かねて傳え聞、妖怪ならめと思ふや、否、ゾツと惣身さむけ立ければ、卑女は萬事を打すて、逃込しが、彼道具をみな石藏の中へ運び入、内より戸前をべけるとかや奇怪といふべし、終にその砌も類焼を通れたり、かゝれば此妖怪宗安が家の爲に、幸あれど更に害なし、是によつて四月十四日を例祭とし、石庫の中には燈明をかゝげ、種々の供物を備へ毛氈を敷詰、外には大燈籠提灯等をかざり、晝は修驗來りて佛事を取行ひ、夜はもろくの音曲鳴物神樂を奏して、夜すがら彼怪物のこゝろをなぐさむを祭禮とすとなん、これによつて當家より火防の札を出すに、是を得て家内にあがめ置ば、一切火災の煩ひなしと巷談す、しかるに彼石庫の隅の棚に一つの箱あり、大さ五六寸四方、昔より置處を替はず、又手を付る者は曾てなし、恐らくは此箱怪物の住所ならんかといへり、此外に石庫の内更にあやしき物なしとぞ、上來の一件奇談といふべし、但し此類の事世上に儘ありて人みな恐怖し祭り崇める者又少なからず、曾て古人のいえらく、怪を見てあやしまざれば怪おのづから去とおしえ、又は妖は徳にかたずとの金言は宜なる哉、巫咒桃符を貴ばんよりは、身を正ふし徳行を逞ふせんにはしかじ、退治魔事の法といふも、先その身潔齊し六根精進をして正ふせんにはしかじ、何ぞその身の行狀を亂し徳行をばせずして、一向に神齋を責る事やあらん、我人仁義禮恕孝貞忠信の勤しばらくも怠るべからず、此一件を荒川新助といへる人、彼數原氏へ立入て見聞せしまゝを、しるし置ものなり、

七拾四

木下川淨光寺杜若の再遊

一、武州葛飾郡木下川淨光寺の一件は、上にしるせしかど又候や、木下川の杜若より平井の聖天の邊を逍遙せばやと、館幡里池田山鼎の兩人を伴ひつゝ、頃は卯月十四日卯の半刻に、己々が舍を立出、市中の通行はもの嫌し、いでやさびしき路を行ばやと、名もおそろしき切支丹坂を攀登り、ほとけのこゝろを汲てしる極樂水を打過、千駄木の茶店にしばし憩ひ、感應寺中の木立もはや青葉まじりの遅櫻の邂逅に、一二輪づゝ咲残りしは、實に初花よりもめつらしく、斯て根岸の圓光寺禪の門に、掛し寶鏡山と認めし額は、赤得水の筆とかや、當寺林泉の藤のはなを兼てより聞及べば、見んものと立寄りかど、疾に盛過てうつろひしまゝ残り多くも立出つゝ、新よし原町を右の方に見捨土手を下りて、左の方の畦路を剽りつゝ、小塚原の往來なる三谷の末に出、田中の茶店に憩ひて眺望すれば、西は日本堤を打越て箕輪のあたりまで、一圓の田畑の風情も處かはりて面白く、北は小塚原の町より千住の大橋につゞきて、大道直き事髪のごとく、殊更山谷につゞく畷道を、人の往來する千差萬別の風俗も、おかしみありて興を催し、東はあさぢが原まで渺茫と取はなれて田面の風色は又一入なりけり、爰に山谷の町に見上るばかりの幟貳本建しは、玉姫いなりのまつりとや、例年卯月十四日十五日は例祭ぞと

教ゆるにぞ、さらば立寄見侍らんと茶店のうしろの畦道を、ふらめき稻荷の社地に逍遙し、なを耕地の中路を浮れ歩^{アルキ}行て、あざむが原、妙龜菴、かむみが池、妙龜のやしろ、采女塚、衣かけ松、蓮花院、保源寺など明細に見めぐりつゝ、頓て橋場の渡口の酒樓に憩ひて、晝餉のく取したゝめ、盃の數かさなりしかば山鼎もこゝろうきたち、幡里はほろ酔機嫌に乗じて、所斑^{マダラ}に義太夫の一節も興を添、歩むともなく木母寺を逍遙し、堤を打越て四ツ木村なる酒店に又も休らひ、いかゞしき木の芽田樂に酒飲まゝに、予は携えし茶具取出し、軒下に吹こぼれる井のいかにも潔^{イサギ}よければ、頓て一煎し宿の嬭^{ババ}にも振舞しが、店の床几に酒飲居し人、その茶の煎じ空給はれと處望し、小皿に請て醬油かけつゝ酒の口取にせしも又一興かや、此處より杵川藥師の裏門へ十町といへば、澁江村の客人權現へ立より、藥師の表門より行べしと、くわへぎせるに右や左を眺望しながら藥師尊へ詣でぬ、折しも武州神奈川領子生山東福寺觀音爰に開帳ありて、最賑やかに都鄙の男女集ひ來り、又た葎簀の出茶屋は爰^コかしこに像^{カマド}り居れり、取分近頃作りし池中へは、雲手に橋をわたし池を堀上し土にて、池邊に山を築きその間に徑^{コミチ}をもふけ、楓は一圓に芽吹きの色うつしく、參詣の老少山を繞り橋をわたり、此方に歩し彼方に遊ぶ風俗のさまざまなるも猶おもしろく、さらば此處にて憩はばやと、池汀の茶店に安座し風色をなぐさむは一興たり、左はいへ杜若^{カキツバタ}を處々に植て水を見せなは、いとゞ風情ありて眺も一入ならんに、いかなれば池中^{アキマ}中間なく、菖蒲などの繁茂せしごとく一面に植込しは恨なれ、去^{サリ}ながら杜若

のはなの眞盛に、良^ヤ時移るまで憩ひつゝ、矢立取出し例のむだ書を認めて、茶店の手摺に張置たる事左のごとし、

木下川の杜若は、文化十とせ餘り石橋何某とかや植る處にして、紫の朱を奪ふとは故ある事になん、紫は紅にまさりて、高位に進む僧衣より、御鷹の大緒鞠袴の惣紫さ、天下一と國々にひゞく角力取のまはし、奥女中の出たちまで紫に過たるはあらじ、就中汝は紫きの物領にして、江戸にゆかりの色濃かに綻び咲し初より、都鄙のもろ人に愛せらるゝは果報とやいはん、されど人に訪るゝのみにして、世上の廣さむらさきの數々をしらず、是諺にいふ内はだからの外すぼりなるべし、我輩は手の奴足の乗物こころの趣くまゝに遊歴し、花にうかれあるくは豈たのしからすやと、花に對して物云はんとすれど、耳なれば單にいはずする事しかり、三人をはなうらやまんかきつはた

厭離庵 以 風

斯ばかり紫を譽て、三人おのゝ興ぜし折から、御守殿と覺しき女の幾人となく、外めづらしく歩み來しまゝ、又一句を吐、

むらさきやかきつばたよりはなの顔 鮮僧 以 風

これより、淨光寺の表門を出東の方堤へあがり、平井の聖天へ凡壹里には近からんなど、茶店の婆がいふにぞ時は午の半刻も過ぬらん、川添の風色を眺望せんと境内を立出ぬ、

七拾五

上平井の眺望田口の遊宴

一、武州葛飾郡上平井のわたし場まで、木下川淨光寺より半路といえり、此川添の間の風景又たくひなく、堤より西の方は渺茫と取はなしたる耕地をながめ、又堤より東は遠近の村の夏木立より、眼下に潔き長流には帆かけてはしる舟あれば、網打釣する獵船ありて、見るもの一々おもしろし、斯て右をながめ左を顧みながら行ほどに、上平井の渡口にさしかりぬ、田舎のわたしばなれば人まつ間に、摺火打にたばこ吸ながら、兩岸の風色を見わたせば、川向には藁家二三軒木立の間々に建ならびたる様は、畫に能書るがごとく、彼許六が、涉し場は人も友よぶちどりかな、といひ捨し餘情爰にありて、天然の雅景實に愛すべく、兎に角に目をなぐさめころを穩にするは、在郷の遊歴にありと己壹人天造の風光をたのしめり、頓て便船にわたり越つ、これより東の堤通り聖天のうら門まで凡貳拾町とかや、此川をひのかけしき右に左におもしろく、程近き耕地に、鶴の悠々然と餌拾ふあれば、もろ鳥のころくに求食ありて、樹に草に見るものはみな快然たり、斯て三人眺望に浮れ歩むともなし、聖天の堂に參拜し境内の隈々見めぐれば、池中に紫白まじへ咲し杜若も、木下川のながめに替りて又おもしろし、斯て田口源右工門が酒店に入て休らひぬ、爰に龜屋の菊、かゞやの千代鶴、なつや梅などいふしるしは美酒のよし、呑口つけて幾つとなくならべしほどに、幡里は殆

ど咽を鳴らし須臾に現氣を發しよろこぶ様は、日照に霑れし草に樹に天油然として、雨を洒ぎて恵むにひとしく、心身悦豫し、盃に向へば顔も面長に舌打ならして、たのしめるは上戸の一徳といはんか、左はいへ下戸の腹ふくらすものとは、豆腐牛蒡の煮べなれば、又候や土瓶取出し茶一煎しなぐさむ内、此家の女房年いまだ三十の内外目縁少したれたるが、揚枝さし若干白紙二三枚取そへて持出つゝ、山鼎へ繪畫給はれとたのむにぞ、山鼎は更に辭せず、筆袋取出し需めに應じてさらりと書したゝめる、此日の墨色日頃に拔群して見事なりしが、折しも東武八丁堀の肴屋といふもの來合せ居て、山鼎が墨色の冷たるを賞美し、序に書て給はれと紙出しけるまゝ、山水と鈍畫と貳枚したゝめ遣しけるに、予へ讀して給はれとありしほどに、安き事よとその意に任せけり、去ほどにさしも永き日あしも西山にかたぶさぬれば、來る十七日を約しけるに、あるじの曰、此十七日は兼て知賜ふごとく、諸方より人々の來ませば、靈法の繪ときも成かね馳走も仕がたし、七夕の日は風入かたぐ残らず飾り侍れど、一族懇意の人の外は來らねば寛りと雑談にも及ばれなん、くれぐれも七夕の日は待侍とありしまゝ、三人おのゝ七夕を兼約して立出つゝ、平井のわたしを越あづまの森へ參詣し、大川橋へ來し頃は黄昏過て、市店の兩側みな燈を點じ、酉の下刻わが家へ立わかれぬ、此日の遊歴ころへだてぬ友どち打つれだちて憩ふ、先々雅趣ありて面しるかりき、前にいふ山鼎が書し鈍畫の鉢たゝきの讀に、前書したゝめて、

妻はありやなしや肴はくうやくはずや

爛酒や飲んであたまの鉢たしき

以 風

山水の風景を書る讚に

何喰ずとも住居たしはるのやま

以 風

七拾六

東武藤寺笹寺榎寺の目録

一、東武小石川茗荷谷傳明寺 曹洞は、清水谷町の南横町坂口にあり、世俗みな藤寺といふ事は、境内に藤棚あれば也、いつ頃にかありけん、御巡見の節 大猷尊君當寺の藤を御上覽ありしが、その頃は境内にはびこりてありしにや、是はふじ寺といふべかりけるとかしこき上意ありしより、以來藤寺と稱す、就中門に掲し藤寺と書し横額は、唐の沈璠の筆とかや、今は寫しの彫額をかけて、沈璠の眞蹟をば什物になすとなん、かゝれば境内の藤棚は由緒のあれば随分いたはり置べきを、傳明寺先々住の代いかと思ひけん、藤棚を残らず取拂ひ捨たりしが、その處にや寺にいろ／＼崇る事あるは此故ならんと當住持にいたり、境内の井の邊に藤を植たり、後々は以前のごとく繁茂すべし、予が壯年の頃は藤棚折曲りて十四五間、花も又尋常ならざりしと覺ゆ、故に寺號を呼ば藤寺とのみ號せり、

一、東武四ツ谷鹽町南側長善寺 曹洞は、世俗みな笹寺とよぶ、これはむかし 大猷尊君江戸御巡覽の

砌、當寺へ立よらせ賜ひ、境内に夥しく笹の生茂りしを上覽ありて、笹寺ともいはんやと上意ありしよし、それより以來笹寺と呼り、但しその頃は東武も場末にいたりては、大體在郷にてありしかば、當寺境内埒もなく笹など繁茂しありける事ならん、今は玄關と庫裏との間に壹間四方ばかりに、駒よせを造作し中に、笹竹生茂りてむかしの形代を残せり、笹は雌竹に類して高さ五尺餘あり、むかしは一圓態笹の類にてやありつらん、且當境内に入幡太郎義家の燈池といふものありといふ人あり、全く虚談の甚しき也、さればみな人長善寺とはいはずして、笹寺とのみ呼り、故に門に笹寺といふ横額を揚たり、

一、東武淺草黒舟町盈滿院正覺寺 淨土は、堀田原の馬場の東に隣る、開山は増上寺觀智國師となん、當寺を世俗みな榎寺と呼り、むかし境内に大木の榎ありしによつて、斯は呼初し也、今は榎の樹なけれども、門にも榎寺といふ額を揚て、世人寺號をいはずして榎寺と稱す、傳えいふ中古いつの頃にかありけん、住持園基に強かりしが、或時山伏壹人忽然と入來り、庭前の榎を所望す、住僧嘲笑ひて中堀取がたきを知て、その意を任せぬ、しかるに翌朝見れば、庭前に件の樹なし奇怪といふべし、程過てこれを聞合ければ、遠州秋葉山の境内にありしよし也と、又一説に、藤堂家の藩中高木右馬之助、名古屋山三郎等聞ゆる強力なりしが、住持と掛碁の勝負によつて、人しれず深夜に根漕して持歸りしともいふ、それより以來榎の樹なしといへども、今に榎寺と稱す、以上これを東武の三異名寺とよぶ

也、

七拾七

感應寺中山口素堂が墳

一、東武谷中感應寺中の事は、上來ところくに認せりが、惣墓の中に山口素堂が墳墓あり、此素堂は桃青が門人にして、東武本所に世を遁れ風雅をたのしみ、畫を書手蹟も又拙なからず、予が所藏に素堂が書る自書讀一幅あれど、差たる發句にもあらず、唯人口に傳はり秀逸ともいふべきは、目に青葉山ほととぎすの一句なるべし、因にいふ俳優市川團十郎が家藏に、ばせを翁桃青の日用の米を入置し米櫃の代りに、柱に掛しといふ長ふくべあり、長さ壹尺八九寸廻り壹尺、漸く米六升も入ぬべし、翁の句に、新年米五升とあれば、それ程ならでは這入らぬにや、先々に團十郎はざれ歌を詠て、狂歌の名花道のつらねといへり、予が朋友山口彦三郎も、狂歌連には大人といはれて、狂名山路の高彦といひしが、伴はれて三升が宅へ罷り、伴の瓢子を見しに、山口素堂が瓢の表に二行に書し五言四句の讚ありて、上に朱漆を以て四山の二字を置き、三升が家の處藏とし甚古雅なるものたり、その讚左の如し、

四山

一瓢重泰山 自笑稱箕山

葛飾隱士素堂書

(朱字)莫習首陽山 這中飯顛山

とあり、素堂は今日庵と號し、享保二申年八月十二日没す、齡ひ七十五にてありしとなん、此墳墓爰に

ありて人のしらするが故に、明和元甲申年素堂五十回忌追福の爲且は名を世にしらすんと、白山片町欣淨院石坂の下に一小碑を建たり、此中の卷第十一の條下に明すが如し、但し感應寺には享保二申年八月十二日としるし、欣淨院には享保元申年八月十五日と刻したれば、後入てらし合せ見て賢勸を希ふのみ、

七拾八

田口源右衛門が所藏の靈寶の目錄

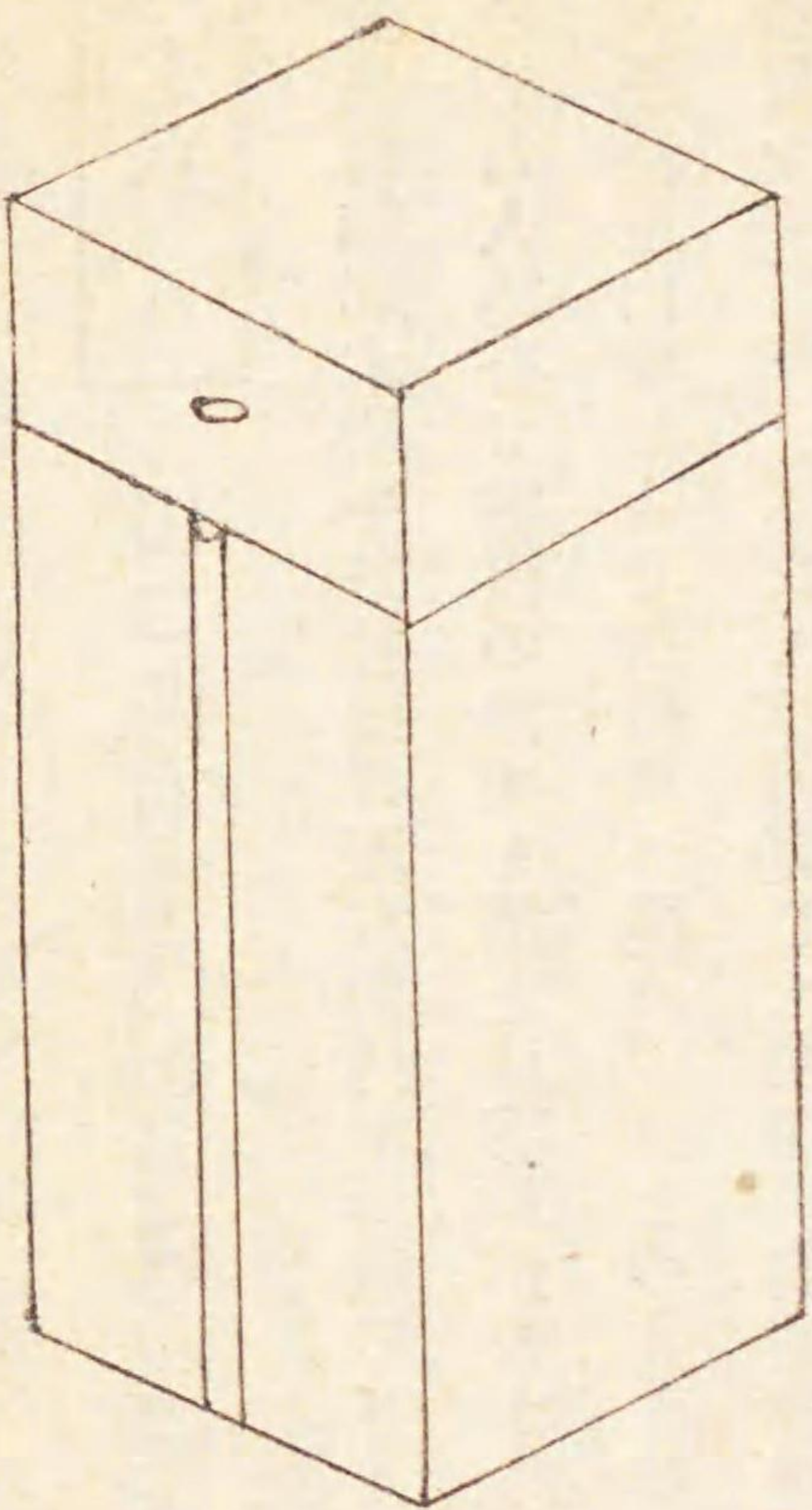
一、武州葛飾郡本所平井村田口源右衛門が所藏の品々は、例年四月十七日に披露すべしといへども、都鄙のもろ人込合て靈寶の由來も篤とは尋ねがたかりしが、七月七日は一族近隣の人より外は來らねば、瀾閣幡里山鼎をさそひ彼所へ罷り、ひとつく始元をたづねて見しまゝを爰にしるす、但し上にも書留置たりしが、ふたゝび熟覽して明細に書留置事、左のごとし、

一、東照宮御襟掛の守御本尊、御長壹寸三分座像の彌陀、

右座像の御後に小さき舟後光ありて、法身の阿彌陀と號す、作人は大原の龍善院の證據の阿彌陀如來を刻むとして、或日神人忽然と來り刻み終りて、西の空へ鳥のごとく飛去て行方なし、依て鳥の作と號し、恐らくは彌陀佛の眞作ならんと、故に神祖御印籠に入常く御襟に掛させられ、陣中にはなを以て御肌身に附賜ふ、此御佛御つふりの上に一體まし、左の扉裏に二體、右の扉裏に一體の

小あみだあり、その作至つて細密にして、木佛にはかゝる小さき佛像を見ず、實も眞の佛作と拜ま
れ賜ふ、依て又五あみだとも稱すとなん、神君御影身として慈眼大師へ譲り賜ひし尊像とかや、御
厨子^{ツツ}とても尋常^{ヨソツネ}の作にあらず、

一、右の尊像を入賜ふ御印籠は、眞の臘色塗^{ロイロズリ}の撫角^{ナデカク}にして堅凡五寸幅凡を貳寸四方ばかりもあらん
か、圖左の如し、



一、右御印籠の袋は、赤地の蜀紅^{シヨクコウ}切にして
地組尋常^{ヨソツネ}と異に、色は茶色に紅^{コウ}とを合せし
紅樺^{ベニカバ}ともいふべき色也、袋の裏は花色琥珀
と見へ、袋の口のかゞりは紺糸紐も唐打の
紺糸の様に見請たり、

一、十六將の圖は、堅物の一軸にて中彩色
筆者は誰ともしれずとかや、小具足を着、つ

ふりには何も着ず、鉢卷さへしたるもなし、上の中央には 神君床^{シヨウウキ}几に御腰を懸賜ひ、餘の人々
はみな跪き座せり、但し此圖は三州大樹寺にもあり、先は間近く 神祖を拜し奉るありがたさ、か
ゝる太平の御治世に生れたればこそ、都鄙の間を逍遙するもみな此君の御恩澤によれり、神祖を加

え奉りて十七將とす、その圖の名前左にしるすがごとし、

榊原式部太輔康政 大久保七郎左衛門忠世 高木主水入道性順

本多中務太輔忠勝 鳥居彦右衛門元忠 内藤四郎左衛門正成

東照宮 松平甚太郎康忠 蜂屋半之丞貞増 大久保治右衛門忠佐 服部安藏則安

酒井左衛門尉忠次 井伊兵部少輔直政 鳥居四郎左衛門忠廣

平岩主計頭親吉 渡邊半藏守綱 米津藤藏成順

一、大猷尊君より拜領の壹升入御盃、

右は裏表朱塗内の蒔繪は、切金^{キレキン}の松竹梅に鶴龜ふちは金の沃^{イッ}かけあり、是は先祖源右衛門は大力
の上大酒なりけるが、投網^{トアミ}に妙を得て中川筋御舟にて御遊覽の砌、御目通にて魚數々網にて採
し御褒美として、件の御盃を下されけり、

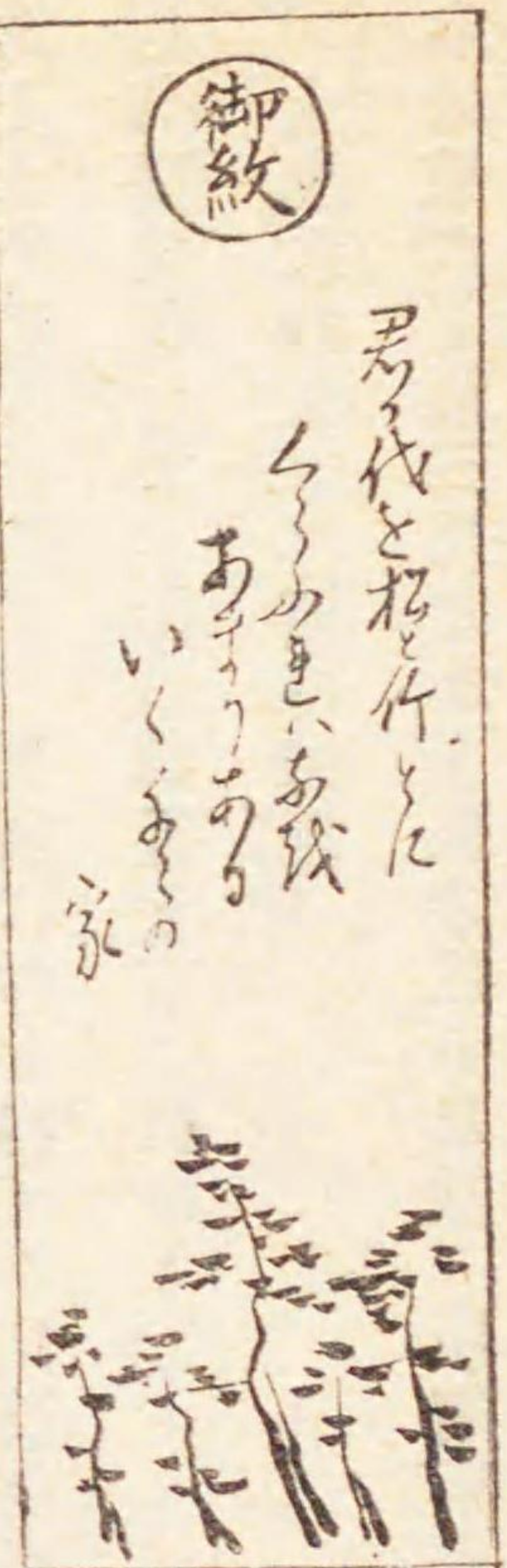
一、大猷尊君より拜領の御褥^{シトネ}、

右は鯨ざし幅三尺ばかり長さ凡五尺餘、所謂平人^{ヘイジン}の敷蒲團の如く、綿にはバンヤといをものを入
たるよし、色は黄にて萌黄の絹絲の如きもの長さ一寸程づゝふつさりと出て、天鷲絨の絲の永き
が如し、地組羅紗^{ラシャ}の類ひにして唐織なれば名は何といふやらん、むかしよりいひ傳^{ツタ}えずとなん、

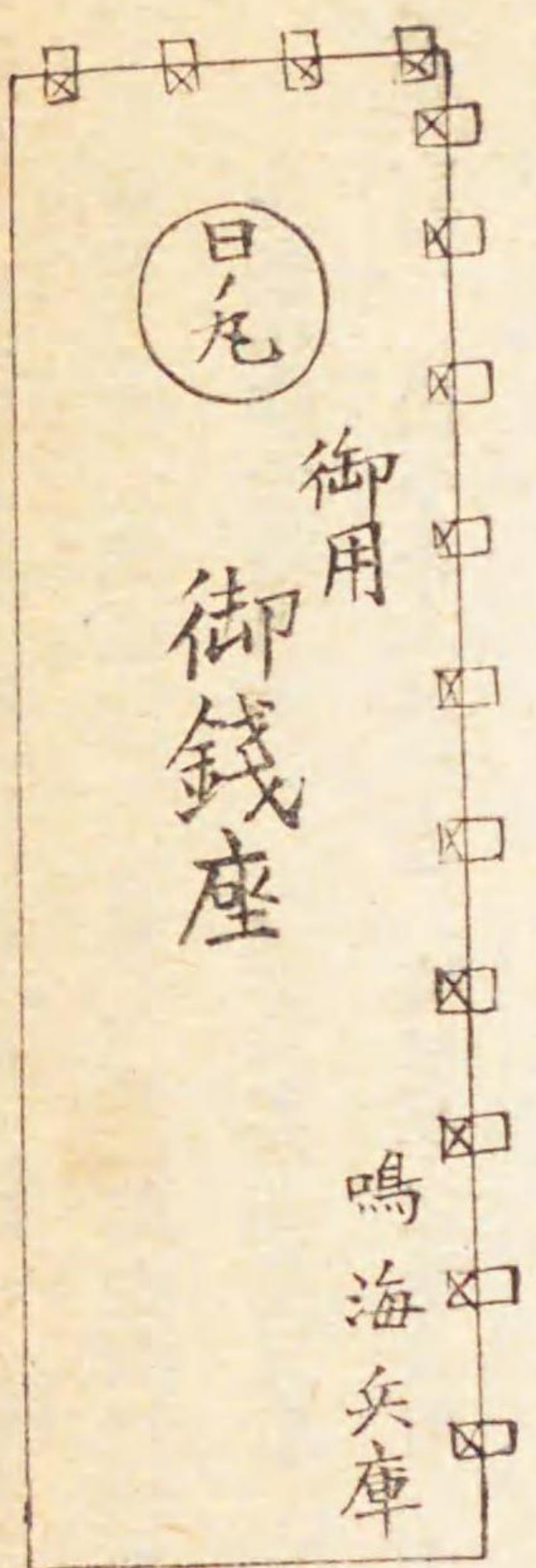
一、慈眼大師御當家を祝せし歌の一軸、

右は豎もの、一軸にして、上の中央に葵の御紋を、中段には慈眼いまだ南光坊僧正といひし時、自詠を自筆にて五行に認め置たり、手跡御家流にて最見事也、下には松竹梅を認めたり、中彩色の密書古土佐と見ゆ、兩方とも名印なし、左に圖するがごとし、

一、御鷹野の御墨付壹通、臘色の箱に入、

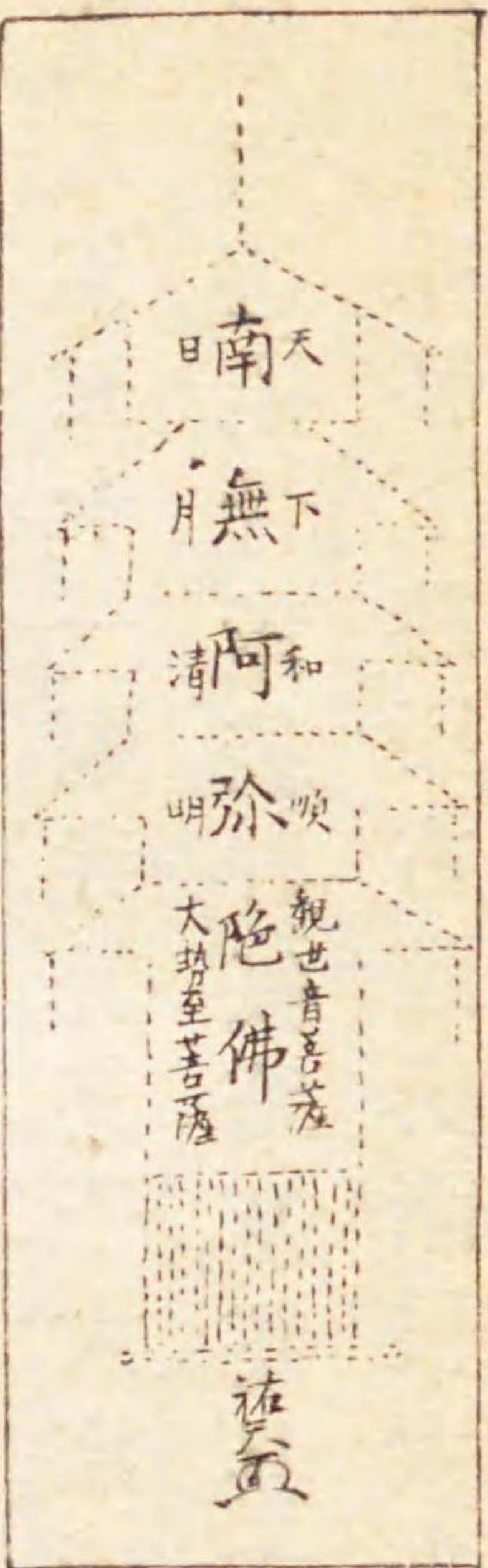


一、寛水の新錢を鑄し事は、大猷尊君の御夢を南光坊天海判談して言上せし一條御賢慮に叶ひ、新錢の文字の鑄形をば天海に任せ賜ふ、由て寛永通寶の文字は同人の手跡たり、その節錢座の奉行をば鳴海兵庫に仰付らる、是天海に續縁の人にて田口源右衛門が兄弟のよし、錢座の御幟を下さる唐木綿の白地に上に、日の丸を朱にて染抜、文字は黒く幅四尺餘長さ凡壹丈餘もあるべく、左の如し、



一、目黒祐天寺僧正自筆念佛にて、塔形の一軸豎物、

右は五重の寶塔を悉く細字の念佛にて書たり、左の如し、



以上

右八種の寶物は、四月十七日、七月七日座敷にかざりて間近く披露し、殊に居宅の林泉の摸形工にして尤よし、後人見て知ぬべし、

遊歴雜雜記 貳編卷之下終

遊歷雜記 後序

廓然寺眞宗也前地主敬順師名大淨別號十方菴先姓織田氏敬順字也

公方織田公之兄之子曰津田隼人正其子信賢入三河本法寺爲寺主教映上人弟子更名賢順號廓然寺其後世嗣廓然寺爲本法寺子院本法寺之移江戶亦隨而從自賢順至師八世親子相嗣可謂華胄矣師之爲人淡然無嗜惟酷好茶事精其法律從遊甚衆師與之交亦泊然莫逆惟酷重長德愈久而愈篤可謂愛衆親仁矣文化八年五十一嗣寺於其子大惠老於一室于花于月出遊爲事而每出遊擔骨董袋貯紙筆及茶具或一宿或再宿縱浪於武總之間於是乎都下勝槩古迹與諸侯太夫名園外至絕谷叢祠寒墟破塚荒林廢寺斷崖古城無所不到到必求金石之文問鄉曲之老窮其

珍奇神怪高古幽勝乃記之以歸至今歲十二年其所記成前後二編六卷名曰遊歷雜記是歲七月後編三卷繕寫成以示余余已讀之則若與師同弄林泉酌茶吟詩涼氣自生清風自至使吾頓忘秋暑之煩可謂能記矣然其序皆不之載亦可謂缺典矣余雖無德而師之舊交者也然則不可以不序之於後也八月二日中水仁靜述

遊歴雜記

一 貳編目上卷六十六話

一 同じく中の卷七十八話

一 同じく下の卷七十八話

右貳編目三冊合而貳百貳拾貳ヶ條費禿筆畢

藤田理兵衛作
菱川師宣画

増補江戸物惣康子名所大全

後編

增補 江戸惣鹿子名所大全目次

第四卷

天台佛閣

寛永寺 浅草寺 清水寺 東光院 新護國寺
如來寺 法泉寺 安養院 法福寺

浄土佛閣

増上寺 傳通院 幡隨院 靈巖寺 靈山寺
天徳寺 雲光院 西應寺 大養寺 西福寺
誓願寺 行安寺 法善寺 本誓寺 浄土寺
龍寶寺 誓光寺 澄泉寺 寶樹寺 眞福寺
西光寺 善光寺 無縁寺 直指院

禪宗佛閣

吉祥寺 廣徳寺 東海寺 天澤寺 金地院
總泉寺 東禪寺 泉岳寺 青松寺 金剛寺
海禪寺 瑞聖寺 海福寺 種徳寺 善勝寺
龍昌寺 桃林寺 勝光院 海晏寺 祝言寺
興雲寺 西勝寺 高林寺 長谷寺 濟松寺
豪徳寺 廣岳院 東光寺

眞言佛閣

高野寺 知足院 彌勤寺 眞福寺 文珠院
圓福寺 品川寺 尊重院
一向佛閣

東本願寺 西本願寺 法恩寺 善福寺 稱念寺
唯念寺 長泉寺 日輪寺

法花佛閣

本門寺 法花寺 感應寺 幸龍寺 淨心寺
宗延寺 善立寺 蓮花寺 瑞林寺 法恩寺
海行寺 隨林寺 法明寺

諸宗佛閣

淺草觀音 駒形堂 毘沙門堂 魚籃觀音 目黒
目白 白山 愛宕 太子堂 遍照寺
淨光寺 榮興寺 福昌寺

諸宗末寺頭

妙心寺 時宗 新義 身延山 池上

中山 玉澤 越後本成寺 本國寺
妙滿寺 不動院 山本坊 禪三ヶ寺
關東十八ヶ寺談林 東叡山大名宿坊

武州大寺大觀

第五卷

江府南北通 同東西通 江府外通 同 異名
諸職商人賣物有所
日本橋より諸方道積

三味 三大橋 堺町 吉原 吉原圖
江戸八景

第六卷

諸師諸藝

醫師 小兒醫師 産前産後醫師 目醫師 口中醫
師 外科 針立師 儒者 曆學 神道 陰陽師
手跡 算者 同指南 歌讀 連歌師 俳諧師 碁
將棊 立花 蹴鞠 繪師 大和繪師 佛繪師 刀
目利 古筆目利 目貫彫刻目利 繪目利 諸道具
目利 按摩取 耳垢取 檢校 不座檢校 勾當
能太夫 脇師 笛 小鼓 太鼓 大鼓 狂言師
座敷獨狂言

諸職名匠諸商人

町年寄 金座 銀座 常是包 朱座 吳服所 甲
府宰相様吳服所 紀伊中納言様吳服所 尾張中納
言様吳服所 水戸宰相様吳服所 大工頭 分銅彫
刻師 針口師 茶師 ひわたや 檜物師 御冠烏
帽子並裝束師 見す簾師 鐵炮師 疊師 鏡師

土圭師 香具師 太刀屋 唐本屋 書本屋 書物
屋 屏風屋 組糸屋 琴三味線師並糸 鼓屋並し
らべ忍緒 面打 揚弓師並矢師 笛筆策師同尺八
筆屋 墨所 經師 金銀箔屋 大佛師 菓子所
塗師 蒔繪師 櫛師 唐木細工師 白粉屋 針所
金銀打針師 名酒屋 表具師 佛具並鑄物師 繪
繕師 茶入繕師 茶入袋師 茶入蓋師 茶湯道具
直 幅紗所 釜屋 銅人形師 繪具屋 額彫屋
彫物師 具足屋並着込 轡所 弓師並矢 鞍打
鐙師 堆朱彫刻師 鞞屋 鑢屋 磔師 鷹磔師
弦指 釘金物鍛冶 刀鍛冶 柄卷師 剝毛師 鐘
木師 鬻師 小細工印判師 淨瑠璃本屋 青漆
合羽屋 錫道具師 唐木屋 唐革印傳屋 茶臼直
蠟燭屋 伽羅屋 伽羅油屋 花露屋 製藥屋 地
張させる屋 花や 作花師同京下り 張子屋並ひ

いな類 碁盤師 鮫屋 地唐紙師 葛羅屋 漆屋
 鑷子 鑷師並象眼 傀儡人形師 針金師 銀細工
 師 刀磨屋 鞘塗師 目貫 切付縫掛師 切付屋
 揉皮屋 玉細工師 眼鏡 鐔屋 唐物屋 古筆屋
 珠數屋 大鞍臺師 檜物屋 金魚屋 からくり人
 形師並ぜんまい かさり細工師 繪馬屋 髪結水
 入師 石筆屋 棕櫚箒 繩打 能裝束師並借裝束
 京都染物屋 硯屋 紺屋 傘並挑灯屋 具足羽織
 並仕立物 旗天蓋仕立屋 萬病圓 腹藥 保童圓
 外郎透項香 延命散定齋 美清香 牛黃圓 國分
 散 錦袋圓 目藥 膏藥屋 齒の藥並はぬき 地
 黃丸 皮癬瘡藥 藥糞屋 疝氣藥 五香湯 つり
 はり師 刻肴や 白味噌屋 長崎抽餅子 大佛餅
 饅頭や 豆腐屋 京下り菓子屋 白箸屋 唐飴
 打栗 ふいこ焼 米まんぢうや 櫻あめ ぢいら

とふ 麥糞糸櫻 刻煙草 饅餛そば粉屋 籠素麵
 しほから類 姫饅頭 鮓並食ずし こんにやくや
 ふのやき 太心草 見頓屋 同提重 奈良茶 手
 打そば切 芳飯 食見頓 芥子の粉屋 あさがほ
 煎餅 めり安煎餅 葛煎餅

問屋大概

諸色問屋米油綿 諸國問屋 大坂船問屋 鐵問屋
 紙問屋 木綿問屋 茶問屋 墨筆問屋 人參問屋
 櫛問屋 蠟問屋 藥種問屋 させる問屋 小間物
 問屋 土人形問屋 魚問屋 唐人宿 京大坂飛脚
 宿 日用札場 しかた咄 けだ物藝仕付

增 江戸惣鹿子名所大全卷の四

天台佛閣

一、東叡山寛永寺圓頓院

武州上野忍郡人王百九代太上天皇御宇寛永年中、慈眼大師草創寺領一萬石、

東照大權現様 千三百三十五石 大猷院殿様 千三百七十五石 嚴有院殿様御靈屋 寶樹院殿

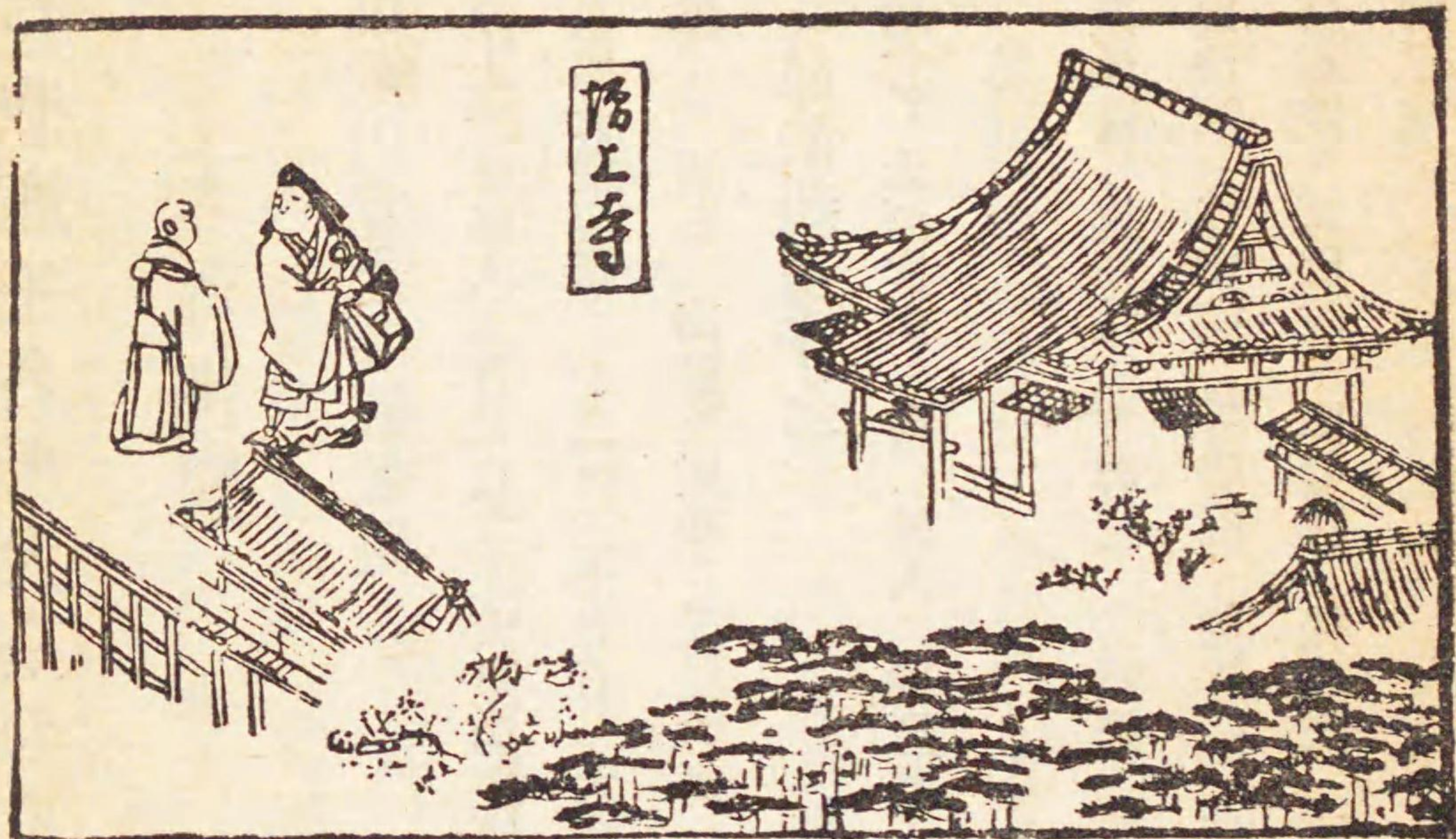
様 八百石 高巖院殿様 元三大師 法華堂 常行堂 一切經堂 清水寺 本尊千手、惠心僧都作

一、二品法親王守全

坊官 大西宮内 同 候人 榊原藏人

坊 舍

顯性院 眞如院 吉祥院 常照院 明王院 寶勝院 本覺院 淨圓院 青龍院 一乘院
 傳法院 實成院 等覺院 勸善院 戒善院 普門院 明靜院 元光院 見明院 林廣院
 修禪院 護國院 圓覺院 覺成院 東圓院 壽松院 松林院 泉龍院 東漸院 津梁院
 清雲院



一、金龍山淺草寺知樂院

武州淺草寺領五百石、推古天皇御宇に此所へ遷す、中興朱雀院の御宇天慶五年に安房守平公雅再興、本尊聖觀音

神明社 五重塔 三社權現 辨財天

坊 舍

日音院	養光院	金藏院	月正院	法藏院	梅音院	壽性院	正徳院	金剛院	學善院
龍泉院	明音院	知光院	法知院	長壽院	正福院	壽命院	善行院	正藏院	福壽院
法性院	金剛院隱居		修禪院	千藏院	仙了院	蓮乘院	正堂院	壽性院	十善院
源福院	花藏院								

一、江北山寶聚院清水寺

武州淺草、人王五十三代淳和天皇天長年中慈覺大師草創、中興慶圓法師開基、本尊慈覺大師作、一刀三禮。

一、藥王山醫王寺東光院

武州淺草 慈覺大師草創、本尊藥師、春日作、天台一百八ヶ寺本地なり。

一、新護國寺 寺領三百石 本尊 大猷院殿守本尊めのう石觀音像開基

一、歸命山如來寺大日院

寛永十二年草創、開山但唱木食建立、本尊五智如來大佛但唱作、

一、法泉寺 一谷戸塚

一、安養院 目黒

開山長上人、本尊入滅 釋迦佛、空譽上人作なり、是は小寺名佛に入

一、法福寺 千駄森 寺領二百石

淺草燈明寺 三田寺町多門院 淺草清淨寺 淺草善福寺 三田寺町西藏院 下谷三ノ輪村永久寺

淨土佛閣

一、三縁山増上寺廣度院

豊島郡芝、後小松院御草創、西譽上人開基、關東十八ヶ寺談林惣本寺、本尊雲慶作、

寺領五千石 東照大權現様 台徳院殿様 崇源院殿様

月行事十二人 一文字五十人 横木間四十二人 縁輪六十人

坊 舍

花兵院 倭敬院 壽光院 花養院 源寶院 廣徳院 源壽院 源興院 廣慶院 常照院

良源院 貞松院 光兵院 昌泉院 月光院 月窓院 天光院 戒徳院 靈晴院 源泉院

瑞花院 際崇院 林松院 淨了院 安養院 普光院 天陽院 常行院 徳水院 惠源院

寶勝院 安立院 清光院 超勝院 最勝院

諸化寮末寺

一、無量山壽經寺傳通院

寺領六百石武州小石川、後小松院御宇明德年中了譽上人開基、十八ヶ寺談林之内本尊座像彌陀、

惠心僧都作、

坊 舍 昌林院 見樹院 眞珠院

所化寮百軒

末 寺

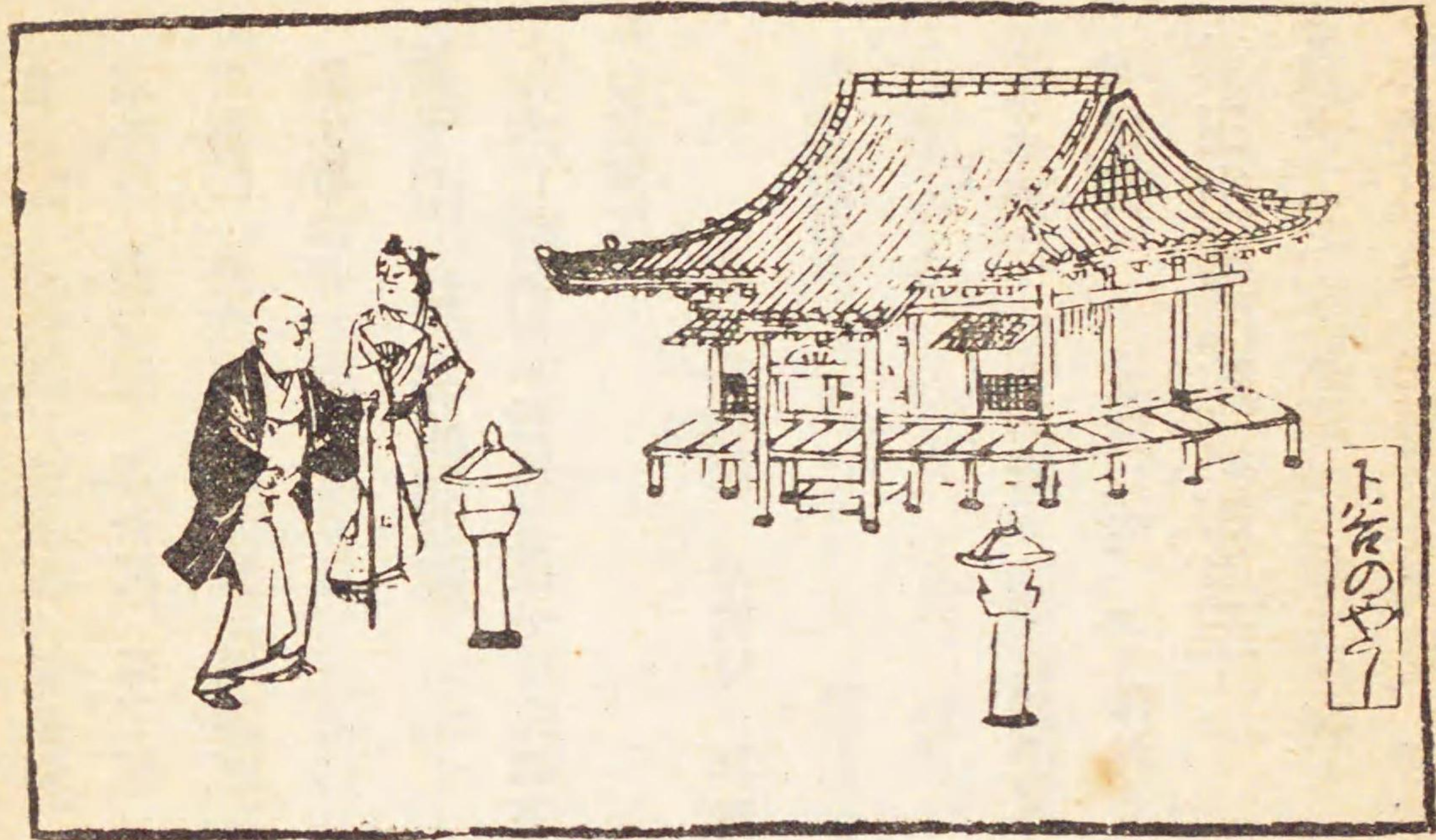
吉水宗慶寺 大塚和香寺 金澤龍閑寺 大塚光岳寺 小日向生西寺 同大圓寺 白山淨運寺

同淨土寺 代々木清岸寺 羽生淨林寺

一、神田山幡隨院新知恩寺

寺領五十石、武州淺草、淨土談林、元和年中智、譽白道幡隨意上人開基、

坊 舍 光旭院 源涼院 惠眼院 知日院 正立院 藥師堂 念佛堂



所化寮四十八軒

一、道本山靈巖寺

寺領五十石、武州深川、雄譽松風靈岩上人開基

勢至堂 地藏堂 念佛堂

坊 舍 正覺院 永壽院 正林院 淨閑院 長昌院 深松院 安養院 淨等院

所化寮二十五軒道心者十人

一、常在山靈山寺二尊教院

寺領五十石、武州淺草、淨土談林、大潮和尚開基、

坊 舍 德壽院 良德院 嶺松院 龍行院

一、光明山天德寺和光院

寺領五十石、西久保、人王百六代後奈良院天文二年に稱念上人開基、

僧 舍 天和院 長谷院 和合院 隨葉院 知學院 榮閑院 知想院 不斷院 寶樹院

永壽院 光學院 隆想院 寶隨院 長元院 淨桂院 攝最院

末 寺 淺草專樹院 西久保圓成寺 谷町道源寺 二本榎覺信寺

一、雲光院 深川

江戸惣鹿子名所大全 卷の四

寺領五十石慶長年中 權現様無双尼近の侍女阿茶局建立則號雲光院

坊 舍 法龍院 淨慶院 良正院 養壽院 正光庵 正覺院 仙龍院 傳壽院 樹光院
清光院 淨心院 長源院 清心院 慈清院 淨德院 固貞庵 樹光庵 一言院

一、田中山西應寺

寺領十石、武州金杉村、人王九十九代後光嚴院御宇應和元年明賢上人開基、本尊彌陀、惠心僧都作

寺 中 淨林院 正定院 善更院
末 寺 芝法音院 芝源光寺 芝宗光寺 芝相輪寺 三浦十切寺 せたかい村淨光寺無量寺

一、西谷山大養寺

寺領五十石、西久保、人王百八代後陽成院慶長年中儼譽上人開基、本尊雲慶作、

寮 舍 壽向院
末 寺 芝高輪生善寺

一、西福寺 淺草

寺領百石、心蓮社貞譽上人開基、本尊彌陀、安阿彌作

坊 舍 轉壽院

一、田島山誓願寺華樂院

武州淺草、見蓮社、東譽上人開基、本尊阿彌陀春日御作、

寺 中 花樂院 宗真院 嶺翁院 假宿院 受用院 長安院 宗周院 長壽院 林宗院
德壽院 寶照院 西慶院 德正院 寶樹院 及全院
末 寺 淺草玉蓮寺

一、壽福山行安寺

武州淺草、慶長年中起主開山信蓮社、深譽長雄上人、本尊阿彌陀、運慶作

寺 家 經壽院 是心院 清光院 香原院 見松院 專稱院

一、法善寺 深川

坊 舍 玉樹院 千壽院 淨正院 良心院 南龍院 眞常院 仙空院 最心院 眞淨院

一、本誓寺 深川

一、平川山淨土寺源照院

武州赤坂一木町、開山教譽聖公上人、文龜三年平川口より引移

寺 中 雲洞院 寶珠院 常照院 永蓮院
末 寺 鮫橋一行院

一、珠嶋山龍寶寺是應院

淺草寺町、慶長年中建立、開山是應上人、本尊惠心作
寺 中 法信院 稱名院 長稱院 宗樹院 西光院 禘宗院 冷松院 寶池院 光稱庵

一、惠日山誓光寺

淺草開山信譽上人、本尊聖德太子作

寺 中 榮廣院 聖取院 正覺院 梅香院 智徳院

一、長青山梅窓院寶樹寺

武州青山宿、開山長譽南龍上人、本尊彌陀 太子作

一、常榮山眞福寺

麴町

一、西光寺

四谷

一、南命山善光寺

谷中、淨土尼寺、祖師中將姫、本尊阿彌陀、中將姫作

一、國豊山無縁寺廻向院

本庄 後西院御宇人王百十二代明暦三年開基

一、直指院

白銀原 場譽木食建立なり

淨土宗

本郷願行寺	淺草天學寺	同	正法寺	同	千殊寺	同	玄空寺	同	靈源寺	同	東照院
淺草榮正院	同 宗源寺	同	清徳寺	同	正念寺	同	行安寺	同	宗安寺	同	善徳寺
同 正徳寺	同所 正應院	同	元光寺	同	高岩寺	同	長福寺	同	正徳寺	同	善徳寺
同 相窮寺	同 正安寺	同	西光寺	同	新光明寺	同	万泉寺	同	廣大寺	同	玉泉寺
同 清教寺	同 正淨寺	同	淨願寺	同	大雲寺	三田 臺町	西海寺	三田	大正寺	同	大龍寺
同 宗福寺	同 蓮上寺	同	實相寺	同	願海寺	同	大仙寺	同	龍原寺	同	鯨橋宗源寺

禪宗佛閣

一、諏訪山吉祥寺

寺領五十石、駒込太田道灌開基、中興遠山丹波守開基開山青岩周陽和尚、御 上意地、衆僧七百餘人、寮數三十二軒、經藏塔司

喜藏院 宗寶院 洞泉寺 東陽庵 誦經庵 東光院

門前二十三軒 寺中東西之百四十四間餘、南北之百十九間餘

末 寺 小石 淨光院 向日 金剛寺 同日輪寺 牛込天徳院 同 寶泉寺 同 龍門院
 同 鳳林寺 同 宗參寺 谷中 玉林寺 淺草 祝言寺 同 曹源寺 同 永見寺 木座 福言寺
 葛西 法泉寺 同 圓徳寺 同 妙眼寺 芝 仙翁寺 高田 夾山寺 戸田 松源寺

一、廣徳寺

寺領五十俵、武州下谷 希叟宗芋禪師開基、天正十九年先住從小田原引移御當地、
 坊 舍 通玄庵 永壽院 梅雲院 慶徳院 宗雲院 徳雲院 長春院 タイジユ院
 松東院 圓照院

一、萬松山東海寺

寺領五百石、武州荏原郡品川 澤庵和尚開基 寛永十一年に建立

一、報恩山麟祥院天澤禪寺

寺領三百石、武州湯島郷、稻葉氏春日局寛永二年建立、妙心寺渭山劉和尚開基
 寺中

一、金地院

西久保切通 石濱村淺草末 學宗和尚開基、禪宗曹洞三ヶ寺なり

一、東禪寺

芝高輪 靈庵和尚開基
 坊 舍 心源院 學勝院 正樹院 宗寶院

一、泉岳寺

芝高輪 門庵和尚開基
 坊 舍 高雲院 文入院 養樹院

一、萬年山青松寺

愛宕山南、雲崗後徳大和尚開基、人王百五代後栢原院御宇永正丙子年太田道灌入道建立、
 坊 舍 清岩院 高樹院 傳宗院 吟宗院 忠岩院

末 寺 西久保 青龍寺 芝 正山寺 同 松久寺 土器 瑠璃光寺 同 源正寺 青山 玉窓寺
 四谷 龍昌寺 淺草 大松寺 芝 長泉寺 鮫橋 湖雲寺

一、金剛寺

太田道灌建立、用山大和尚開基

一、大雄山海禪寺

淺草、桓武天皇六代後胤平將門建立、中興覺印和尚開山、

一、永壽山海福寺

木庵和尚開基、寛文年中本尊釋迦 白銀原
 一、靈鳳山種徳寺 深川、隱元禪師弟子獨本師開基なり、本尊釋迦左右文珠普賢、

武州赤坂馬場町、開山勅諭東光智燈禪師、天正十九年辛卯先住聖傳智禪師、從小田原引移、御當
 地於麴町十丁目、寺地拜領、
 寺 中 栢樹庵 松溪院 松壽庵

末寺 四谷祥山寺 品川泊松寺 武藏野久米川徳藏寺

一、雄峯山善勝寺

武州、四谷天馬町、開山青繁和尚

坊 舍 善徳寺

末寺 四谷善長寺 同 龍泉寺

一、臥雲山龍昌寺

武州四谷、開山隨翁族鳥大和尚

末寺 四谷北寺町永松寺 同 養谷寺 四谷南寺町永信寺 麴町常仙寺 深川全徳寺

一、靈雲山桃林禪寺

淺草、開山南雄英禪師、源氏奥平氏、慶長年中建立、

寮 舍 長昌庵

一、與善山勝光院

世田谷 寺領三十石、開山天榮和尚是寺吉良氏代々の廟所なり

一、補陀山海晏寺

品川

一、光嚴寺

品川 太田入道道灌建立同像あり本尊藥師

一、萬年山祝言寺

洞家、淺草、天文二十年太田道灌入道建立、開山良山存久大和尚

末寺 三谷村本禪寺

一、興雲寺

三田聖坂

一、西勝寺

牛込榎町 開山水南和尚、妙心寺輪番持、

坊 舍 徳林院 養性院 法正院 實生院 宗轉寺 自性軒

一、金峯山高林寺

駒込、慶長三戊戌十月二十九日開山桂巖宗嫩大和尚

寺 中 興福庵

末寺 駒込江岸寺 小石川大林寺 深川増林寺

一、補陀山長谷寺

下澁谷、下野富田大中寺末寺、開山門庵宗關大和尚、天正十二年移於溜池上龍雲院之地、置于此
日年改龍雲號長谷寺、本尊釋迦

末寺 武州黒金宗榮寺 同龍土長徳寺

一、濟松寺

寺領三百四十五石、武州牛込、開山祖心建立、

大猷院様御位牌立、

一、大溪山豪徳寺

荏原世田谷

開山馬堂昌譽禪師、中興問解芦關禪師、再中興大極秀道禪師、當寺文明十二前開基、豪徳院殿是

吉良氏正忠之伯母也、此所其墓所有、

末寺 善如院 高林院

一、廣岳院 芝二本榎

一、東光寺 寺領貳百石 目黒先伏間村

禪宗

牛込 長圓寺 同 萬青院 淺布 百姓町 東北寺 同先 正雲寺 淺草 萬龍寺 同 開善寺

同 長徳院 同 宗禪寺 同 立國寺 同 台相寺 同 洞學寺 同新寺町 休乘寺

同 高國寺 同 秀源寺 青山 玉宗寺 淺草 崇福寺 芝いさ 大圓寺 淺草新寺町 大正寺

同 寶福寺 同 宗福寺 同旅館町 大雲寺 一谷田町 盤松院 同 東雲寺 高輪 海徳寺

一谷田町 長圓寺 同 寶性寺 麻布 正雲寺 高輪 清覺寺 芝金杉三丁目 西仙寺 同 玉泉寺

駒込 大圓寺 三田 宗溪寺

眞言佛閣

一、高野寺正覺院

二本榎、寺領千石、高野之内弘法大師四十二歳の御影自作

兩門衆 無量壽院 法生院 在番衆 地藏院 大樂院

一、知足院

一、彌勒寺

一、眞福寺 愛宕下、弘法大師草創、本尊藥師如來 大師作

一、文珠院 淺草、本尊不動尊像、高野山行人方の頭なり

一、愛宕山圓福寺 寺領百石

坊 舍 金剛院 千藏院 萬藏院 教證院 玉藏院

一、海照山品川寺普門院 品川

永應元年中開山權大僧都弘尊、本尊水月觀音、弘法作

一、尊重院 寺領二百石、豊島郡東叡山

眞言

淺草新寺町 言淨院 同 正福院 同 延命寺 同 常住院 同寺町 吉乘院 同 密藏院

同新寺町 地藏院 一谷田町 洞圓院 大佛上正學院 三田 佛乘院 同 眞草院 三田 大正院

江戸惣鹿子名所大全 卷の四

彌勒寺

一、東本願寺 淺草 教如上人開基

坊 舍 長敬寺 德本寺 善照寺 滿照寺 專勝寺 蓮光寺 妙順寺 淨照寺 眞福寺

正行寺 光圓寺 願龍寺 西光寺 通覺寺 宗音寺 玉泉寺 長專寺 淨林寺 法善寺

眞順寺 妙清寺 雲行寺 則隨寺 聞成寺

一、西本願寺 木挽町築地

一、高龍山法恩寺 淺草、淨土眞宗、親鸞上人弟子聖心坊開基、往古は下總國飯沼に立、

坊 舍 專念寺 長全寺 門名寺 林香寺 永願寺 光徳寺 信正寺 香念寺 西光寺

一、龜子山善福寺 麻布、親鸞上人弟子了海上人開基、本尊彌陀如來、惠心作

増 舍 金藏寺 福泉寺 光善寺 西福寺 學光寺 善行寺 西重寺 淨泉寺 淨光寺

德生寺 眞福寺 善通寺

一、光澤山稱念寺 高田一向宗、武州淺草、開山正傳權僧都法眼

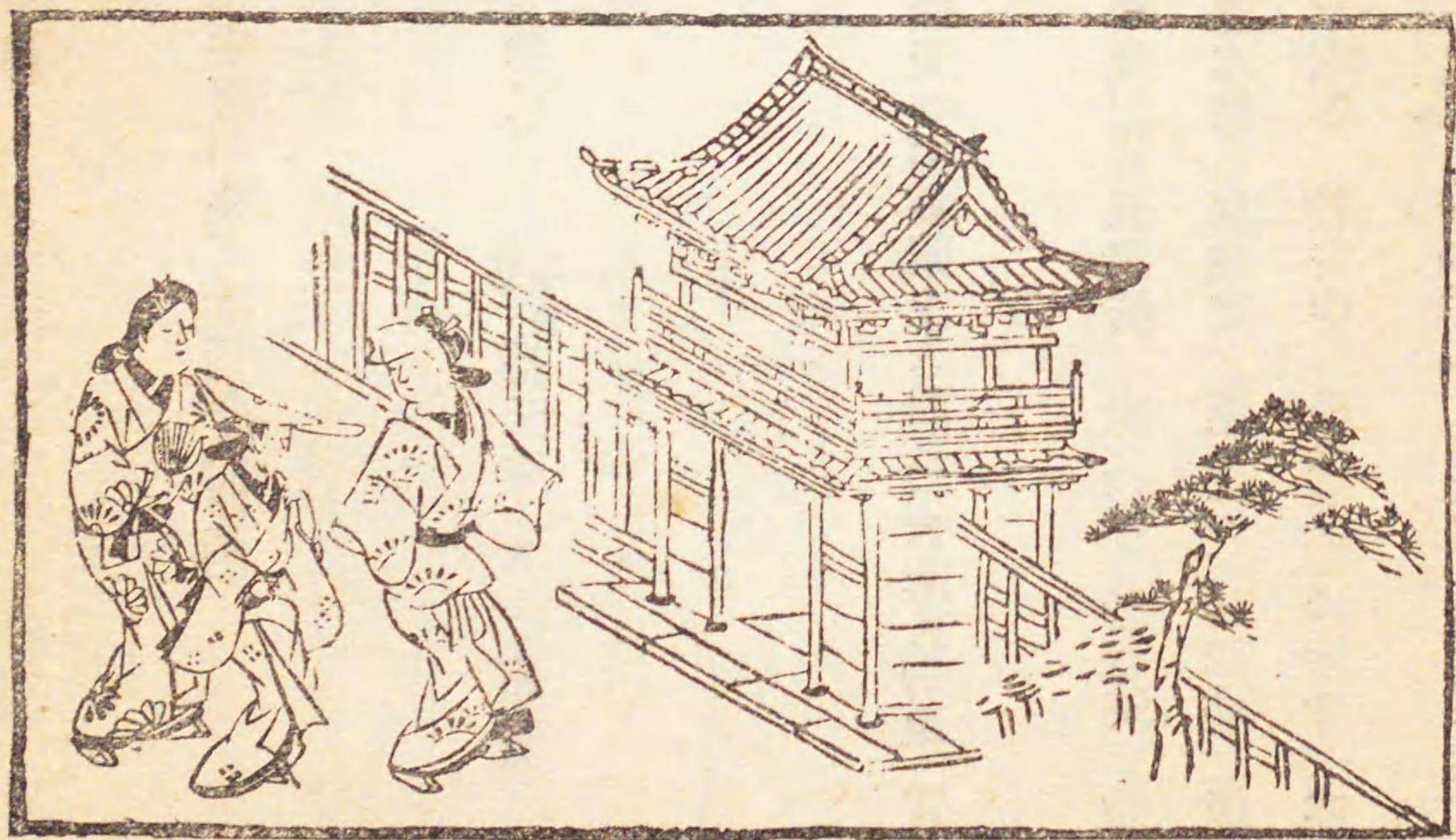
寺 中 寶池軒 淨性軒 良正庵 慈照軒 德壽庵

一、至心山唯念寺大信院 高田一向宗、武州淺草、開山淨因權小僧都

寺 中 松壽庵 壽光庵 林昌軒



江戸惣鹿子名所大全 卷の四



一、澄泉寺 溜池の上高田一向宗

寺 中庭教庵 慶正庵

一、日輪寺 淺草、藤澤末寺頭、本尊阿彌陀、安阿彌作、遊行上人開基

坊 舍 林香院 東福院 定徳庵 寶樹庵

本願寺宗

淺草 妙福寺 寺町 西正寺 三田 西蓮寺 三田 勝三寺 金杉 三丁目 長元寺 同 慈法寺

同 法仙寺 同 安樂寺

法花宗佛閣

一、長榮山本門寺 寺領百石、荏原郡池上村、弘安年中日蓮上人開基、大聖人御像は日法聖人作、

大坊 寺領十石宗仲屋舖

坊 舍 照榮院 九條院 妙泉院 中道院 本覺院 玉藏院 安立院 善覺院 妙法坊

大善坊 正教坊 覺藏坊 妙遠坊 本城坊 岩本坊 眞應院 蓮光坊 妙壽坊 遠乘坊

妙莫寺 圓頓寺 大林寺 養源寺 林昌寺 本隨寺 妙安寺 榮林寺 妙淨寺 本住寺

長照寺 妙光寺 正教寺 本光寺 本學寺 長慶寺 淨心寺

末 寺 二本 承教寺 谷中蓮久寺 麻布心性寺 淺草蓮花寺 同 長遠寺 同 正學寺

同 大仙寺 同 經王寺 同 實相寺 同 遠妙寺 同 法泉寺 同 法養寺 品川蓮長寺

同 本眼寺 二本 朗清寺 谷中妙正寺 麴町善國寺 牛込常林寺 芝 榮門寺 日黒本立寺

一、妙光山法花寺 寺領十九石荏原郡碑文谷、開山日源上人開基、釋迦堂は飛彈内匠建立、仁

王、安阿彌作、

坊 舍 本龍院 本成院 東照院 岸之坊 杉本坊 寒理院 行遠院 下之坊 上之坊

藤之坊 安國坊 西之坊 昌樹坊 北之坊 東之坊 中之坊

末 寺 淺草 橋場 長照寺 淺草 蓮光寺 谷中 感應寺 妙法寺 ほと 自源寺 がや 珠林寺

六軒 妙圓寺 中目 正覺寺 相州 雲谷 圓長寺 ま 淨圓寺 同 龍立寺 堀内 妙法寺

一、長曜山感應寺 寺領三十八石武州谷中、中興日長上人開基、日蓮上人菩薩像御自作なり、

坊 舍 隆生院 是運院 本覺院 良音院 通性院 理來院 理享院 本如坊 常淵坊

玄光坊 佐野坊 善陽坊 源明坊 圓定坊 覺立坊 隨翰坊 境林坊 本行坊 清山顯坊

覺連坊 要張坊 禪也坊 寶藏坊 林賀坊 雲津坊 翰女坊

一、妙裕山幸龍寺 寺領五十石、武州淺草、開山正心院日幸開基

坊 舍 隨賢院 唯心院 賢輪院 延壽院 智應坊 詮雉坊 春碩坊 感應坊 眞性坊

- 一、淨心寺 寺領百石深川 坊舎
- 一、報新山宗延寺 開山日精聖人身延山末寺 三ヶ寺之内、下谷寺 中 是真院 眞淨坊 常心坊 守玄坊 琢源坊
- 一、大光山善立寺 武州下谷、開山壽仙院日德聖人、身延山末寺頭 寺 中 仙應院 三惠院 惠林坊 法林坊 圓修坊 心如坊 善行坊 本龍坊 妙靜坊
- 一、本松山蓮花寺 武劔小石川天正十五年開山日雄聖人、寺 中 仙通院 心了坊 觀成坊 本行坊 延壽坊 宥靜坊
- 一、瑞林寺 谷中 身延末寺頭
- 一、平川山法恩寺 谷中寺領五百石、後土御門院御宇天正年中太田道灌入道建立開山日住上人
- 一、海行寺 四谷
- 一、隨林寺 四谷
- 一、威光山法明寺 寺領十石、武州曾司谷、日源上人開基、日蓮聖人御影、大佛師式部卿權僧都作

法花宗

谷町寒應寺 芝 常行寺 長王寺 二本 常教寺 三田中道寺 淺草 寺町 玉泉寺 同 蓮光寺

同 善慶寺 同 常福寺 同 妙福寺 同 法泉寺 同 慶圓寺 同 善幽寺 淺草 寺町 淨恩寺
 同 妙禪寺 同 正覺寺 同 本立寺 同 本覺寺 同 妙恩寺 同 淨蓮寺 同 教應寺
 同 常樂寺 同 光安寺 芝 上行寺 同 連昌寺 芝 高松寺 芝 榮門寺 谷中 一乘寺
 下谷 要傳寺 三田 大乘寺 本郷 本妙寺 品川 妙國寺

諸宗佛閣

一、豊島郡金龍山淺草寺 聖觀音 十八日
 推古天皇御宇三十六年戊子、千束郷淺草宮戸川邊に檜熊の濱成竹成とて兄弟の漁父釣をたれ、あみを引おもはずも觀音の像あみにかゝり給ふ、靈驗いちしるしき事どもおゝかりき、則漁父の家をあためて精舎となし、觀音を安置す、其時の土師真中知、濱成竹成三人今の三所護法なり、孝徳天皇大化元年杓楸の沙門勝海上人再興して則勝海別當となり、東西に寺を立衆僧をおき淺草寺と號す又金龍山と稱す、白雲吹き處金龍躍の一句によつて山號となす、堂社建立の修造の小屋場に寺を立今の智樂院の寺地是なり、則勝海上人は當寺の開山なればとて、地藏菩薩になしていまに尊敬するとかや、朱雀院御宇天慶五年安房の國司平公雅といふ人、武藏の國主となつて本堂五間四面三重四角の寶塔二階の樓門法花常行堂の伽藍まで建立して田園をも寄附せらる。

近衛院の御宇左馬頭源義朝此観音へ參詣し、去承暦三年十二月四日の回祿の時に観音飛うつらせ給ふ榎を以て、あらたにくわんおんを造立し給ふ、此像はいまに内陣にありて、鎌倉兵衛政清奉行のとき臺座に書付ありとなり。

高倉院御宇治承四年庚子八月十七日右兵衛佐頼朝參詣ありて、平家追討の祈念をなし給ひて田園三十六町寄附し給ふとなり、すべて此堂度々の回祿切々地震に大破し焼失すれども終に退轉なく、十九説法の春の花と枝をさかへ、三十三身の秋の月も光をかゝけて繁昌する事、おそらくは又扶桑にならぶ佛神なしかや。

後奈良院御宇源義輝武將の時、北條家再興して忠善上人をもつて別當となしたまふ、先師忠海上人は是は攝津國住人細川律師定禪の末葉にて、伊丹三河守立願成就し、よつて末子に別當になし給ふ、忠海上人これなり、是より後は伊丹遠山兩家を以て相續して斷絶なしとなり、凡推古帝よりは一千餘年になるとなり、それよりして參詣のともがら月日にさかんに月々におゝく、毎月の十七日より翌の十八日までは數るに百をもつてすべしともいふべきにや、表門は南にむかひ左右の寺町をも南谷ともいふ、本堂の前にかゝる観音堂の三字の額は朝鮮人の筆跡とかや。

一、駒形堂

馬頭観音を安置せらるゝ所なり、安房の太守平公雅の建立なり、誠に梵音海潮のひゞきを淺草川のなみによそへ、定業能轉のちかひは駒形堂のいがきにあらわし、いとたつとし。

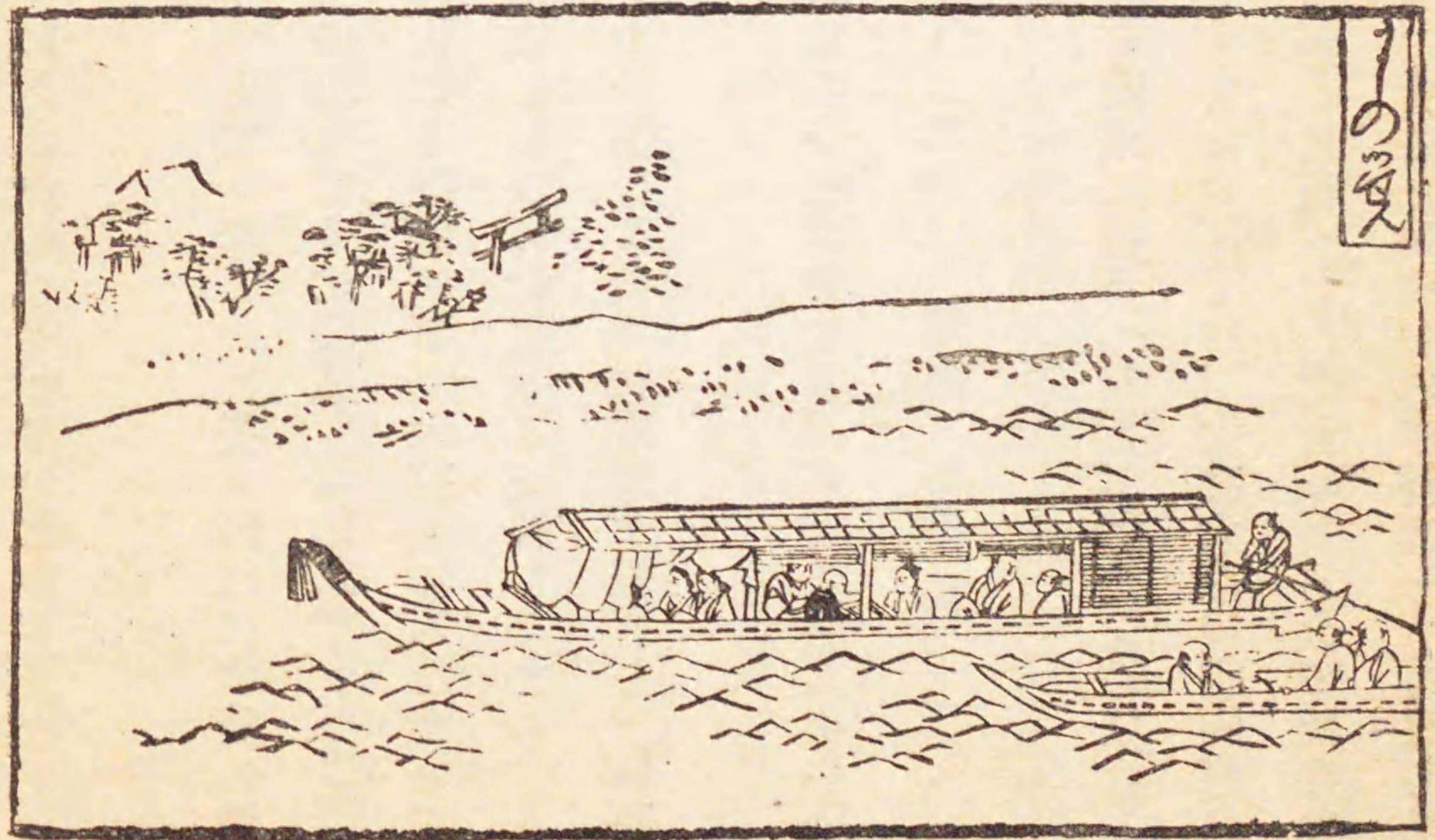
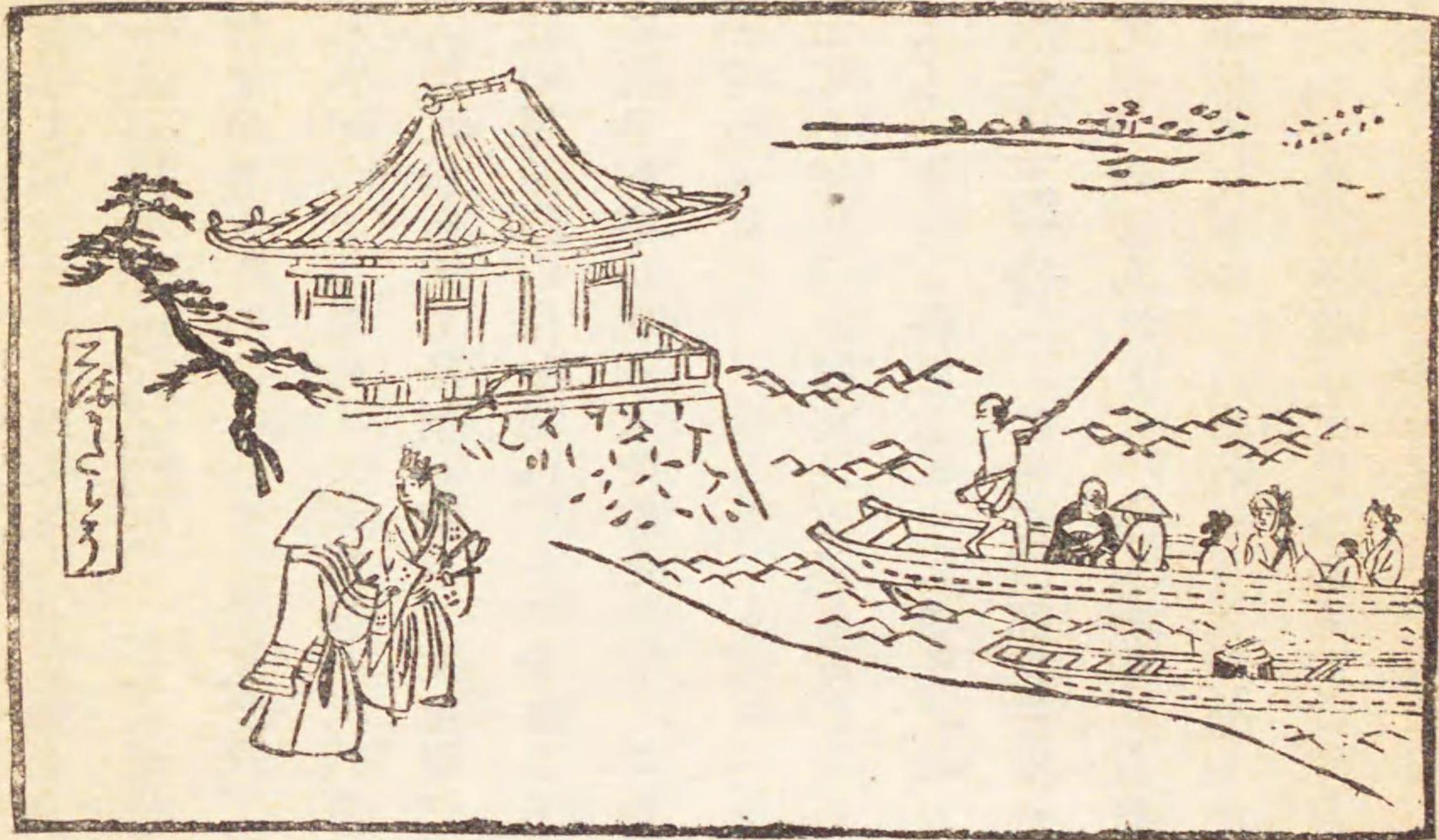
一、牛込寶泉寺毘沙門天 穴八幡前

此本尊は慈覺大師の作にして、俵藤太秀郷の持佛なり、そのいにしへ慈覺大師江州幸崎の濱にて舊き箱をひろいたまひ見給ふに、御長一寸八分の多聞天の尊像なり、大師悦て守本尊として受持し給ふ、厥後入唐求法ありて歸朝し給ふ、文徳帝仁壽年中に古郷下野國に下り大慈寺に入たまひて、御長二尺五寸の毘沙門の像を刻み、その身にひろふ所の靈像をおさめ大慈寺に安置したまふ、人王六十一代朱雀院の御宇に俵藤太此尊を信じ、平將門逆心をたいらけて此地に本尊を安置し、禪英山寶泉寺と名つけたり。

文龜元年上杉治部少輔友良靈夢を感じて稻荷を勸請して寺院再興せり、又天文十九年牛込主膳時國といふもの寺社を營造して今にさかんなり。

一、魚籃寺観音 武州荏原郡芝三田村

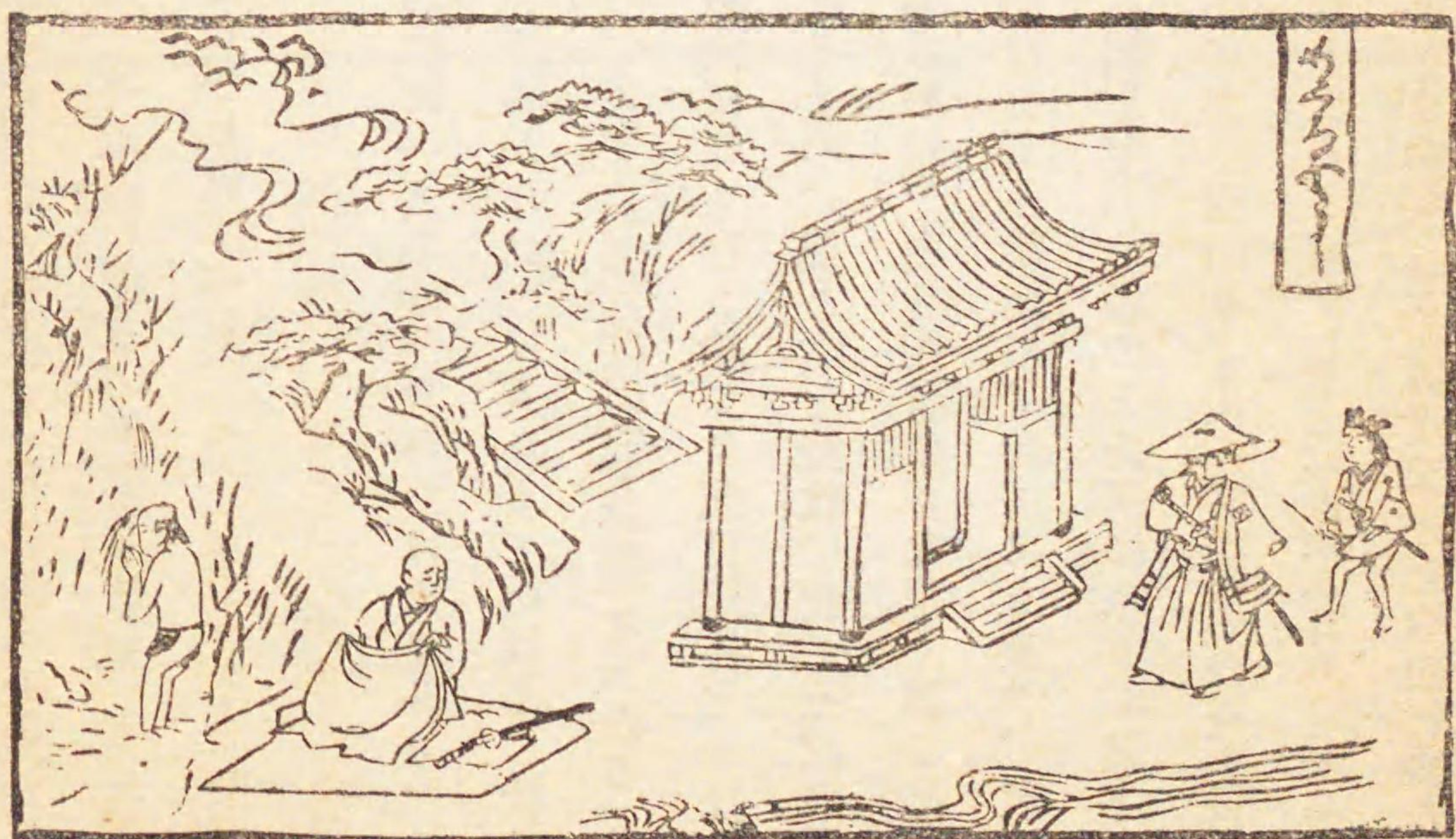
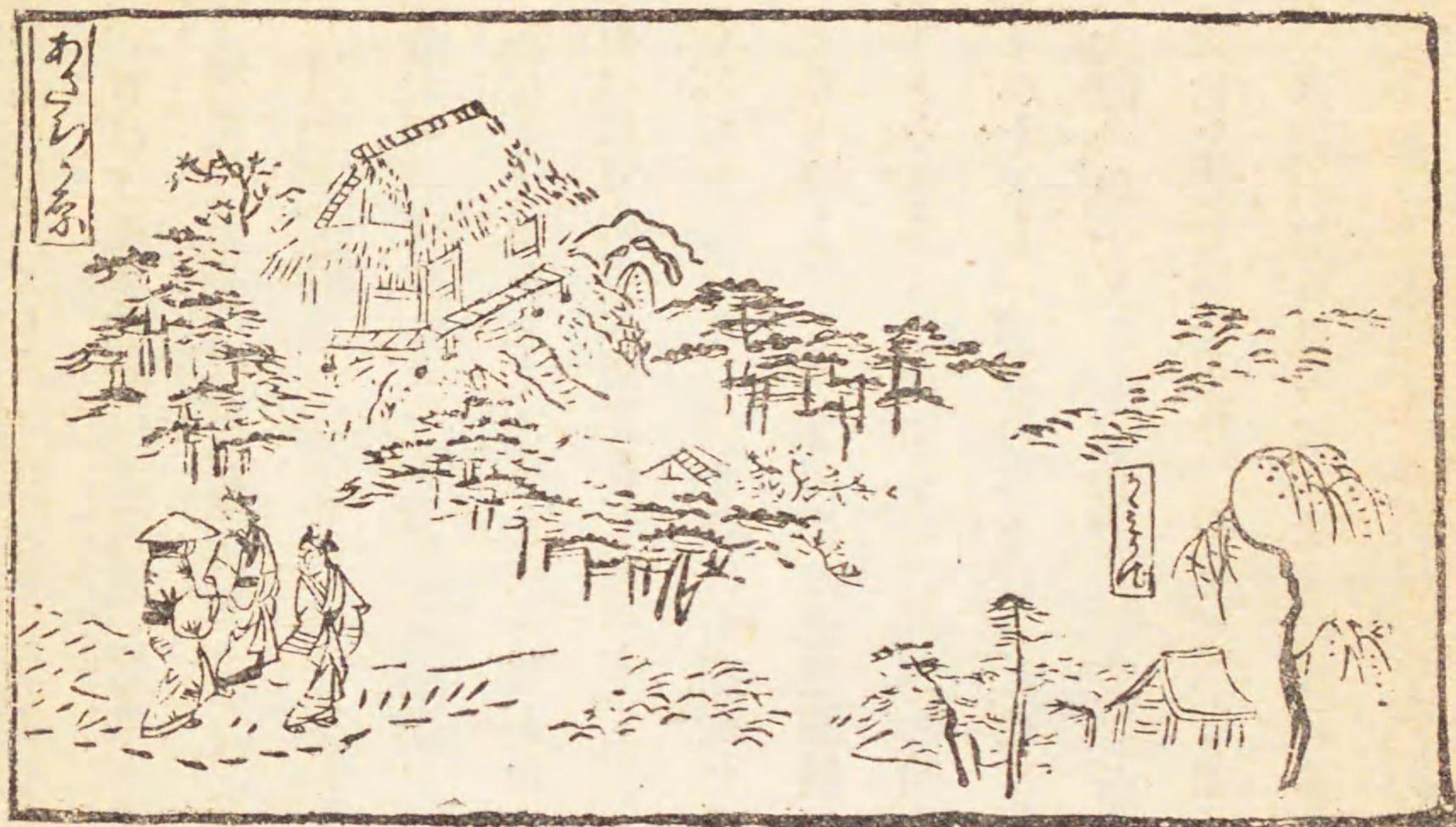
古へ肥州長崎にありしに、老女夢中に観音告て曰我を關東に送るべしと、老女いまだ信せず、我古郷の佛を他國にうつさん事いかゞと疑惑しけるに、重てまたつげて曰、大慈大悲の誓願何に汝をすてんや、いま所の化縁すてにおわんぬ、すみやかにひがしに行べしと老女あどろきて此寺の住持法譽法師にさづく、法譽うけ取て今此地に崇たてまつる、まことに佛智の本誓まぢくにして、菩薩の



弘誓品くたりといへども全く差別なく一切衆生の機にしたがひて二世安樂の方便なり、御長六寸餘、されば大智禪師曰翠黛畫眉纖月淡春風滿面小桃紅見人放下籃兒去三十六鱗皆化龍、金言曰或現作姪女乃至佛智といへり、たつとむべし敬すべし、

一、目黒不動 豊島郡

慈覺大師の作佛なり、そのかみ慈覺大師ある夜の夢に一人の沙門身のたけ六尺斗り、そのすがた甚うるはしく笑をふくみさまく物がたりし給ふ、そのかたはらに人ありていはく、汝此沙門をしらずや、比叡山の大師なりといへり、かくて夢さめてこのよしを師の廣智菩薩にかたる、廣智大にきどくのおもひをなし、すなはち慈覺をつれて比叡山におもむき給ふに此目黒村をとほり一夜こゝにとどまり給ふ、そのよの夢に忿怒強盛のすがたなるもの、鉞と索を持枕に立て慈救の明咒をとなへ枕もとをあらゝかにふみおどろかし給ふと見て夢さめぬ、廣智此音におなじく夢さめて互に奇異のおもひをなし、靈木のありけるを取て夢中のすがたを刻み給ひて、此所に立置き、叡山に登りて傳教大師の弟子となり、承和五年入唐し同十四年に歸朝あり、そのち此所に來りて瀧水のあるべしとて獨鈷を持って堀給ふに、やがて手に應じて瀧水みなさき湧出る、今の御手洗の瀧水これなり、誠に明王の加護水なるゆへにや炎天にもかはず霖雨にもまさる事なし、厥後年曆をへて元和三年の春に本堂の後より火出で、ほのほすてに御堂にもえかゝりぬ、此里の男女明王を取出し奉らんとするに、



しきりに餘炎立ちほひすべきやうなく立ざりぬ、炎しづまりて明王を見たてまつるに、彼尊像瀧水の上にて汗をながしておはします、是を拜す人々おの／＼かふるいをながしたり、此外靈驗クダ救おほくめでたき本尊なれば諸人かつごうのかうべをかたむけ本堂を造りて安置し奉る物なり、坂の登り口まがり松として名木あり、二王門あり、誠にたつとき靈佛にて江城の諸人四季のへだてもなく参詣する事ひまなしとなり。

一、目白不動

關口村

高田村關口里、豊山新長谷寺目白不動は弘法大師の御作、荒澤鑽火の不動明王、御長八寸の尊像なり當寺の開山は秀山僧正なり、そのかみ弘法大師湯殿山の内荒澤川に行ひ給ふ時、大日如來御すがたをあらはし忽に不動明王の御形を變じ給ひ自らもえ給ふ、大師則御すがたをうつし給ふたぐひまれのなる秘佛なりければふかく納て開帳なし、本體の厨子の前に別に立給ふ明王これを目白不動と號すとかや、湯殿の行人さき火をいだする此明王よりはじまれり。

一、白山権現

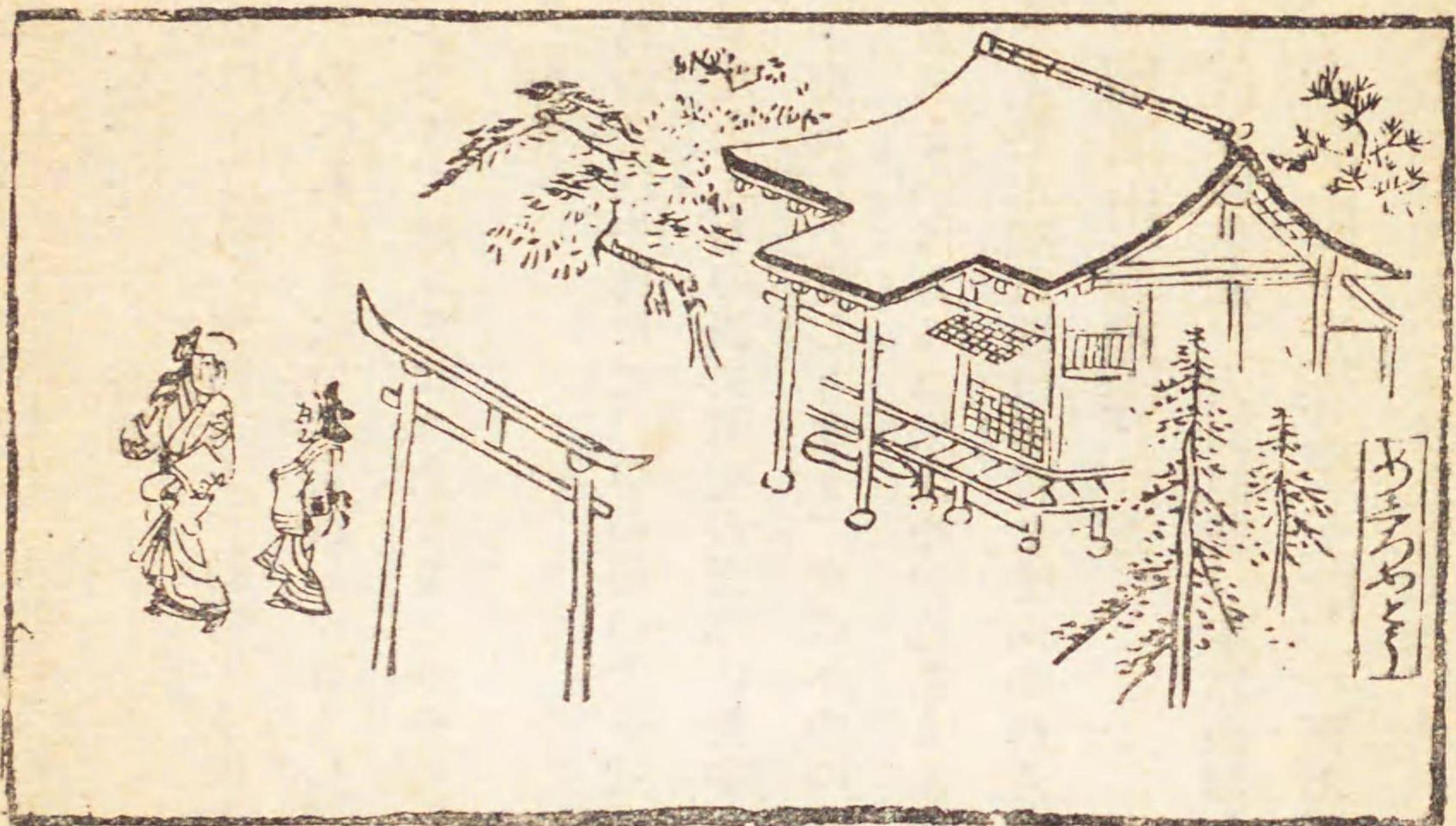
白山町

すでに白山権現は加賀の國の靈神にて、そのかみ越の大徳泰澄初て白山に登り天女に行逢ぬ、彼天女かたりて曰、我は是日域の本主天神の第七代いさなぎの尊なり、いまは妙理大菩薩となづく、本朝男女の根元陰陽の元祖なりと、忽に十一面のくわんちんとならせ給ふ、又ひとつの峰にして神に逢、

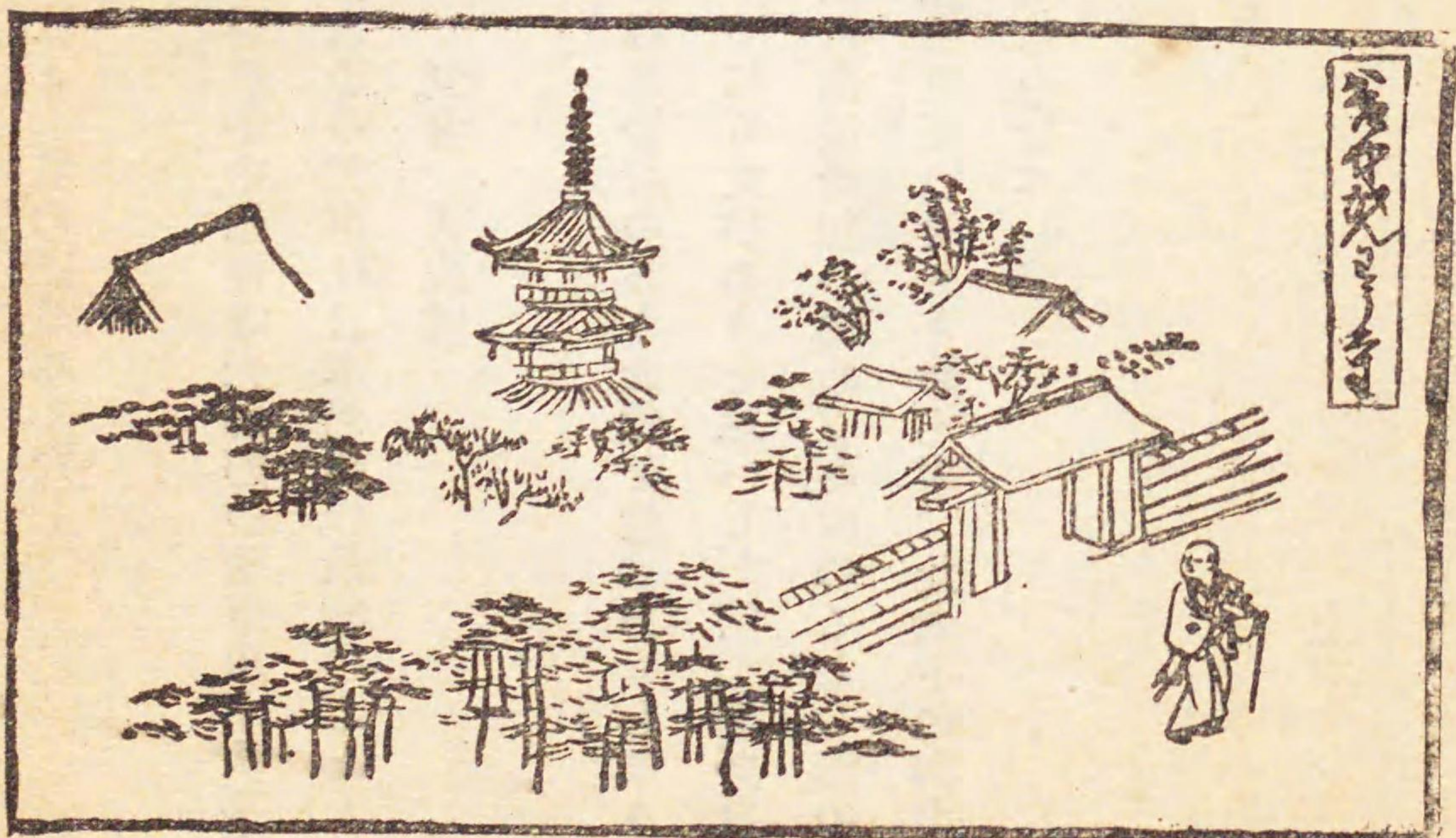
手に金の矢を持扇に白銀の弓をよこたへ、名付て小白山大事といふ、聖観音のかたちを現して御すがたをかくしたまひぬ、次に一人の翁に逢ふ、我はこれ大己貴の尊なり、西方淨土のあるじとして御すがたをかくし給ふ、是によつて白山権現を敬し給ひ、佐羅の早松は本地不動尊なり、金釵は俱利伽羅不動の變作なり、又白山権現は神代の古へは菊理姫のみこと、申侍りき、是則三所権現として、今此地にくわんじやうす、元和元年の時とかや、もとのやしろは名水の瀧ありき、今の地にはかれてなきにや、誠に當所の鎮守として貴賤あゆみをはこび道俗是を敬し、寛文の頃よりして祭をはじめ日々にはんじやう月／＼にさかへければありがたき権現なりとかや。

一、愛宕山

いつの頃より勸請せしとはしかとしれがたきにや、京なるあたごを遠州なかご坂に移し、それを又爰にうつすと成り、それあたご山は地藏龍樹攝化の地として唐の五臺山の風景に似たりとかや、大唐の日羅の變作なり、將軍地藏は修羅鬪淨の瞋恚を調伏し、太平靜謐の守護をくわへ給ふ忍辱慈悲の尊體なれば、その利益あまねく衆生に施し給ふが故に、とをく爰の地にくわんじやうあり、その徳いよくたかくして太平鎮護の安全をまもり給ふ事あやまりなしかや、此社司もとは天台宗なりしが、本山よりの沙汰ありて今は眞言宗となり、關東の眞言三ヶ寺の内になりけりとなり、今此山に登りて眺望するに絶景なり、とほく品川の沖を見わたし、安房上總國手に取ばかりにおもふ、石



江戸物産子名所大全 卷の四



壇高くして六十八段あり、勇壯のものならでは此坂よりはのぼる事かたし。

一、太子堂 高繩

此堂はすなはち聖徳太子を勸請する所なり、去る明暦年中越後守光長卿の陪臣川木八兵衛某といふ者、ゆへありて此所に安置しけるよし、誠に聖徳太子の御事は日本佛神の最物のごとくに崇敬する太子なり、敬するにもあまりとかや

別當 大成院

一、同堂

西葛西の内牛島にて、中の郷の太子堂は慈覺大師關東修行のより此堂を造立ありしなり、一つの石塔を掘出す石の表に彌陀の三尊の梵字あり、その下にも文字ありと見へしが消て知がたく、只文明二年庚寅とありしとなり、文祿年中かや誠に佛法最初の御めぐみ山のこたく海のごとし、誰かおろそかにおもひてんや、心あらん輩出離生死のぼだひをもとめん事、此太子の御力によらずんばなんぞ永離三惡道の苦をまぬかれんや、拜すべし崇むべし。

一、瑠璃山遍照寺 芝

弘法大師草創、大師開基、本尊藥師如來、大師作

一、青龍山淨光寺藥王院 西葛西杵川村

慈覺大師開基、本尊藥師如來、傳教大師作

一、醫王山榮興寺 橋樹郡

仁皇四十五代聖武天皇建立、行基菩薩開基、中興文徳天王清和天皇兩帝の再興、本尊藥師如來、慈覺大師作

一、福昌寺 芝伊佐柄子

本尊藥師如來、知證大師作

一、江戸浄土五ヶ寺

芝増上寺 小石川傳通院 淺草幡隨院 深川靈岩寺 淺草靈仙寺

一、大徳寺末寺頭 品川東海寺 證雲寺

一、曹洞宗江戸三ヶ寺

橋場摠泉寺 愛宕下青松寺 芝泉岳寺

一、妙心寺派江戸四ヶ寺

湯島天澤寺 芝東禪寺 淺草安禪寺 牛込松源寺

一、藤澤遊行末寺頭 淺草日輪寺

一、新義四ヶ寺 知足院 圓福寺 彌勒寺 眞福寺

一、身延山末寺頭 谷中瑞林寺 下谷宗圓寺 淺草善立寺

- 一、池上本門寺末寺頭 二本覆承教寺 同所朗清寺
- 一、中山末寺頭 谷中妙法寺
- 一、王澤末寺頭 谷中大雄寺
- 一、越後本成寺末寺頭 芝長應寺 丸山本妙寺
- 一、本國寺末寺頭 谷中法恩寺 淺草幸龍寺
- 一、京妙滿寺末寺頭 品川妙國寺
- 一、幸手不動院 武州、寺領百石本山方山伏先達
- 一、生越山本坊 入間郡、寺領五十三石
- 一、關東禪三ヶ寺 蟻川龍音寺 關宿惣寧寺 越生大中寺

關東拾八ヶ寺

- 一、天照山光明寺 相州鎌倉開山良忠上人初號記主禪師
- 一、無量山傳通院 武州小石川開山西蓮社了譽聖酉上人
- 一、三縁山増上寺 武州芝開山大蓮社西譽聖惣上人
- 一、神田山知恩寺 武州淺草開山幡隨院知譽白道上人

- 一、道本山靈巖寺 武州永代島開山靈巖雄譽上人
- 一、水精山勝願寺 鷺巢開山良忠然阿上人
- 一、草地山常福寺 瓜連開山感蓮社了實成阿上人
- 一、壽龜山弘經寺 飯沼開山嘆譽良肇上人
- 一、龍澤山大巖寺 生實開山磨譽社道譽貞把上人
- 一、孤峯山蓮磐寺 川越開山鎮蓮社感譽存貞上人
- 一、壽龜山弘經寺 結城開山存把上人
- 一、佛法山東漸寺 北金開山經譽愚底上人
- 一、佛眼山淨國寺 岩付開山清嚴上人
- 一、觀池山大善寺 瀧山開山讚譽牛秀上人
- 一、正定山大念寺 開山慶岩上人江戸崎
- 一、義重山大光院 新田開山吞龍上人
- 一、終南山善導寺 館林開山幡隨上人
- 一、靈山寺 武州淺草開山大起上人

東叡山宿坊之事

顯性院	尾張中納言様真如院	紀伊中納言様吉祥院	水戸宰相様	常照院	松平加賀守		
明王院	松平大隅守	寶勝院	松平陸奥守	本覺院	細川越中守	同院	有馬左衛門佐
淨圓院	松平右衛門佐青龍院	松平安藝守	一乘院	鍋島丹後守	傳法院	松平長門守	
實成院	松平伯耆守	等覺院	松平伊豫守	勸善院	井伊掃部頭	戒善院	藤堂和泉守
普門院	松平淡路守	明靜院	松平兵部太輔元光院	佐竹右京太夫同院	松平出羽守		
見明院	保科肥後守	林廣院	松平下總守	修禪院	松平大和守	護國院	森美作守
同院	有馬中務太輔同院	大久保加賀守同院	青山播磨守	圓覺院	阿部對馬守		
同院	稻葉丹後守	同院	堀田下總守	覺成院	酒井河内守	東圓院	松平越中守
同院	松平隱岐守	福乘院	水野美作守	壽松院	南部大膳太夫松林院	松平周防守	
泉龍院	松平豐前守	東漸院	水谷左京亮	津梁院	津輕越中守	清雲院	堀左京亮

武藏國大寺

一乘院 眞言宗成田郡寺領三十石

日證寺 法華宗寺領三百石

法林寺	濟家小川村寺領二十五石	平林寺	武州岩付村寺領五十石
東行院	眞言宗武州久下寺領三十石	長久寺	眞言宗大田村寺領三十石
長德寺	武州寺領四十石	忠見寺	淨土宗武州上保村寺領三十石
龍淵寺	眞言宗成田立寺領百石	王祥寺	眞言宗府中寺領三十石
甘棠院	濟家寺領百三十石	大日	社武州杉島村立寺領十石
大興寺	眞言宗大田村寺領五十石	大正寺	眞言宗寺領六十石
大秀寺	淨土宗崎西寺領三十石	靈岩院	眞言宗寺領三十石
蓮華香院	淨土宗武州峰山寺領五十石	觀音院	眞言宗足立郡
灌頂寺	天台宗武州深谷村寺領五十石	勸喜寺	眞言宗武州飯沼寺領五十石
養壽院	眞言宗寺領三十石	金剛院	眞言宗大久保寺領三十石
西光寺	土田郡寺領五十石	金輪寺	天台宗府中寺領五十石
吉祥院	眞言宗高幡寺領三十石	金鉢寺	天台宗兒玉寺領三十石
吉祥寺	眞言宗菖蒲寺領二十九石	熊谷寺	熊谷立
常福寺	爪連	深谷寺	天台宗深谷村寺領五十石
眞光寺	眞言宗岩付寺領三十石	松月院	眞言宗赤家寺領四十石

淨教寺 眞言宗前澤寺領三十石	淨國寺 岩付寺領五十石
慈恩寺 天台宗岩付寺領百石	稱名寺 眞言宗金澤寺領百石
勝光寺 眞言宗市川寺領三十石	淨安寺 淨土宗岩付寺領六十二石
正徳寺 淨土宗樋蓮村寺領三十石	永福寺 眞言宗寺領三十石
喜多院 眞言宗千波寺領五百石	

増補江戸惣鹿子名所大全卷の四終

増補江戸惣鹿子名所大全卷の五

南北江府中

一日本橋北通 南は日本橋より北へ白銀町土手まで又筋違橋まで
 室町三丁 本町貳丁目三丁目よこ 十間棚 石町三丁通銀町通 乗物町 神田鍛冶町貳丁 鍋町 新
 石町 すだ町貳丁 れんぢやく町

此町筋諸職賣物大概

萬ぬり物 墨筆 糸や 本屋 合羽屋 鏡や 扇子 佛具屋 切付や 經師 きれや けさ衣 印判
 屋 琴屋 三味線や 萬角細工 水菓子屋 いはいや 紙屋 らふそくや はげや 籠や うるしや
 唐笠屋

一日本橋南通 北は日本橋より南へ京橋南通四丁南傳馬町三丁

此町筋諸職賣物大概

表や 絹屋 かや 萬小間物 墨筆 鞆屋 切付や 扇子 みすや 指物屋 紙屋 藥種や らふそ
 くや 合羽や かゝみや あら物や つゞらや かごや ふと物や ゑのぐや はげや 玉細工 秤

屋 うるしや 唐笠や 佛師

一京橋南通 北は京橋より南へ新橋まで新兩替町四丁 尾張町貳丁 竹川町 出雲町

此町筋諸職賣物大概

見すや針 扇子 張付や 本屋 屏風や 組糸や 紙屋 藥種や らふそくや 鮫屋 指物や ぼう
 や あら物屋 ぬりものや ふと物や 合羽や 唐紙や 張子や 小間物や 經師 墨筆 印判や
 からかさや 挑灯や 茶師 うるしや 銀座 朱座
 一新橋南通 北は新橋南へ芝金杉橋まで日比谷三丁 源助町 露月町 芝井町 宇田川町 久右衛門
 町四丁

此町筋諸職賣物大概

足袋や 合羽や わたや 墨筆 桶や 古手や 扇子 竹かわ 油や 馬宿 上下宿 らふそくや
 檜物や たしみや たばこや
 一日本橋北西中通 南は北さや町より北へ神田佐柄木町迄北さや町横町 本兩かへ町横町 本町壹丁
 目横町 石町壹丁目横町 白銀町壹丁目横丁 かわや町 新石町 大工町貳丁 田町貳丁 さへ木町
 此町筋諸職賣物大概
 ぬいはくや ひらささや 紺屋 うどんや かざりや 白銀細工 べにや たしみや やくわんや



江戸物鹿名子所大全 卷の五



土物棚 かん物や 水くわしや

一日本橋南東中通 北は四日市より南へ京橋竹町まで 萬町横丁 平松町横丁 南油町横丁 はくや
町横丁 まさ町横町 さや町横丁 鈴木町横丁 具足町横丁

此町筋商家大概

古道具 材木 煎茶 紙や 本屋 古着 油や 花や

一日本橋北東中通 南は安針町より北へ本誓願寺前まで

此町筋諸職商家大概

肴 八百や 鹽 醬油 あいや わた 紙 しゃうじほね さし物や 宮 持佛堂 こんや つき米

麻 しふき 茶臼や

一伊勢町通 南は江戸橋より北へ白銀町土手近所まで

此町筋諸職商家

米 わた 紙問や 茶臼や さし物や 穴藏師 鹽 醬油

一日本橋南西中通 北は西かきより南へ京橋北こんや町かしまで

吳服町横丁 南大工町横丁 檜物町横丁 上まさ町横丁 桶町横丁 かぢ町横丁 五郎兵衛町横丁

此町筋諸職賣物大概

木地 うるしや 鍛冶 つき米 金銀ふん 屋根吹 きぬねりや

一京橋南西中通 北は西紺屋町より南へ山王町かしまで

弓町 内町 彌左衛門町 新右衛門町 瀧山町 惣十郎町 山王町

此町筋諸職商家

弓師 彈屋 肴棚 八百や 水菓子 たしみや 屋根吹 大工 煎茶 紙

一三十間堀通 北は京橋かきより南へ新ばし河岸まで此間八丁之内を三十間堀といふ

此町筋商家

米 屋根吹 木挽 竹や 材木

一新橋南西新道通 北は幸町より南へ神明前まで又芝新堀ばたまで

此町筋商家

刻たばこ 古され 古かね 鯨細工 仕立物 きせる 經師 本や 目貫 小柄類 産前産後藥

一新橋南東片町通 北は新橋東かきより南へ新堀はたまで

此町筋商家大概

わらや 古道具 古かねや うちはや へつゝい まきや

一小船町南通 北は小船町壹丁目より南へくづれ橋まで

小船町三丁 小綱町三丁 箱崎町

此町筋商家大概

米や 鹽物類問屋 諸色問や 船大工 穴藏師 瀬戸物や 綱や

一堀江町通 北は壹丁目より南三丁目まで

此町筋商家大概

そうめん うちは あしだ せきだ 諸色問や

一新材木町南通 北は新材木町よりよし町まで

此町筋商家大概

材木や 竹や よしずや もとゆい やうじ たばこ入 瀬戸物類 かいちやくし うどん

一大門通 北は白銀町大手より南は住吉町まで

此町筋諸商入組

一田所町通 北は白銀町土手より南入大坂丁まで

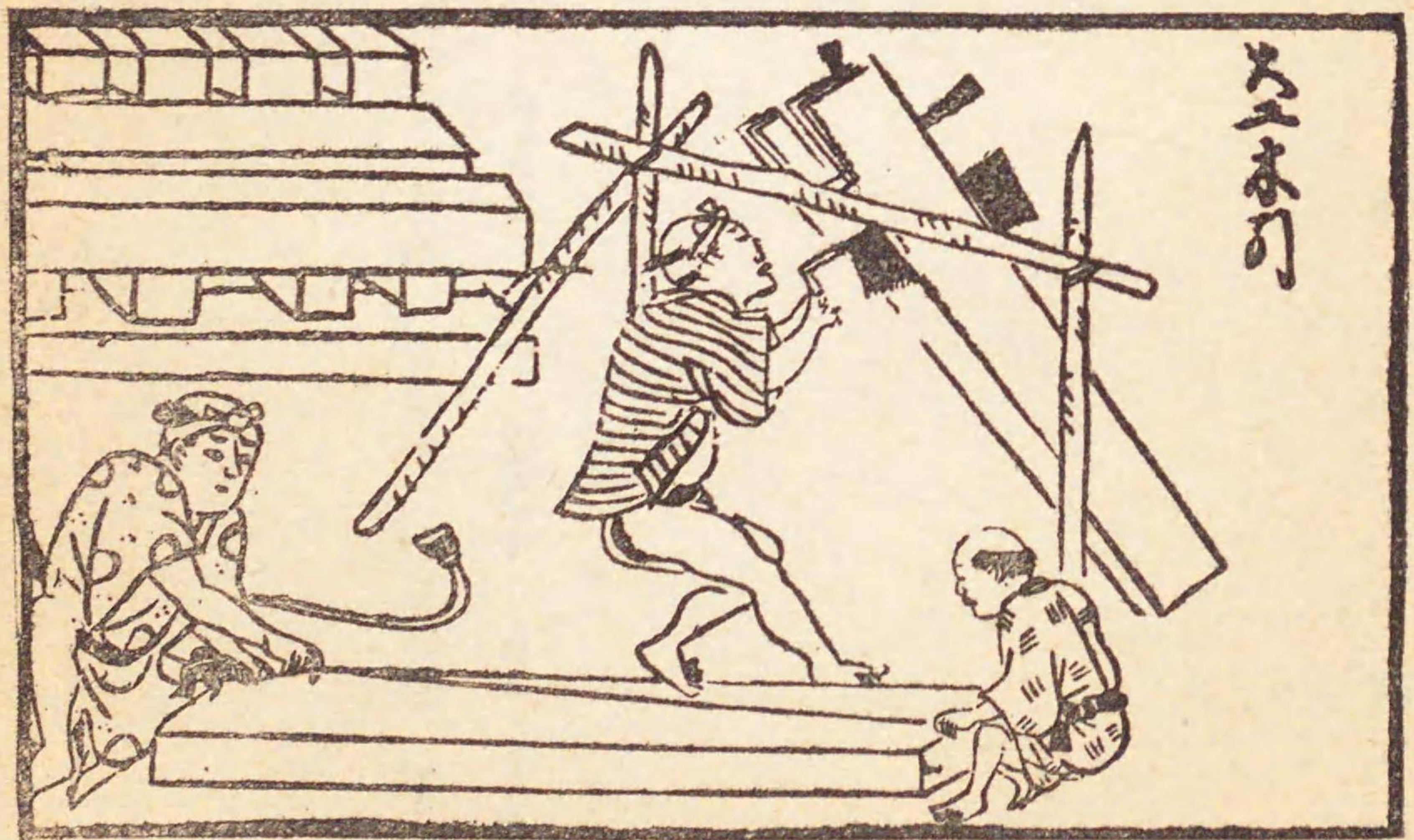
わた 茶 たばこ くわし 人形 せきだ はな紙袋 さし物や 古道具 古がね

一江戸橋南通 北は江戸橋より南は水谷町まで

本材木町八丁 水谷町



江戸惣鹿子名所大全 卷の五



四五

此町筋諸職商人

材木や 肴問や 木挽 大工 石や すさや やね吹
一御堀はた通 南は數寄屋橋より北へ鎌倉河岸まで

此町筋諸職商家

目貫 小柄類 唐物や 數寄屋道具 馬道具や 古がねや 乗物 つばや わらひ樽 下り酒 菓子
やうじや 兩がへや 煎茶 紙や こんや ごふくや 古され 米や まきや らふそくや やくわ
んや かざりや わらや すひ竹
一三河町通 南は鎌倉がしより北へさじ町まで
三河町四丁 らふそく町 新銀町 さじ町

此町筋商家

肴や 八百や 酒や 煎茶 紙や 錢や
一數寄屋町通 北は數寄屋橋御堀端より南へ土橋まで
數寄屋町 佐柄木町 加賀町 八官町 寄合町

此町筋商家大概

乗物細工 さやし ぬしや 白銀細工 肴棚 八百や かん物や 檜物や 煎茶 酒や 鹽や 鍮や

一姫御門河岸通 北は御堀はたより南へ土橋まで

山城町 左兵衛町 丸や町

此町筋商家

やくわんや かざりや こんや へつゝい 煎茶
一芝中門前通 北は大門より南へ新堀はたまで

此町筋諸職商家入組

一同片門前通 北は大門より南へ將監殿橋まで

此町筋賣物

紙や 煎茶 挑燈や 筆や 表具や 紫や こんや せんべいや けさ衣 はた てんかい 合羽
や

一日本橋北東中通

東西江府中

一北さや町通 西は御堀はたより東へあらめ橋まで
北さや町 あま棚 大船町二丁

此町筋諸職商家

古さや まさや 足袋や 釘 金物類 鍛冶 諸色問や 肴問や 米 麻 引白
一品川町通 西は品川町より東へ安針町まで
小田原町 品川町

此町筋商家

肴棚
一本兩替町通 西は御堀ばたより東へ伊勢町かしまで
東兩がへ町 駿河町 瀬戸物町

此町筋商家

兩がへや 水菓子 下酒や すゝ細工 烏や 飛脚宿
一本町通 西御堀ばたより東へ横山町三丁目まで
本町四丁 大傳馬町三丁 通油町 しほ町横丁

此町筋諸職賣物

吳服類 まわた 藥種 紙問や 煎茶問や 肴棚 上るり本や では包丁 板木や 小間物類 しろ

ほうき らふそくや ふと物問や かもじや

一石町通 西は御堀ばたより東へあさくさばしまで

石町四丁 鐵砲町 小傳馬町四丁 馬喰町四丁

此町筋諸職賣物

吳服や 桶細工 唐紙や 皮足袋 たゝみや 萬道具 つけ木 古道具 小道具 小刀問や 表具や
一白銀町通 西は御堀より東へ追廻馬場まで
銀町四丁 鹽町

此町筋商家

まさや 穴藏 合羽や 唐笠や さし物や 古材木 しゃうし 古道具 宮持佛
一永富町通 西はりうかん町より東へ紺や町三丁目まで
りうかん町 永富町四丁 こんや町三丁

此町筋諸職賣物

錢や 桶 古がねや 仕立物や 鍛冶 金物類 わたや 乗物や ぬしや 土物棚
一西河岸通 西は御堀ばたより東へかいぞく橋まで又崩橋まで
西河岸二丁 萬町 青物町 かやば町二丁

此町筋商家大概

くれ木 といし ぼうや 下り酒 あしだ ぼくり 瀬戸物 材木 大白や

一 吳服橋通 西は御堀東へは東材木町あたり

ごふく町二丁 平松町 左内町

此町筋商家大概

下り酒 肴 八百や

一 南大工町通 西は御堀ばたより東へ本材木町行あたり

南大工町二丁 南油町 川瀬石町

此町筋賣物大概

たみみや ぬしや

一 檜物町通 西は御堀ばたより東へ本材木町行當り

檜物町二丁 はくや町 くれまさ町

此町筋諸職賣物

ぬしや うるしや はくや 金銀ふん 木地

一 南横町通 西は御堀ばたより東へ本材木町行あたり



江戸惣鹿子名所大全 卷の五



まさ町二丁 下まさ町 おか町貳丁

此町筋商家

下り酒 まさや くれ木 こんや かざりや

一桶町通 西御堀場より東へ本材木町行あたり

桶町二丁 南さや町二丁

此筋諸職賣物

桶や 煎茶や 紙や

一鍛冶町通 西御堀端より東へ本材木町行あたり

鍛冶町二丁 すしき町 因幡町

此筋諸職賣物

鍛冶 かな物 釘 肴棚 八百や 大工 屋ね吹

一鍛冶橋通 西は御堀ばたより東へ本材木町まで

五郎兵衛町 壘町 具足町 柳町

此町筋諸職賣物

酒や 煎茶 紙 菓子 たしみや 仕立物や 石切

一北紺屋町通 西は御堀ばたより東へ靈岸橋まで

北紺や町二丁 竹町 北八丁堀五丁 松や町

此町筋諸職賣物

木や 乗物や 竹や 石や 材木 戸 しゃうじ 炭 石佛

一立賣通 西は御堀ばたより稻荷橋まで

立賣町 金六町 南八丁堀五丁

此町筋諸職賣物

拵脇指 古さや 古手 古道具 石や 木や 船大工

一姫御門通 西はお堀ばたより東へ木挽町五丁目橋まで

山下町 南鍋町 尾張町

此町筋諸職賣物

菓子や 檜物や 柄卷 さや師 ぬしや 白銀や させる かん物や 花や はな紙袋や 水菓子や

かじみや 紙や 薬種や たびや かごや

一鹽留橋通 東は鹽留橋より西へ御成橋虎の御門まで

鹽留町 須手町 兼房町 備前町 久保町 鍛冶町 伏見町 太郎兵衛町

此町筋諸職賣物

まさや 米 紙 煎茶 刻たはこ さや棚 ときや 檜物や 紺や 鍛冶 菓子 八百や ぬしや
酒や 肴棚

一甚左衛門町通 西は甚左衛門町より東へ濱町かしはたまで
甚左衛門町 大坂町 住吉町 難波町

此町筋諸職商家入組

一吹屋町通 西はふさや町東へ濱町かし通まで
ふさや町 堺町 和泉町 高砂町

此筋諸職商家入組

一新乗物町通 西新乗物町より東へ濱町かしはたまで
新乗物町 長谷川町 富澤町

此町筋諸職賣物

乗物や 古着や きれや

一堀留通 西は堀留より東へ濱町まで又矢の御藏前まで
田所町 新大坂町 橋町五丁

此町筋諸職賣物

ただこ あら物や かん物や くわしや ちびみたばこ入や さん前さん後賣藥

江府外町

一浅草橋通 南は浅草はしより北へ追分まで

かや町三丁 天王町 片町 森田町 はたご町二丁 文珠院前 黒船町 すわ町 駒形町 並木町二丁 竹町

此町筋諸職賣物

はり貫人形 土人形類 繪馬 茶せん くわとふ こなや ごふん けぬき 米や させる 瓦屋
竹や うとんや

一筋違橋通 南は筋違橋より北へ本郷森川宿まで
湯島六丁 本郷六丁

此町筋諸職賣物入組

一浅草駒形より西筋 東は駒形西は寺丁まで
三間町二丁 田原町三丁 紙すすき町 茶や町貳丁

此町筋諸職賣物入組

一筋違橋外東河岸通 西は筋違橋東へ淺草ばしまて 久右衛門町

此町筋諸職賣物入組

一牛込

此所諸職商家入組

一市谷 田町 本村 左内町

此所諸職商家入組

一四谷 しほ町 傳馬町

此所諸職商家入組

一赤坂 表傳馬町貳丁 裏傳馬町三丁 湯や町 風呂や町 田町五丁 一木町 大澤町

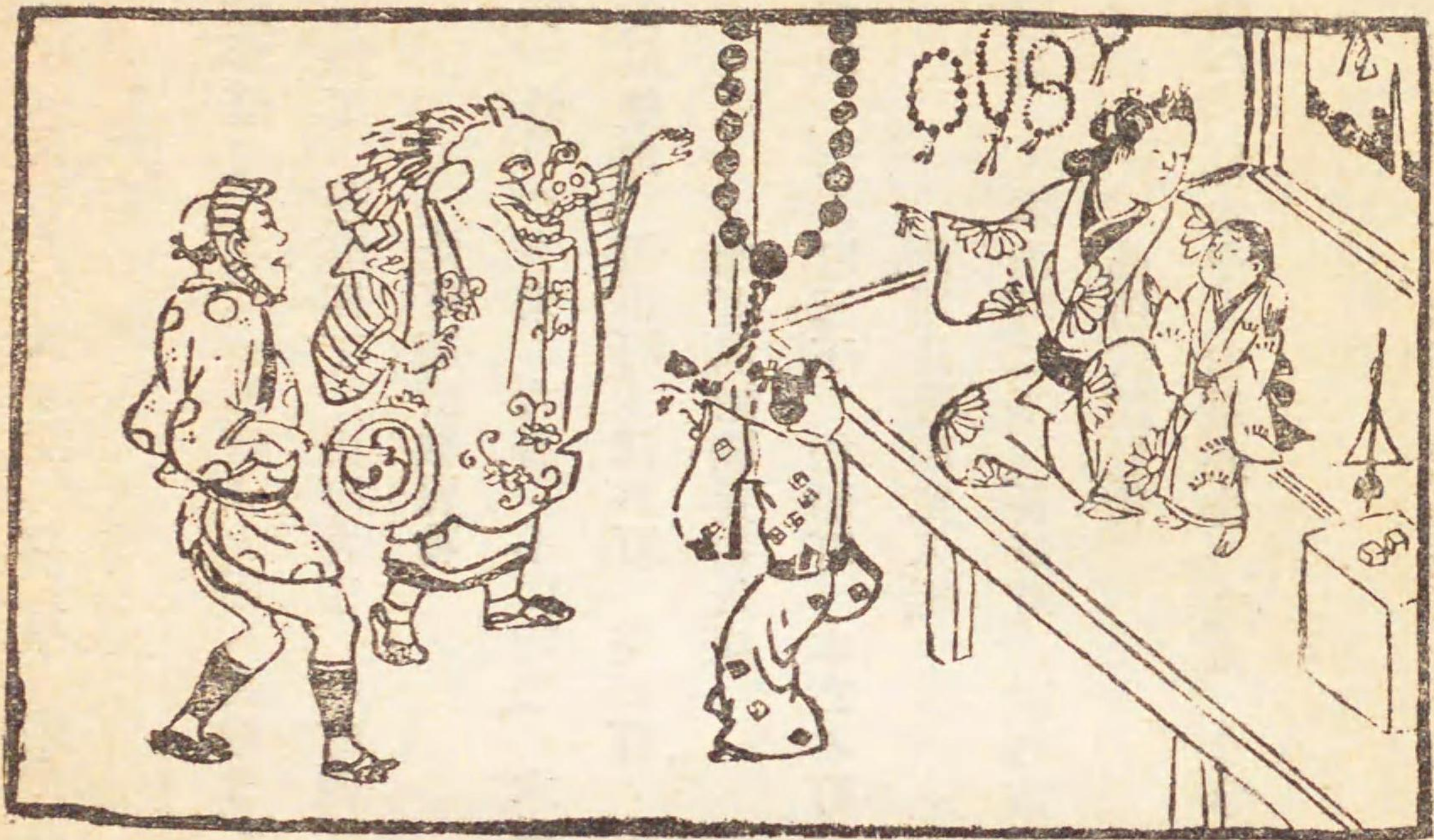
此町筋諸職賣物

古着 柄卷 とさや 木や わらや 古道具類

一西久保通 北は天徳寺前より南へ本札辻まで

西久保 かわらけ町貳丁 赤羽 三田町 通新町

此町筋諸職賣物



江戸惣鹿子名所大全 卷の五



かわらけ 火とふ ぬり桶 わらや 糒や 古道具 兩かへや 煎茶 紙や 酒や 八百や 藥種や
肴棚

一芝金杉橋通 北は金杉橋より南へ高輪まで

金杉町四丁 芝町四丁 田町九丁 牛町四丁 高輪八丁

此町筋諸職賣物

古道具 肴 つき米 古着 小間物類 木や うとんや 牛宿 ところてんや

一木挽町築地 飯田町 江戸町 川口町 上柳町 清水町 水上町 小田原町貳丁 小島町

此町筋諸職賣物入組

一鐵炮津 湊町三丁 松船町 本あみ町 十間町二丁 あかし町

此所諸職商家入組

一靈巖島 本湊町二丁 長崎町 四日市四丁 白銀町貳丁 鹽町

此所諸職賣物

瀬戸物や 材木や 古道具や 丸太 まきや あら物や なべや 船大工 借藏あり 唐物や 小道

具や

江府異名

一浮世しやうし 日本橋北三丁目東横町をいふ

一六本木 かわらけ町より西の方をいふ

一魔魅穴^{まみあな} かわらけ町より西の方をいふ

一鼠穴 糒町壹丁目御門内入込をいふ

一本郷 湯島末六町の内をいふ

一靈巖島 北八丁堀末をいふ

一赤坂 赤坂御門の外をいふ

一四谷 四谷御門の外をいふ

一市谷 市谷御門の外をいふ

一牛込 牛込御門の外をいふ

一小石川 小石川御門の外をいふ

一駒込 小川より西方をいふ

一高輪 品川入口をいふ

江戸惣鹿子名所大全 卷の五

一芝 金杉橋より南の方をいふ

一二本榎 芝いさらごの先をいふ

一白銀 二本榎より北西の方をいふ

一長者丸 澁谷近所にある

一澁谷 青山宿先百人町末をいふ

一香貝^{かうがい} 麻布百姓町近所をいふ

一鐵炮津 南八丁堀より南の方をいふ

一伊佐柄子^{いさざらこ} 芝田町九丁目より西方をいふ

一柳原 筋違橋より浅草橋まで間をいふ

一赤羽 かわら町下をいふ

一麻布 溜池より南西の方大様いふ

一浅草 浅草橋より北をいふ

一染井 駒込先のをいふ

一小日向 小石川の先を大様いふ

一高田 牛込の先をいふ

- 一 青山 赤坂西をいふ青山宿ともいふ
- 一 山の手 糺町近所をいふ
- 一 浅草追分 浅草山の宿にあたり右へははしは左は千手へ行道なり是奥州海道なり
- 一 四谷追分 四谷末にあり板橋と八王子とへ分るなり
- 一 本郷追分 本郷先森川宿にあり右へは日光王子へ行道なり左は板橋へ行道此海道木曾海道なり
- 一 藪小路^{やぶこうじ} 愛宕の下細川丹後守殿屋敷前をいふ
- 一 松原小路 糺町壹丁目御門の内をいふなり
- 一 式部小路 日本橋南貳丁目東新道をいふ
- 一 小身小路^{しょうしん} 愛宕下田村右京殿屋敷前をいふ
- 一 若宮小路 牛込の御門の外臺をいふ
- 一 佐久間小路 愛宕下佐久間備中守殿屋敷前を云

- 一 森川宿 本郷の末をいふ
- 一 内藤宿 四谷の末をいふ
- 一 山の宿 浅草金龍山近所をいふ
- 一 大窪 高田西南をいふ
- 一 日が窪 麻布六本木より下る谷をいふ
- 一 波多窪 牛込の先をいふ
- 一 西窪 愛宕山後をいふ
- 一 鍛冶窪 赤坂奥をいふ此所に火打鍛冶上手あるゆへいふなるべし
- 一 蛇窪 川崎村六郷の近所
- 一 神田 白銀町土手より北西の方大様いふなり
- 一 三田 芝増上寺うしろ西南なる方をいふ

諸職諸商人有所

金銀兩替や

- 一 本兩かへ町
- 一 駿河町 其外所々に有之といふとも此所より毎日相場立なり

錢屋

- 一 本佐竹殿前 其外所々に有之といへども此所より毎日相場立なり

米屋

- 一 伊勢町此所にて毎日相場極るなり
- 一 新橋兩河岸
- 一 浅草御藏前
- 一 下谷車坂
- 一 水谷町
- 一 鎌倉かし

- 一 深川 此所に方々米や藏あるなり

すみ薪屋

- 一 木挽町河岸通り
- 一 新橋南河岸通り
- 一 はま町
- 一 かまくらかし
- 一 中橋まさ町
- 一 向柳はら
- 一 牛込堀ばた
- 一 芝三田新堀ばた
- 一 芝橋西かし
- 一 南八丁堀
- 一 北八丁堀
- 一 れいがん島
- 一 鐵炮津

一木挽町つきし

一四谷鹽町 此所へ在々より出る也

下り酒屋

一中橋廣小路 吳服町壹丁目貳丁目 瀬戸物町壹丁目

丁目

鹽屋

一小あみ町新堀 新橋北出雲町横町

吳服屋

一本町壹丁目同貳丁目 石町壹丁目同貳丁目

綿屋

一本町三丁目南かわ 大傳馬町壹丁目横町

紙屋

一本町四丁目 大傳馬町壹丁目横丁

ぬり物道具や

一日本橋北壹丁目あま棚 新橋北出雲町 小傳馬

町一丁目

金物の類

一日本橋北壹丁目西横丁 京橋鍛冶町貳丁目 本

佐竹殿前

瀬戸物や

一靈巖島 常盤橋前 御成橋前 淺草まつり山此

所にて金龍山茶碗焼なり かやば町

戸しやうしや

一北八丁堀 銀町土手さわ

ふと物や

一大傳馬町壹丁目 尾張町貳丁目 南傳馬町壹丁

目同貳丁目 糒町六丁目

表や

一日本橋南壹丁目同四丁目

屏風や

一京橋南壹丁目 同貳丁目

小道具唐物屋

一京橋紺や町河岸 靈岸島長崎町 赤坂溜池ばた

神明前三島町 下谷池のばた

數寄屋道具や

一數寄屋河岸

馬道具や

一京橋西紺や町かし 通油町南横丁

古着や

一富澤町 長谷川町 鎌倉かし 京橋南かし 芝

田町壹丁目二丁目 赤坂傳馬町 宇田川町

書物屋

一通町 神明前 下谷池のはた 中通

上るり本や

一通あぶら町 大傳馬町三丁目

花や

一京橋南壹丁目横丁 木挽町橋通 花町 増上寺前

作花や

一下谷廣小路 淺草通 同並木町

人形や

一堺町人形町 日本橋南四丁目 淺草かや町此所

ははりぬき人形あり

植木や

一下谷池のばた 京橋長崎町廣小路 神明前三島

町 駒込そめ井 四谷傳馬町 其外方々に有とい

へとも不計なり

はな紙袋や

一堺町 吹屋町 芝神明前 木挽町五丁目橋通

鑓屋

一京橋鑓や町 神田佐竹殿前

材木や

一本材木町通 新材木町 北八丁堀 三十間堀通
深川 鐵炮津 かやば町 靈巖島

竹 や

一京橋竹町 新橋竹町 糺町十丁目 淺草駒形近
所 四谷御門外 本庄壹ツ目の橋近所

くれ木や

一日本橋西かし 中橋大工町桐の木此所にあり
てつぼうづ 深川

あら物や

一舟町堀留 京橋北壹丁目 靈巖島 浮世しよう
じ 新橋出雲町東かわ

石 や

一北八丁堀 本材木町八丁目
といしや

一日本橋南詰 其外方々に有之といへとも此所に

澤山にあるなり

古道具屋

一大門通 金六町 加賀町横丁 日比谷東後通
京橋東中通 芝田町貳丁目 赤坂傳馬町 淺草ふ
くろ町 三田臺町 靈巖島 銀町土手

古さや

一京橋南かし立賣 北さや町 赤坂溜池のばた
佐竹殿前

刀脇指細工類

一加賀町 銀町壹丁目 ひめ御門山城かし 南な
べ町 山下町 神田佐柄木町此外所々に有之とい
へとも此所に多くあるゆへ記す

縫箔や

一本町壹丁目横丁 銀町壹丁目 其外方々に有之
といへとも此所多くあり

切付や

一日本橋北三丁目 同南貳丁目 同三丁目

かつはや

一銀町土手通 其外通町所々に有之といへとも此
所に多くこしらへ候

させるや

一下谷池のばた 芝神明前 南なべ町 淺草通

もとゆいや

一淺布長坂 堺町 よし町其外所々に有といへど
も此所に多くあるなり

表具屋

一てつぼう町 其外所々に有之といへとも此所に
多くあるなり

わらひ樽屋

一中橋西かし

ぼうや

一日本橋北萬町 新橋竹川町東かわ

帯屋

一日本橋北三丁目 富澤町横丁

佛具屋

一日本橋北あま棚 神田かぢ町

でば包丁や

一横山町三丁目 其外所々に有之といへとも此所
にて地打多くあるなり

紫染や

一本町貳丁目 芝増上寺片門前 其外所々に有之
といへとも此所多くあるなり

鍋屋

一芝増上寺前 同田町 鎌倉かし 靈巖島 日本
橋南詰



指物や

一 小傳馬町横町 京橋南貳丁目横町 日本橋南三丁目 尾張町二丁目 本誓願寺前 白銀町土手通 乗物や

一 堺町後乗物町 すきや町 京橋北西かし 數寄やかし 糒町六丁目 本佐竹殿前

はり付や

一 京橋南三丁目 同鍵や町

屋ねや

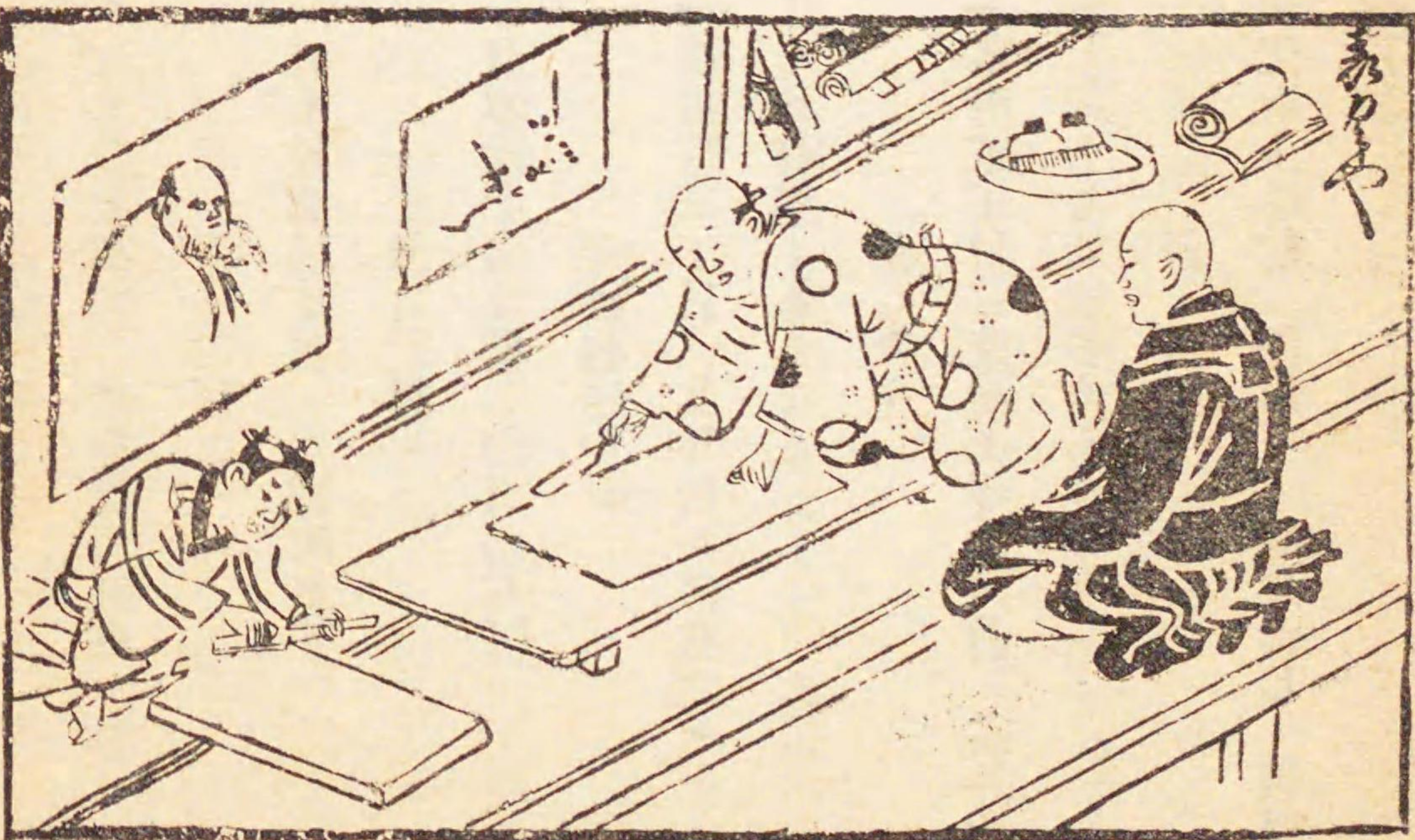
一 惣十郎町 瀧山町 松や町 いなは町

たしみや

一 壘町 山王町 惣十郎町 神田田町 てつぼう町 小傳馬町 瀧山町 此外方々に有之といへとも此所に多くあるなり

桶屋

江戸惣鹿子名所大全 卷の五



一 石町三丁目 京橋桶町二丁目 神田紺や町一丁目 新橋北横町

舟作並穴藏大工

一 南八町堀 小網町 うなき堀 銀町土手 此所にて古穴藏拵なり

かさりや

一 姫御門外山城かし 神田さいき町 神田革や町

やくわんや

一 かわや町 鍛冶橋かし 山城かし

弓屋並磔ゆかけや

一 京橋弓町

鯨細工

一 芝神明前 下谷池のばた

網や

一 小あみ町

白 屋

一木挽町貳丁 日本橋西がし

引白や

一かまくらがし 大舟町

糒 や

一糒町十一丁目 湯島明神前 同天神前 芝まみ

あな 増上寺うら切通し

つけ木や

一ばくろ町 小傳馬町 方々に有之といへども此

所に多くうるなり

とうしん

一日本橋北壹丁目辻

ちぢみたばこ入

一矢の御藏前

正平染

一京橋南四丁目 其外方々に有之といへども通町には此所計りなり

土器の類

一湯島天神前 浅草通 かはらけ町通り

からかさ張かへ

一かやば町やくし堂前

かはらや

一浅草門跡前 同聖天町うしろ 同はし場

茶せん

一浅草通り 同観音寺内

たばこや

一田所町 四谷鹽町 其外方々に有之といへども

此所多くあるなり

肴 や

一大舟町 小田原町 新小田原町 本材木町新が

し すじき町 新右衛門町 八官町 大傳馬町貳

丁目 久保町 芝壹丁目二丁目三丁目片川なり

糒町三丁目四丁目 浅草駒形 牛込 本郷 平松

町 上野黒門前

鹽物や

一小舟町 日本橋四日市廣小路

八百や

一神田土物棚 兩國橋廣小路 此所にて毎日市を

立てうるなり 八官町 鈴木町 久保町 新小田

原町

かん物や

一神田すだ町 京橋北貳丁目 南鍋町 堀留町

水菓子や

一瀬戸物町 南なべ町 京橋北貳丁目廣小路 四

谷しほ町 神田すだ町

江戸惣鹿子名所大全 卷の五

西瓜

一日本橋四日市廣小路 兩國橋廣小路 中橋廣小

路 京橋南がし 芝新堀ばた 四谷鹽町 糒町五

丁目此所にて毎日市を立て賣るなり 赤坂表傳馬

町壹丁目

饅飩味噌

一いなば町 神田

せきだや

一てれふれ町 堺町横丁せきだ町

木履や

一日本橋南萬町 てれふれ町

すぎがゑし紙や

一浅草門跡前 同所はし場

持佛堂宮

一白銀町土手通り

旗天蓋や

一 ばくろ町 増上寺前 上野黒門前
石塔や

一 木挽町壹丁目 浅草同朋町 同門跡前 芝い
らご 浅布長坂下 北八丁堀松や町 四谷五りん町
上下飛脚宿

一 新橋南一丁目二丁目 糺町 日本橋南一丁目新
道 石町三丁目 駿河町

馬宿

一 芝馬町 新橋南二丁目 大傳馬町壹丁目貳丁目
浅草かはら町

牛宿

一 芝牛町 下谷車坂下
すびつ並へつとい

一 山城がし 西紺や町がし 住吉町 赤坂一木町

紺や

一本町壹丁目横丁 駿河町横丁 赤坂田町溜池は
た 山城がし通

◇やす賣小袖類宿

一 駿河町 越後や 一本町 富山や 一同町 伊豆
藏や 一本町 雨いゑき

蠟燭や

一 大傳馬町 越後や

酒

一 立花町 木や

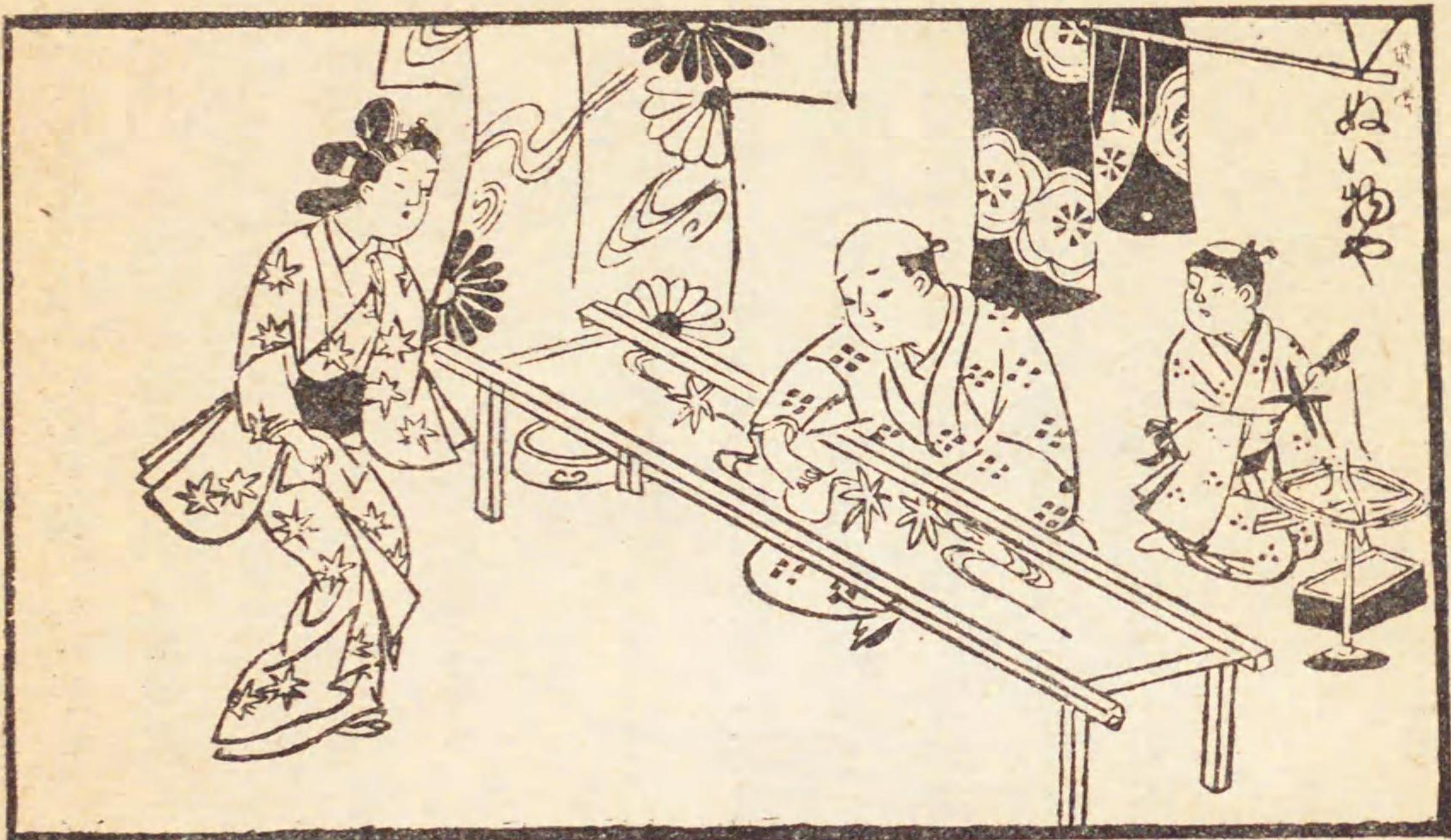
仕立物

一本町 富山や

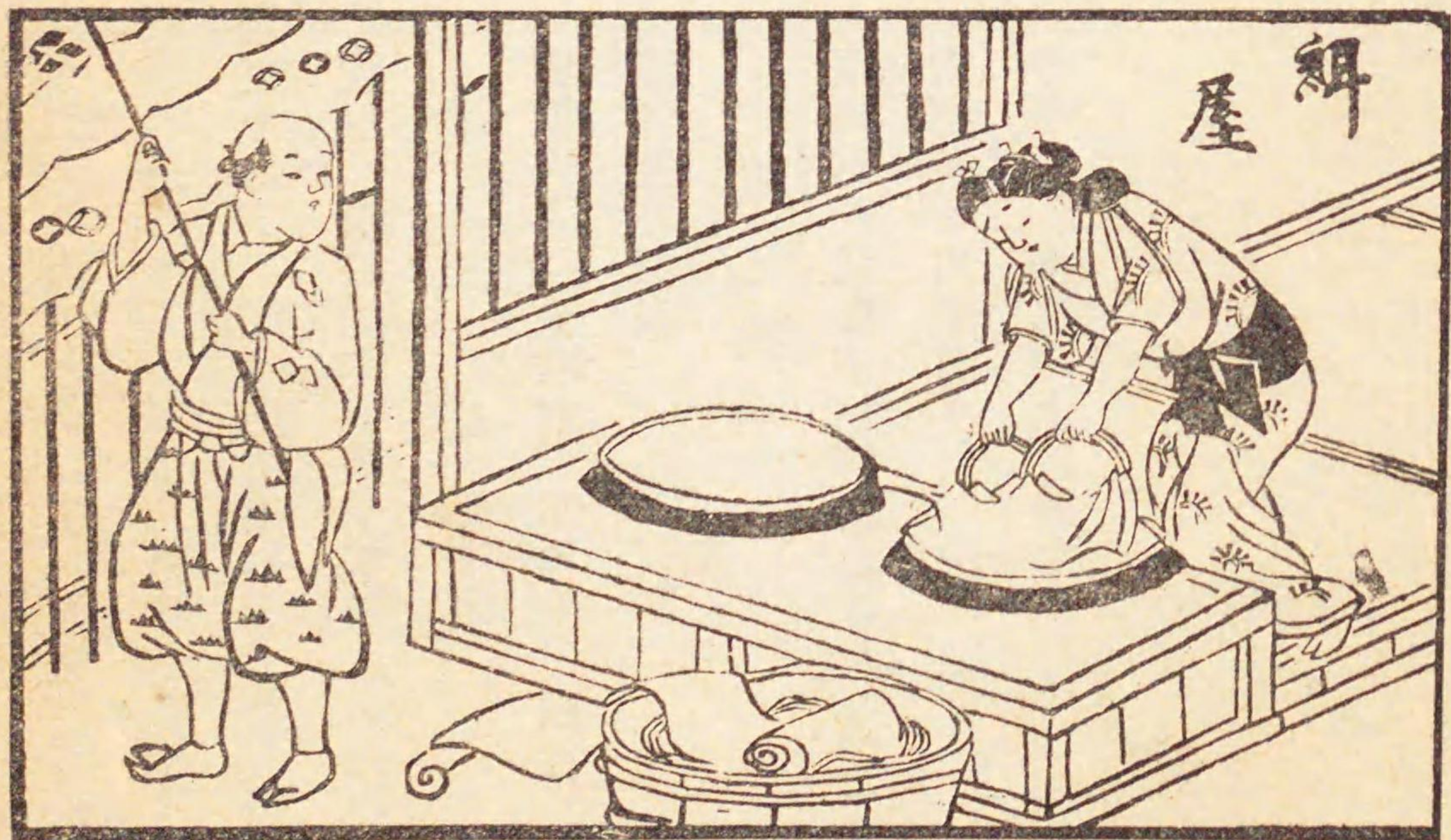
薬種

一 赤坂一木町 大坂や

名物



江戸惣庵子名所大全 卷の五



七一

一 永代島のかき、草ののり淺、芝のゑび、芝の肴、かさいさそ村の青な、ねりまの大こん、岩付のごぼう、川越なるとのうり、ふちうのうりあふひの御紋付、新田ほんだうり、みのまくはうり八王子の山すいくわ、鹽町のおんやき、淺草川の鯉

日本橋より諸方道積

一品川へ貳里 高井戸へ三里 板橋へ貳里 千壽へ貳里 葛西へ貳里半 鐵砲津へ貳里半 小松川へ壹里八丁 角田川へ壹里十貳丁 箕輪橋へ壹里 駒込富士へ壹里六丁 本郷追分へ三十丁 僧司谷へ壹里十丁 四谷追分へ壹里 目黒不動へ貳里

堺 町

一 堺町ふきや町の二町あり古しへより操り見せ物又は狂言つくしあるは放下の品玉繩切の曲を業とす

京へ百十九里半と十六丁 大坂へ百三十二里半十
五丁 長崎へ三百四十八里半十五丁 日光へ三十
壹里十八丁 江の島相州へ十三里 鎌倉雪の下へ
十貳里 箱根湯本へ貳十貳里 あたみへ貳十六里

三 味

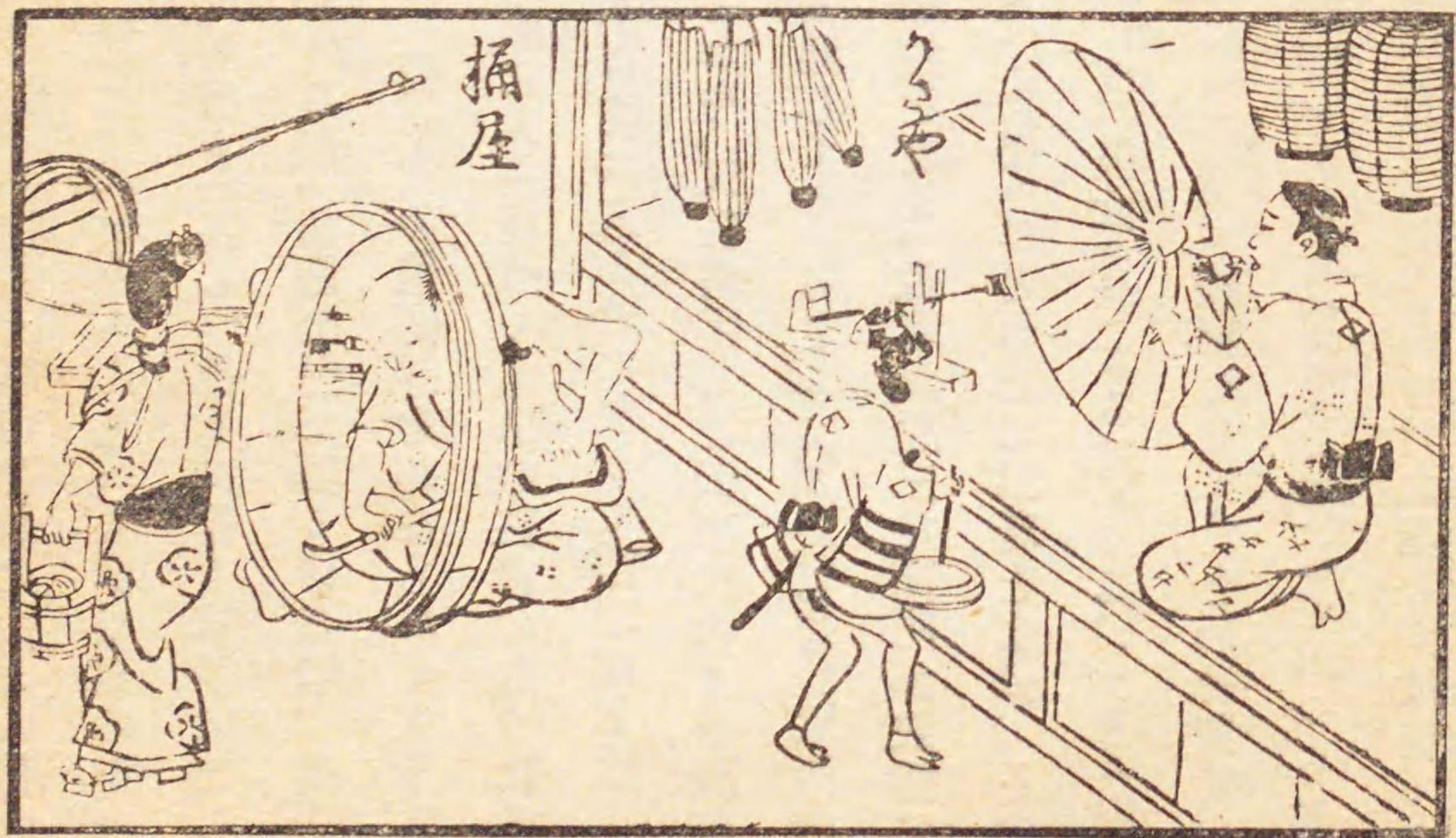
一 淺草橋場 千駄木 四谷先 桐谷 目黒 澁谷
澁谷道の坂後

三大橋

一 兩國橋 武藏下總堺にかけたる橋なり
一 六郷橋 川崎村
一 千手橋 淺草川上に渡す



江戸惣籠子名所大全 卷の五



七三

る者ども寄あつまり終日の歡樂をなす地なり、淨瑠璃といふ事は古く織田信長の夫人の侍女に小野のお通と云し女、牛弱丸うしろまるの鞍馬山を忍び出て奥州に下り、平家の代をとらんとおもひて東のかたにおもむきし頃ほひ、三川國矢やへ矯たの宿の長が娘淨瑠璃姫と忍びてちぎりし事を、色々に作り草子になしけるを其頃の琵琶法師に、瀧野檢校といひしもの萬の音曲に達しけるが、曲節まじを付て語りけるに、聞人自今の薩摩三郎兵衛四代さきの外記といひしもの是をならひて、西の宮の傀儡師をかたらひて人形に能をさせて一日に五番宛しけるに、淨雲といひしもの彼外記が座に入一段づゝあひの狂言の如くにかたりければ、聞人かゝつて能より面白さとおもへり、厥後そののちおのつから能は人よせになりて淨瑠璃をほんとせり、外記が流れば今の土佐なり、淨雲が末は伊勢の大椽なりとかや、又狂言盡しと云事は古く永祿年中に名護屋三左衛門といひしもの、其頃白拍子お國といふ女に密通してうたをうたわせ舞をまひ、佐渡島與惣頭といふものに教へて、北の、天神の庭にて構を圍ひ歌舞妓をなす、彼名護屋三左衛門が奴隷に馬鹿ものあり、その身かるき事ひやらしのかなひたる事は、ひとへに猿にひとしとして猿若とよふ、その奴又歌舞妓にまじわりて拍子をふみ曲をなす是を猿若の曲と謂し也、後世までさる若とよびしもの類なり、此歌舞妓をらんしやうとして次第に狂言を作りて、美はしき美童に綾羅を身にまといせ紫綸巾をもつてはちまきにして色々の藝をなす、しかるを中比少年の前髪を落させやらうとなしてかつらをいたしき、女かた若衆方になり狂言をなす、堺町ぶきや町にては猿若勘三郎と市村竹之丞と兩所にて藝をなす、

木曳町にては森田勘彌と山村長太夫と是も兩所に座をかまへておとらじと曲をなす、すべて江戸の老若男女棧敷をかり芝居に半疊打しき終日詠めくらすあり、一番切に見て出るもあり、追入追出しにとよめけば只わやくとのみなりて、さらに人の物いふ音もさだかならず、四座の内にも市村か座は一日切にてさのみさはがしからず、外の三座は一ばんつゝの追出しなり

一堺町 五代目狂言盡 中村勘三郎 狂言盡 一吹屋町 狂言盡 一木挽町四丁目 狂言盡 山村長太夫

一木引町四丁目 同 森田 勘彌

淨瑠璃座

一堺町 座本 さつま三郎兵衛 太夫 土佐少椽 脇 小太夫 庄太夫
 一吹屋町 多びすや店 和泉太夫 脇 長太夫 虎や源太夫
 一甚右衛門町 江戸半太夫 脇 郡太夫

説 經 座

一堺町 天満八太夫 脇 權太夫 重太夫
 一靈巖島 あつま新四郎 脇 庄太夫
 一堺町 江戸孫四郎 脇 長太夫 上るり太夫此分には座なし

一 吳服町 虎や永閑。 一人形町 近江語濟。 一本大坂町 肥前太夫。 一りうかん町 江戸次郎左衛門。 一新乗物町 對島五郎左衛門。 一説經太夫 此分に座なし
一 いなは町 村山金太夫 一南鍋町 大坂七郎太夫

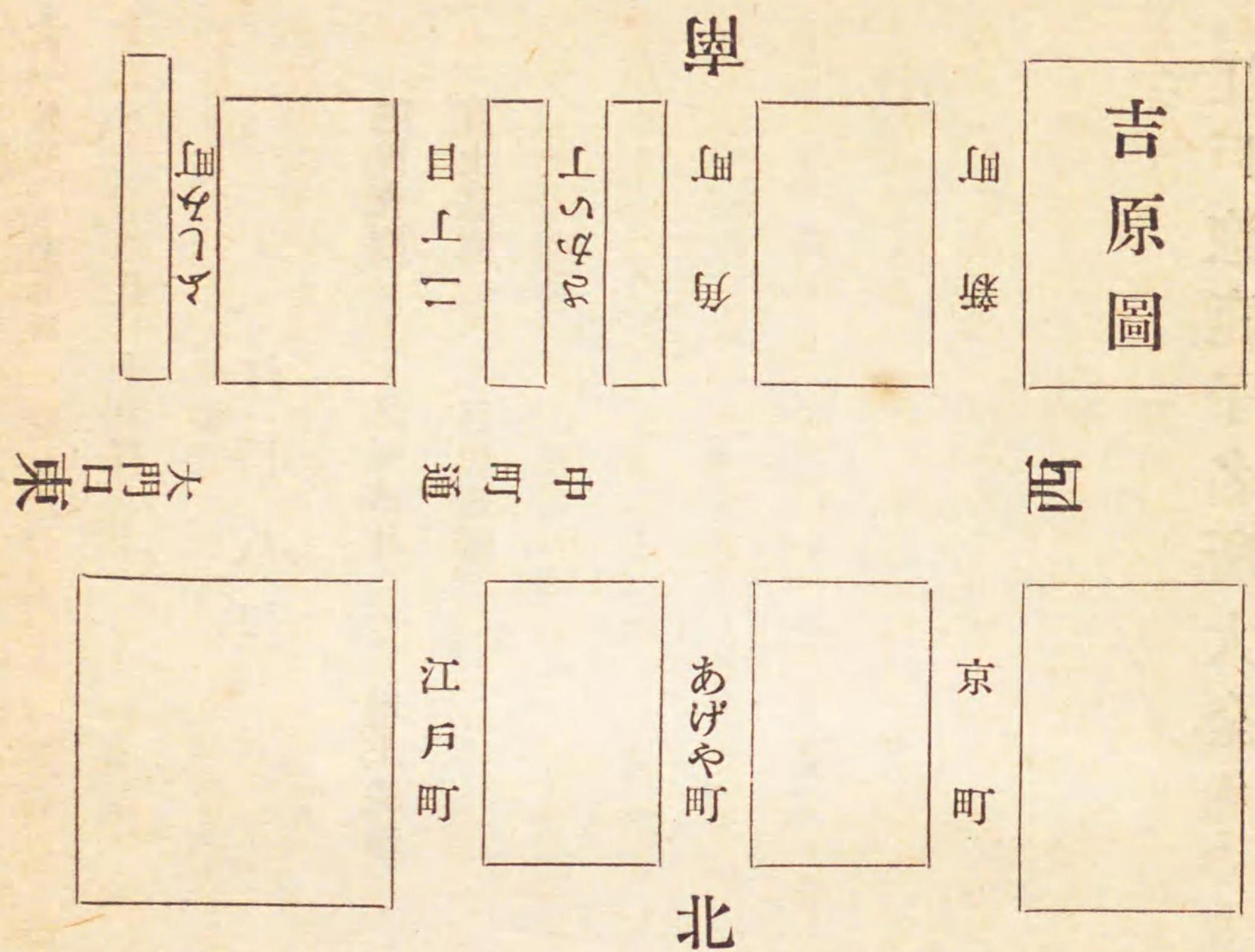
三谷吉原町

一 いはゆる吉原は淺草觀音堂よりは東にあたりて、いかめる好色非札の地なり、そのかみ駿河國吉原とかや聞へし所に遊女あまたありて旅人これにとまらん事をのみおもふ、それをいつしか江戸に移し堺町のあたりにありし、去る明曆年中大火の後此三谷にうつし、初は此所さんやといひてまことに野原の露ならでは消るかと思人もなかりしに、いつとなくかゝる三谷の住居つゆふかくよしやぬるく共花の下にかくれんなどゝて、雨雪風雲のさわりなくかよふ事おびたし、されば女の髮筋にてよれる綱にはいかなつり髮男もつなはれぬとは吉田何某かいひぶんや、大門口は東北にありて八つの町をよこ切、いわゆる太夫は三十七夕かうしは廿六夕、山茶は金壹歩つほねは五夕三夕、その下は錢百文あるひは壹夕の品をさだめてかよひくるに、あるひは封疆のなわてのなか／＼しきに道を獨りたり、君に會門口を見ては、みづから自ゑもん坂を走り下り、おもふ中の町にかゝり揚屋町に行人もあり、又花の江戸町二丁目にかよふもあり、見ぬ京町を行過てそれより新町に移りて君が住町へゆき、うき世の

堺町へ心さすもあり、誠に花の顔かゝやき、かつらの黛くる／＼とあひ、しう丹花の唇柔和のすがた柳の糸の黒髪までもつや／＼しく、ふりや見だしたる閨の内には空燒の薰ひ外に餘心うき立ぬれ、かけには身を沈めても惜しからじと老若賢愚のへだてなく、折にふれ色にたわむれ貴賤家を失ひ身をあやまつ、心ある男いかでか迷ひて惡道におつべきや、なれとも何となく只かり初に惡友にさそはれて一たびかへり見て物をおもひ、夢のなさけのおもはくには沖の石とはほかならで、戀のうきみはかくまも永くれんぼのくるしみをはなれず、おもはぬ頓敵とんてきとなりて世のそしり親の諫をもわきまへず、我身ながらもかよひ宛、おもひを床の内にのべ、うさを枕の下にかたる此道のならひ、初のはとは男女互にこと葉の露のぬれかゝるにも品をかたり、いきぢをみがきせんせいもつはらとするは遊女常住のならひなり、そのほど過ぬればだひ／＼にむつましくなり、いつしかかさをとめて内證はなしになり、身の上の安からぬものかたりとなる、枕ならふる床の内にはあさきゑんならんかとかなしみふかき契りをむすび、夏の夜のみじかき事をうらみて鳥諸とりもろともになさあかし、女はつとめのまゝならぬうさをかたれば、男はしやくせんたんの烟くさき事を歎く、秋の夜長しといへども猶あきたらずおもひて、終に心の下ひもうちとけて金銀のちりうするをもしらで、かよひ／＼て果は家へを失ひ身をあやまち、なれぬわざをなし下人に身を賣る族うぢらかれ是數へがたし、さはいひながら彼面白をかきつゞくれば、我おもふどちかたらひつれて此里に行あなたこなた見めぐりて、しやみせんのいとおしきかたち

にひかれ、ゑもいわれぬたわ事をいひちらし、心をころになりて揚屋に行あり、二丁目角町におもむくあり、新町江戸町に心さすありてそこにいたれば、盃出たすにおもひさしおもひのみおさへて酒をのむほとに、こよひは爰に新枕酒のうき世のさゝめこと、只のみ死にとさわぎつゝあけぬ夜に鳴くだかけの音もろともにおさらばとなこりを惜み、きぬくに引わかれゆくわかれぢの行すゑまでぞ、白露のおきて我屋に歸りつゝあさな夕な物おもひ、見し面かけは目につきてわすれかねたるありさまなり、又おもひかへしてはいかなればかく傾城にきも玉しるをとらかされ、我身なからの狂人よとおもひつゝせめて今一たび見て是を暇乞、彼地の踏ふみおさまめよと心誓文を獨りこととして、又うち越て見れば手かわりのぬらしにあふては、いまは誓文もうちわすれて、ふたゝび病に取つかれたる風情にて、あけくれ爰にかよちの關守はありともとまるまじや、まのあたりに主親兄の勘當をうけていづちへ行も便りなく、行所もしらす宿もなく心も昔にかわらねと、昔に替て淺ましくあさのかたひらもめん帯、されあみ笠にふか〜と人目をしのぶ身となるも、此みちじや、中々そこらのおやぢのしることにあらすとそれ者のいひけるも、誠に一たびかへり見れば國をかたむけ、城をかたむくると古人の格言なれば、誠にやくゝろみにそれしやに問、いかなるか傾城のたのしみ、答て曰、たゝよく浩然の氣をやしなふ、たとへ富は石宗か幸ありともたれかよく白骨をてらさんと云て退く、

吉原圖



江戸惣鹿子名所大全 卷の五

吉原年中行事

- | | |
|----|--------------------|
| 正月 | 朔日 二日 三日 四日 五日又六日 |
| | 七日まで 十五日 廿日 此内に節分あ |
| | れは又その日に入 |
| 二月 | 初むま 十五日 |
| 三月 | 節供 十五日 角田川參詣歸 十八日く |
| | わんおんまつり |
| 四月 | |
| 五月 | 節供 |
| 六月 | 四日 三輪村天王祭 十五日 山王祭 |
| 七月 | 七夕 盆内 十七日 十八日 |
| 八月 | 朔日 名月 |
| 九月 | 節供 名月 十五日 明神祭 |
| 十月 | いのこ 廿日 |

十一月 十五日
十二月 八日 十五日

江戸八景

隅田夜雨 忍岡秋月 増上晚鐘 鐵淵歸帆 淺草晴嵐 愛宕夕照
富士暮雪 目黒落雁

補増 江戸惣鹿子名所大全卷の五終

補増 江戸惣鹿子名所大全卷の六

諸師諸藝

一 醫師

本猿樂町	典藥頭半井内匠	鷹匠町	坂上地院法印	神田橋外	眞瀬養安院法印
本猿樂町	半井通仙院法印	内がし	今大路式部	愛宕下廣小路	吉田盛方院法印
三河町三丁目	人見玄徳法印	鷹匠町	吉田道庵法印	檜物町	阿部長徳院法印
神田鍋町横丁	岡甫庵法眼	稲葉町	山田仙庵法眼	檜物町	山田泰庵法眼
	小林安莫法眼	御弓町	余語古庵法眼	三河町四丁目	岡了雪法眼
三河町四丁目	其浦壽元法眼		三雲施藥院		平井 省庵
幸町	井上 玄徽	元藥師堂前	平田 道有	道三かし	元康 宗有
小石川	瀬尾 正宅	愛宕下廣小路	川野 松庵	日本橋南二丁目	久志本式部
傳奏屋敷近所	久志本左京	愛宕の下	土岐 格庵	鐵炮津湊町	那須 玄作
三河町	長島 道仙	赤坂田町二丁目	野間 允迪	ややすかし	清水 龜庵

鷹匠町 牧原 清庵 御臺所町 竹田式部卿 愛宕下廣小路 内田 玄岱
 田村 安柄 白銀町 井關 玄説 鷹匠町 澁江 松軒
 山王町 森 雲仙 紀州横裏門前 吉田 周行 鷹匠町 奥山 立庵
 駿河臺 東 宗雲 御藥園 木下 道圓 大膳允孝庵
 西久保 平賀 玄孝
 一 小兒醫師
 望月 仲庵 望月 榮庵 虎ノ御門内 吉田 龜庵
 西の久保 吉田 長達 同 吉田 一庵
 一 産前産後醫師
 白かべ町 大膳太夫了益 赤坂 大膳亮文庵
 一目醫師 伊達 本學 銀町二丁目 笠原 養仙 同三丁目 笠原 養琢
 傳通院前 兼康 安兼 福山 道庵 傳奏御屋敷近所 本康 宗硯 加賀町 兼康 永見
 一口中醫師

一 外科

關本 伯典 長生院 川島 周庵 津輕 意春 曾谷 伯安 杉本 忠恵
 酒井 了琢 望月 甫庵 廣井 宗庵 幸橋外 坂本 養貞 鷹匠町 佐藤 慶南
 一 針立師
 山本 慶益 坂 壽三 坂 立雪 坂 壽庵 佐田 玉川 岡本 玄銘
 海津 祐眞 杉山 檢校
 一 儒者
 上野トやすかし 林弘文院春常 筋違橋内 人見 友元 林 源四郎
 御評定内 坂井 伯元 やすがし 伊達 春貞 臺所町 木下 順庵
 浅草 津田 伯榮 京橋近所 深尾 春庵
 一 曆 學 安田 三哲
 一 神 道 京橋 吉川 惟足 駿府 惣社 宮内
 一 陰 陽 師

かわらけ町

正木 織部

神明前

菊川 伯耆

一手 跡

西久保八幡宮近所佐々木萬次郎

中村 立良

一算 者

一同 指南

日本橋南一丁目 磯村重良右衛門 南なべ町

蕪木彦四郎

本材木町

川崎新右衛門

石町一丁目横 松田武太夫

一歌 讀

牛島 石出 常新 京橋南貳丁目

清水 宗川

日本橋北一丁目

井上 一水

市ヶ谷田町四丁目 茂山 勾當

一連 歌師

里村 昌程 同 昌陸 同 昌純

里村 玄祥 同

仍春

石出 常軒

一俳 諧師

雪柴 桃青 瀬戸物町の 一品 舟町 不卜

堀江町 龜鶴 西丸

芝 調和

中橋 林中子 幸入 幽山 露言

一碁

芝金杉新網町 本 因 坊 同町

保井 三知

保井 知哲 同 齋哲 因碩 春知 板垣善兵衛

坂田屋八兵衛

一將 棋

麻布市兵衛町

伊藤 宗看

同所

大橋 宗與

増山殿下屋敷

大橋 宗桂

一立 花

京橋具足町

卜 龍

富澤町

村田理右衛門

一蹴 鞠

藤井 半知

京橋南二丁目

織戸小左衛門

渡邊與三右衛門

一繪 師

住吉 貝慶

中橋大が町會所

狩野 永真

鍛冶橋かし前

狩野 探雪

同所 狩野 探信

新橋南一丁目横町 狩野 洞雲

新橋北一丁目横町 狩野 養朴

一大和 繪師

村松町二丁目 菱川吉兵衛

同吉左衛門

同 作之丞

一佛 繪師

京橋内町 細金善兵衛

中橋廣小路

細金馬場重右衛門

一刀 目利

下谷廣小路 本阿彌三郎兵衛

上野黒門前

同 光由

同

町

同

光知

江戸惣鹿子名所大全 卷の六

下谷廣小路 同 光隆 同 光位 同 市三郎 同 光山 同 久右衛門
 同 光受 同 九郎右衛門 同 庄兵衛 同 六右衛門 同 光務 同 市郎右衛門
 同 光和 同 光順 同 光秀 同 光傳 同 光宿 同 太左衛門
 同又左衛門 同 長右衛門 同 七郎兵衛 京橋南三丁目 角野 壽見

一目貫彫物目利

本銀町北土手 後藤四郎兵衛

一古筆目利

本郷御弓町 畠山 升庵 谷中臨江庵寺内 ソヤ 了仲 ソヤ 了珉

一墨跡目利

品川東海寺 春澤 和尚

一繪目利

一諸道具目利

京橋南一丁目 片倉 道悅 幸橋外兼房町 岡本重右衛門

一按摩取

一耳垢取 神田紺屋町三丁目 長官

一檢 校

戸田山城守殿内 曾根川 大久保加賀守殿内 戸 澤 戸田左門殿内 瀬 川 非伊伯耆殿内 本 田
 大村因幡殿内 杉 立 上杉彈正殿内 德 山 松平隠岐殿内 飯 山 水戸宰相様内 長 谷 川
 松平和泉殿内 江 本 井伊掃部殿内 石 原 阿部對馬殿内 岩 島 松平飛騨殿内 丸 山
 佐竹修理殿内 北 村 水戸宰相様内 山 本 道三かし 杉 山 日本橋南二丁目新道伊豆山
 北八丁堀同心町 齋 藤 南八丁堀 横 山 芝金杉二丁目横丁太 田 芝田町五丁目 本 坂
 芝牛町 關 川 上臺所町 池 島 馬喰町四丁目 住 山 神田鍋町 市 川
 赤坂田町二丁目 根 尾 鮫橋戒行寺谷 大 木 中殿町 窪 田 麴町三丁目横丁 篠 原
 四谷五りん町 豐 島 麴町九丁目 板 花 臺所町 豐 岡 森川宿本多中務殿前松 永
 大傳馬町三丁目 木 本 小傳馬町一丁目 遠 藤 銀座二丁目柏屋の裏小野川

一不座檢校

典榮

一勾 當

番町 留 川 吳服町一丁目 廣 瀬 芝西應寺前 江 藤 藤堂和泉守殿内 杉 岡
 藤堂佐渡守殿御内淺 沼 細川越中殿内 上 島 同 御内 神 坂 細川丹後殿内 池 永

かやば町	初瀬	紺屋町	北澤	鈴木修理殿内	澤橋	仙石越前殿内	八島
牧野半右衛門殿内唐島	西久保	森岡	松平加賀殿内	杉山	松浦肥前殿内	舟木	
鮫橋	松井	はくや町	岡野	板倉百助殿内	三好	源助町	浅野
芝いさらじ	清谷	秋本但馬殿内	岩山	糺町天神前	山岡	松平上野守殿内	杉島
市谷田町四丁目	茂山	松平右衛門佐殿内三輪野	番町	上澤	番町	田中	

一能 太夫

瀧山町	金剛 太夫	山玉町	金春 太夫	弓町横丁	観世 太夫
幸町	寶生 太夫	神田	喜多七太夫	宇田川町	金春左衛門
宇田川町	大藏庄左衛門				

一脇 師

靈巖嶋	進藤權右衛門	木挽町つきじ	寶生新之丞	京橋南四丁目	春藤 源七
源助町	富安彦太郎	弓町	福王茂兵衛		

一笛

八丁堀	春日市右衛門	三十間堀一丁目	森田庄兵衛	京橋南四丁目	一噌六郎左衛門
三十間堀三丁目	篠井忠次郎	源助町	長命吉右衛門	山下町	大藏助右衛門

一小 鼓

源助町	長命清左衛門	瀧山町	竹中庄次郎
-----	--------	-----	-------

芝新錢座	寶生新九良	尾張町二丁目	幸 清次郎	南きや町	幸 清六
新橋南三丁目	幸五郎兵衛	くれ正町	幸 五郎八		幸五郎左衛門
芝門前町	大藏長右衛門		大藏 六藏		大藏重兵衛
新九郎一所	寶生新九郎				

一大 鼓

弓町横丁	葛野市郎兵衛	同	同九郎次郎	芝門前丁	高安三太郎
尾張町	樋口久左衛門	出雲町	楠田六右衛門	京橋南一丁目	金春三郎右衛門

一太 鼓

加賀町	観世 左吉	神明町	金春又次郎	八丁堀	今春三郎衛門
-----	-------	-----	-------	-----	--------

一狂言師

源助町	大藏彌太郎	木挽町	大藏長太夫	新肴町	大藏市郎兵衛
いなば町	大藏彌次兵衛	山下町	大藏八右衛門	竹川町	大藏喜太郎
繪物町	鷺 仁右衛門	南鍛冶町一丁目	鷺 山三郎	三十間堀五丁目	長命勘左衛門

脇本佐左衛門

逆水五郎兵衛

一座敷獨狂言

日本橋南二丁目 松村 休閒

南八丁堀一丁目 道具屋九右衛門

新ばし

ぬしや惣兵衛

諸職名匠諸商人

一町年寄

本町一丁目 ならや市右衛門 同二丁目

樽屋藤左衛門

同三丁目

北村彦右衛門

一金座

本兩替町がし 後藤庄三郎

一銀座

京橋南一丁目末吉孫九郎

同二丁目銀座長屋小南理兵衛

戸棚 日比谷五郎左衛門

戸棚 庄野清兵衛

銀見 金谷彦九郎

金谷喜左衛門

右之分京より下り壹年代り勤む

京橋南三丁目 細谷五郎左衛門

大勘定 京橋南二丁目裏 伊丹七兵衛

戸棚勘定 京橋南三丁目 細谷三良左衛門

同新道 戸棚茂山市郎右衛門

京橋南二丁目平座流長谷川長兵衛

同町裏がし 秋田作左衛門

新橋北竹川町 淀屋甚四郎

京橋南一丁目うらかし宮崎伊左衛門

同町横丁

小岸八郎右衛門

京橋南二丁目うらがし田上助左衛門

水谷町一丁目 都司伊兵衛

北八丁堀三丁目 關 善九郎

一常是包

京橋南二丁目東かわ 大黒長左衛門

一朱座

新橋竹川町 淀屋甚太夫

同町

糸屋市郎右衛門

同町

小田助右衛門

同町 義村源左衛門

一吳服所

壹石橋南角 後藤縫殿之助

檜物町

茶屋四郎次良

日本橋南二丁目

茶屋新四郎

同町 龜や 永住

本石町二丁目

上柳 甫齋

數寄屋がし

三島や祐徳

橋本平三郎

一甲府宰相様吳服所

石町二丁目 しゆとん市郎右衛門

一紀伊中納言様吳服所

通石町三丁目 茶屋小四郎

一尾張中納言様吳服所

日本橋南二丁目 茶屋新四良

一水戸宰相様吳服所

佐藤久兵衛

一大工頭

神田橋外 木原 内匠

同所

鈴木長兵衛

平内七郎左衛門

木挽町二丁目 田良 豊前

辻内茂兵衛

おか町

靄 飛驒

一分銅彫物師

銀町三丁目北土手後藏四郎兵衛

一秤

日本橋南四丁目 守隨彦太郎

一升

北村彦右衛門

一針口師

與市郎

一茶師

新橋南一丁目 上林 牛賀

本町一丁目かし

宮村權太夫

浮世しやうし角

桑原清左衛門

南傳馬町一丁目 山田庄三郎

同所

岡村市右衛門

京橋南四丁目

祝 權七

同所 林 五兵衛

一ひわだや

喜兵衛

一御冠烏帽子並裝束師

日本橋南二丁目 前羽孫兵衛

同三丁目

山城守重正

一見す簾師

本吉原 見すや徳方

京橋北一丁目

見すや市左衛門

一鐵炮師

鐵炮町 胝 宗八郎

同町

大塚忠次郎

京橋南四丁目

榎並勘左衛門

松屋彌左衛門

しほ町

松屋傳四郎

一疊師

内河岸 伊阿彌角之丞

中橋大工町

渡邊與惣右衛門

中橋廣かうじ

中村彌太夫

疊町 早川助右衛門

疊町

宗右衛門

弓町

長右衛門

南大工町

喜兵衛

數寄屋町

次郎兵衛

山王町南かし

彌市

一 袈裟帽子所

下谷

坂本 彌七

本町二丁目通

わくや

同所

井つゝや

同所

いせや

同所

大文字や

一 鏡師

神田乗物町

中島伊勢守

尾張町一丁目

中島伊勢守

南鍋町

山本加賀守

尾張町一丁目横

山隆近江守

一 土圭師

弓町

とけいや理右衛門 鍛冶橋かし

近江守元信

弓町

田中市右衛門

神田乗物町北横丁藤原 正次

一 香具所

神田鍛冶町一丁目田中 近江

同乗物町

岡 備後守

本町三丁目

かうぐや七兵衛

一 太刀屋

加右衛門

石町通岩付町

京下り 播磨

石町一丁目

又左衛門

一 唐本屋

吳服町一丁目

山形屋太兵衛

一 書本屋

京橋南三丁目

林 文藏

新橋南一丁目

彦兵衛

三十間堀三丁目

木戸茂兵衛

一 書物屋

日本橋南二丁目

中野仁兵衛

芝神明前

中野左太郎

京橋南三丁目

林 文藏

神田鍛冶町

秋田屋常知

通乗物町

中野孫三郎

同所

前川權兵衛

通銀町

村上又三郎

石町三丁目通

中村五兵衛

同所

野田重兵衛

同所

ふや五郎兵衛

本町三丁目通

西村又右衛門

本兩かへ町かし

ふや平兵衛

京橋南一丁目

日下部八右衛門

同四丁目

渡邊善右衛門

神明前

八尾五郎右衛門

京橋南四丁目

小林太郎兵衛

一 屏風屋

京橋南一丁目

五兵衛

同所

江口庄右衛門

同所

福田惣兵衛

同所

日下部八右衛門

同所

長谷川重右衛門

同所

落合傳右衛門

同貳丁目

大崎三郎兵衛

同所

長右衛門

一 組系屋

尾張町一丁目 山崎屋吉兵衛 日本橋南一丁目 鶴屋 同四丁目 次郎左衛門
 本石町四丁目 太兵衛 日本橋南一丁目 へいしや 同町 ねすみや
 檜物町一丁目 大こくや忠兵衛 南傳馬町三丁目 いせや嘉兵衛 日本橋さや町 酒井次郎左衛門
 日本橋南四丁目 こひしや

一 琴三味線師並糸

京橋柳町 讚岐 通銀町 柏屋長兵衛 通乗物町 龜屋清左衛門
 京橋北一丁目 石村 近江 同北二丁目 石村 河内 麴町二丁目 橋屋長門椽
 源助町 石村山城守

一 鞆屋並しらへ忍緒

日本橋南四丁目 赤堀 上總 京橋南二丁目 大和屋作兵衛 石町三丁目十間棚神取 若狹
 京橋北一丁目 三木長兵衛 南かぢ町二丁目 理兵衛

一面 打

尾張町二丁目 出目 洞伯 同所 出目 奎之助 日比谷一丁目 出目 源助

一 揚弓師並矢師

神田天神前 深谷勘左衛門 同所 深谷久左衛門 同所 藤原 安仲

一 蹴鞠所並沓

京橋南二丁目 龜屋六左衛門 石町十間棚 松屋又左衛門 同所 竹屋勘兵衛
 森村金太夫 淺草かや町二丁目 吉重

一 笛簞築師同尺八

中橋廣小路 指田 傳竹 南大工町 佐藤太郎左衛門 芝久右衛門町二丁目 笛師久右衛門
 本郷 清左衛門

一 筆 屋

日本橋南一丁目 福田理兵衛 常盤橋前 速水 祐仁 室町二丁目 小法師甲斐
 石町二丁目通 杉村 出羽 福岡 相模 石町三丁目十間棚安藤 數馬
 本町 福永 豊後

一 墨 所

日本橋南一丁目 森 若狹 南大工町 大墨 但馬

一 經 師

尾張町二丁目 大經師左京 神田ぬし町 勝田兵左衛門 下谷廣小路 庄三郎

一金銀箔屋

江戸惣鹿子名所大全 卷の六

はくや町 京橋南四丁目 はくや嘉兵衛

一大佛師

京橋南一丁目 左京 同貳丁目 法橋 祐正 同四丁目 片山 幸甫

南傳馬町一丁目 法橋 善慶 小傳馬町一丁目 元慶 石町四丁目 民部

日本橋南四丁目 法橋 光清

一菓子所

本飯田町 虎屋 ふきや町 多びすや九兵衛 京橋南四丁目 ほらかいや用藏

鍛冶橋前 伏見屋 同所 虎屋權兵衛 同所 猿屋甚右衛門

石町十間棚 鶴屋吉兵衛 山下町 鶴屋六兵衛 南なべ町 多びや作兵衛

同所 かにや清兵衛 新橋南一丁目 鶴屋庄左衛門 御成橋前 翁屋

京橋南四方棚 栢屋 河内 日本橋北一丁目 高砂屋 久保町 つぼや忠四郎

同所 釜屋 同所 多びや三郎兵衛 加賀町 福島屋仁左衛門

市谷田町 鯛屋 三田町 鶴屋庄五郎 同五丁目 鷺屋五左衛門

同所 堞屋源右衛門 同所 多びすや 宇田川町 伊勢屋

吳服町一丁目 柳屋五兵衛 はくや町 鯉屋 飯田町 柳屋

同所 壺屋

一塗師蒔繪師

南大工町 幸阿彌與兵衛 南油町 藤田三郎右衛門 銀町一丁目 菱田甚右衛門

京橋二丁目横町 梅原 久壽 檜物町二丁目 幸阿彌又五郎 銀町一丁目 栗本源左衛門

神田なべ町 鈴木彌左衛門 本材木町 山田 常賀 南大工町 駒 休意

三十間堀五丁目 田付長兵衛 檜物町二丁目 家具屋七兵衛 吳服町 分銅屋忠左衛門

本郷 清水九兵衛 日本橋南二丁目 幸阿彌清次郎 京橋南四丁目 鶴屋五郎左衛門

山下町 幸阿彌利左衛門 因幡町 蒔繪師甚三郎 神田革屋町 家具屋庄助

京橋弓町 ぬしや源太郎 檜物町二丁目 石川甚右衛門

一櫛師

日本橋南二丁目 井上 數馬 京橋南二丁目 石井近江守 同所 對馬守

新橋竹川町 松井 玄蕃 日本橋北三丁目 和泉屋近江

一唐木細工師

京橋柳町 徳岡木工入 本長崎町一丁目 指物屋休悦 同子 久右衛門

一扇子屋並舞扇子

日本橋南二丁目 三村徳右衛門 尾張町一丁目 一文字屋重右衛門 日本橋南一丁目 大扇師多比

一白粉屋

通銀町 大戸近江守 芝源助町 小松近江守 石町十間棚 藤原 正重

一針所

京橋四方棚 藤原 正重 同所 大和椽 新橋北竹川町 針屋五郎兵衛

京橋四方棚 宗廣

一金銀打針師

京橋南一丁目 井林次左衛門 松村庄兵衛 南大工町の角 庄兵衛

一名酒屋

南傳馬町一丁目 播磨や七兵衛 同所 大和目藤原重次 南鍋町 中村清兵衛

深川大島町 三笠酒伊阿彌新之丞 數寄屋町 霞酒 讚岐屋 下槇町 山川酒 天満屋

一表具師

銀町四丁目 今井 有齋 石町四丁目 伊丹 宗惠 數寄屋町 伊藤 宗仙

久保町 中尾 道久 南八丁堀 辻 養作 南大工町二丁目 井上 與庵

一佛具並鑄物師

神田鍋町 椎名 伊豫 南なべ町 長谷川越後 神田鍛冶町 和泉守時重

同所 小沼播磨守

一繪繕師

南八丁堀 辻 養作 數寄屋町 伊藤 宗仙 南大工町二丁目 井上 與庵

一茶入繕師

中村 三惠 南槇町中通 藤重 當元

一茶入袋師

西紺屋町 川上 袋子 南槇町中通 藤重 當元 本郷五丁目 以貞

中村 三惠 日本橋南一丁目 鹽瀬山城守

一茶入蓋師

靈岸島長崎町 池島 立作 京橋南二丁目 ふたや九右衛門 京橋北一丁目 ふたや長左衛門

靈岸島長崎町 孫左衛門

一茶湯道具直

京橋金六町 四郎兵衛 南槇町中通 藤重 當元

一幅紗所

日本橋南一丁目 鹽瀬山城

南横町中通

藤重 當元

京橋南四丁目

祝 權七

一釜 屋

南鍋町

山城

京橋三丁目横町

大西五郎左衛門

一銅人形師

京橋北一丁目

大藏 長房

一繪具屋

南傳馬町一丁目

稻野 信濃

京橋北一丁目

繪具屋惣兵衛

同所

ゑのぐや市兵衛

尾張町一丁目

同 五兵衛

一額彫屋

宇田川町

學林

京橋北二丁目

春信

一彫物師

白銀町一丁目北土手がし後藤四郎兵衛繪物町

横屋 宗興

同所

同 次兵衛

元佐竹殿前

奈良八郎左衛門

下谷

同小左衛門

三十間堀三丁目

後藤 高節

久保町

同彦右衛門

同 庄兵衛

一具足屋並着込

日本橋南一丁目 鹽瀬山城

南横町中通

藤重 當元

京橋南四丁目

祝 權七

一釜 屋

南鍋町

山城

京橋三丁目横町

大西五郎左衛門

一銅人形師

京橋北一丁目

大藏 長房

一繪具屋

南傳馬町一丁目

稻野 信濃

京橋北一丁目

繪具屋惣兵衛

同所

ゑのぐや市兵衛

尾張町一丁目

同 五兵衛

一額彫屋

宇田川町

學林

京橋北二丁目

春信

一彫物師

白銀町一丁目北土手がし後藤四郎兵衛繪物町

横屋 宗興

同所

同 次兵衛

元佐竹殿前

奈良八郎左衛門

下谷

同小左衛門

三十間堀三丁目

後藤 高節

久保町

同彦右衛門

同 庄兵衛

一具足屋並着込

元佐竹殿前

明珍式部

南なべ町

岩井六右衛門

西河岸

同與左衛門

日本橋南一丁目

忠左衛門

芝増上寺片町

種村 忠勝

京橋南三丁目

藤原 家重

一轡 所

芝露月町

一口 河内

源助町新道

市次藤原行重

弓町

重次

かはらけ町

吉重

宇田川町

市村五右衛門

一弓師並矢

下谷廣小路

栗林藤四郎

弓町

近藤久兵衛

同所

戸塚五左衛門

同所

小林權兵衛

同所

栗村山三郎

同所

矢師權三郎

同所

青木八左衛門

同所

福井 源助

一鞍 打

かはらけ町切通

伊勢 因幡

鍛冶橋河岸

勘左衛門

弓町

東條傳右衛門

繪物町

庄兵衛

一燈 師

人形町横丁

作左衛門

源助町

五郎左衛門

神田佐竹殿前

正次

一堆朱彫物師

南大工町

養清

一鞆屋

京橋内町

小川喜左衛門

南傳馬町

かんたにし

京橋弓町

うつぼや武右衛門

糝町二丁目

うつぼや勘左衛門日本橋南二丁目

うつぼや四郎兵衛

一鑓屋

京橋やりや町

善太郎

南佐柄木町

與惣左衛門

一磔師

京橋南一丁目

丸田喜左衛門

同弓町

吉勝市兵衛

同町

久澤甚左衛門

一弦指

下谷

筑後

一釘金物鍛冶

鍛冶町

神田かぢ町

助左衛門

ぬし町

左市

久保町かぢ町

山崎五兵衛

一刀鍛冶

京橋弓町横丁

平安城

助房

同所

山城守秀康

山下町

法乗寺三郎太夫

惣十郎町

下坂

神田かぢ町

源 正友

牛込

島田

神田紺や町二丁目下坂市之丞

神田きじ町

法乗寺三郎左衛門芝

國康

瀧山町

法乗寺但馬守正弘

同 光平

石道 金盛法橋なり

う田川町

同 之勝

ひせん町

出雲大椽

藤原 吉武

さたけ殿前

信濃守

山下町

法乗寺宅太夫

神田

小鐵

きぢ町

法成寺次郎左衛門弓町

矢根 重次

桶町横丁

矢根 越前住重高

横山町

菊一文字

同所

文珠 四郎

横山町三丁目剃刀常陸守兼房

神田かぢ町同

信濃守廣兼

大工町横丁極印

忠吉

一柄卷師

上野黒門前

傳左衛門

銀町二丁目

三郎右衛門

傳通院前

傳右衛門

山下町

黒崎權左衛門

同町

權右衛門

入江作左衛門

一刷毛屋

南傳馬町一丁目 井上山城守

鐵炮町二丁目

ひた り

南傳馬町二丁目

はけや

一鐘木師

浅草並木町

伊左衛門

通あふら町

傳兵衛

一鬻屋

新橋南二丁目

能鬻師

通鹽町

よしのや半右衛門

堺町

とこの六兵衛

一小細工印判師

京橋南四丁目

小林 近江

同所

印判屋權左衛門

銀町

今津 丹後

神田乗物町

印判屋作兵衛

一淨瑠璃本屋

大傳馬町三丁目

山本九左衛門

同所

うろこかたや

長谷川町横丁

松會三四郎

通油町

鶴屋喜右衛門

同所

山形屋市郎右衛門

一青漆師

日本橋南二丁目

松村 河内

一合羽屋

京橋北一丁目

伊勢屋久兵衛

石町三丁目

薩摩

横山町三丁目

長兵衛

同所

彌兵衛

同所

八兵衛

比々谷一丁目

井筒屋次郎兵衛

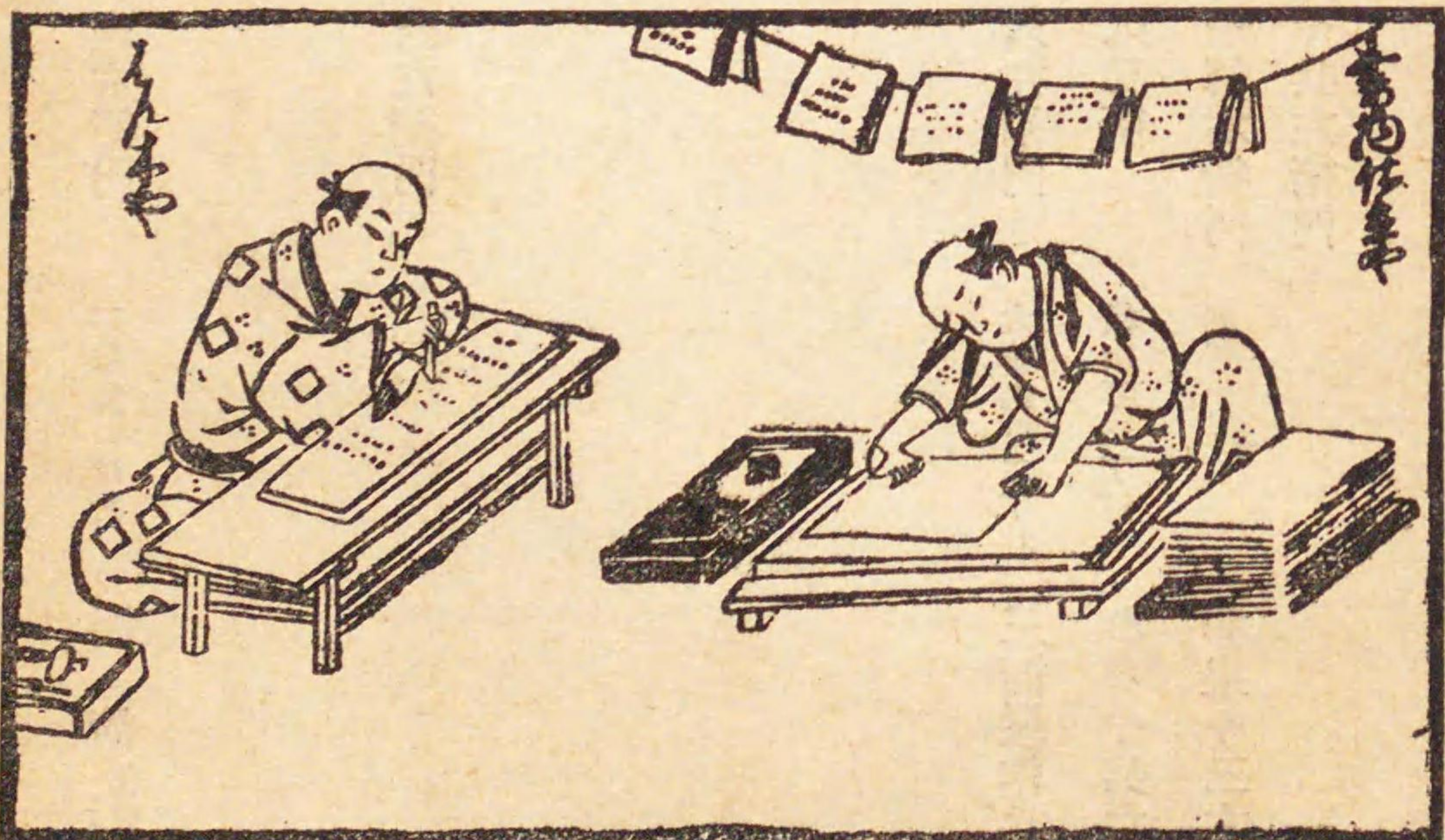
京橋北二丁目

さつみや彌惣右衛門 白銀町二丁目

いせや徳右衛門



江戸惣鹿子名所大全 卷の六



一〇七

一 錫道具師

駿河町二丁目

すしや久左衛門

同

同 理右衛門

下谷池のはた

同 清左衛門

西紺屋町

同九左衛門

一 唐木屋

糀町二丁目

橘屋 長門

通乗物町

龜屋清左衛門

一 唐革印傳屋

本町

とんてんや庄次郎

一 茶白直し

京橋南四丁目

一 蠟燭屋

鎌倉河岸

石墨伊右衛門

同所

同 久左衛門

大傳馬町二丁目

三河屋作兵衛

同所

わたや庄右衛門

同所

中屋久兵衛

横山町三丁目

わたや兵左衛門

京橋北一丁目

さつみや源兵衛
ゑちぜんや九右衛門

京橋南四丁目

いせや傳右衛門

同所

和泉や三右衛門

尾張町一丁目

大津屋善右衛門

同貳丁目

いせや兵左衛門

一 伽羅屋

神田鍋町

山城守

宇田川町

林 法喜

神明門前町

同 喜左衛門

一 伽羅油屋

神明前

大好庵

門前町

林喜左衛門

宇田川町

同 法喜

ばくろ町

傳兵衛

同所

伊兵衛

一 花露屋

芝神明門前町

林喜左衛門

同

同 法喜

京橋南三丁目

同 喜左衛門

新橋竹川町

同 喜八

一 製藥屋

常盤橋前

元祖遠藤 出羽

同

桐山 三了

一 地張させるや

下谷池のはた

しんちや
市郎右衛門

同所

才三郎

神明前

柳屋清兵衛

南鍋町

播磨屋庄兵衛

同所

藤田屋次兵衛

一 花屋

京橋南一丁目横町

道圓

同所

七郎右衛門

一作花屋

本所祝言方 九左衛門

淺草かや町一丁目 惣左衛門

尾張町一丁目 甚右衛門

一同京下り

下谷廣小路 別春

淺草並木町 常春

同かや町二丁目 正次

同所 正信

一張子屋並ひいな類

通銀町 大戸 近江

日本橋南二丁目 中野仁兵衛

同四丁目 木戸 和泉

京橋南二丁目 万屋五兵衛

同四丁目 同 長兵衛

一 碁盤師

南傳馬町一丁目 庄九郎

通乗物町 清左衛門

新兩かへ町四丁目 加兵衛

一 鮫屋

白銀町通 長左衛門

京橋北一丁目 彌兵衛

同四丁目 彦兵衛

同所 八兵衛

同所 又四郎

一 地唐紙師

通乗物町 藤林五郎兵衛

京橋南四丁目 入江庄五郎

新橋竹川町 入江作兵衛

同出雲町 塚屋次郎兵衛

通銀町 田川市郎兵衛

同所 彌兵衛



江戸惣鹿子名所大全 卷の六



石町二丁目 丸屋九兵衛 同所
 同所 半田七兵衛 同所
 浅草かぢや町二丁目 權左衛門
 一葛羅屋 同所
 日本橋南三丁目 仁兵衛 同南四丁目
 一漆屋 同南四丁目 庄右衛門 南傳馬町一丁目 仁左衛門
 日本橋南四丁目 新右衛門 尾張町一丁目 吉野や十兵衛 南大工町一丁目 ひしや吉郎兵衛
 檜物町一丁目 同 庄三郎 同 廣小路角 同 五兵衛 白銀町通鹽町 七右衛門
 檜物町一丁目 久兵衛
 一鐸子屋 日本橋南四丁目 かつけや茂左衛門 浅草通九丁目 河内
 一鐸師並象眼師 白銀町 正阿彌 新橋竹川町 鐵人 瀧山町 長六
 芝三島町 梅忠彦右衛門 銀町 奈良小四郎 備前町 村村又右衛門
 一傀儡人形師

日本橋南四丁目

丹後守

堺町横丁

竹岡 豊前

一針金師

浅草九丁目

彌兵衛

同十二丁目

善右衛門

一銀細工師

備前町

松村又左衛門

新橋竹川町

長六

山城かし

一刀磨屋

京橋南二丁目

木屋利兵衛

惣十郎町

同理左衛門

數寄屋町

松本十左衛門

神田革屋町

河井傳左衛門

加賀町

左馬五兵衛

南佐柄木町

澁谷助右衛門

赤城ゆや町

越前屋市兵衛

山下町

竹屋惣次郎

一鞘師

加賀町

六左衛門

山下町

傳左衛門

南鍋町

平吉

神田新石町横丁

庄左衛門

銀町二丁目

才三郎

一鞘塗師

かゝ町

五兵衛

銀町一丁目

甚左衛門

御成橋かし

いちく七郎兵衛

靈巖嶋長崎町

岡野庄左衛門

糺町二丁目

四郎右衛門

一目貫師

南まき町

辻源右衛門

銀町

奈良七兵衛

一切付縫掛師

神田横大工町

彌左衛門

一切付屋

室町三丁目

玉屋次郎兵衛

同所

萬屋作兵衛

同所

惣左衛門

日本橋南二丁目

井筒や伊右衛門

同所

松村傳左衛門

同所

井筒や七郎兵衛

同所

和泉屋四郎兵衛

同所

井筒や藤兵衛

鎌倉がし

山形屋理右衛門

一揉屋

ばくろ町

仁兵衛

一玉細工師

南傳馬町一丁目

玉屋庄左衛門

神明前三島町

同作右衛門

一眼鏡師

京橋南四丁目

印判屋市郎兵衛

一鐔屋

西紺屋町

つばや權兵衛

同所

後藤九右衛門

京橋南二丁目

又十郎

下谷池のはた

松島理兵衛

一唐物屋

靈巖島長崎町

大平五兵衛

同所

海老庄兵衛

同所

片岡與兵衛

同所

木屋庄三郎

同所

名主

同所

宮川 如舟

赤坂溜池ばた

善兵衛

西紺屋町

木村左兵衛

同所

なはや三右衛門

同所

吉兵衛

同所

八右衛門

數寄屋がし

有來井新右衛門

京橋南一丁目

片倉仙右衛門

一古筆屋

神田指物町

廣瀬孫四郎

南なべ町新道

平塚伊左衛門

彌左衛門町横丁

大藪權兵衛

一珠數屋

てれふれ町

玉屋次郎兵衛

淺草すわ町

丸 や

一太鼓臺師

やり屋町

小細工屋清左衛門

神田紺屋町二丁目 四郎兵衛

石町四丁目

吉兵衛

尾張町二丁目

源兵衛

久保町

小左衛門

通石町

久兵衛

一金魚屋

下谷池のはた しんちうや重左衛門

一からくり人形師並ぜんまい

大坂町 なんさん清左衛門人形町

松屋庄兵衛

一かざり細工師

おけ町 鉢阿彌圖書

御幸町

かさりや庄太夫

三河町

同 吉阿彌

山城かし

同七右衛門

大傳馬町三丁目

佛具作兵衛

檜物町一丁目

かさりや吉良兵衛

一繪馬屋

淺草かや町二丁目

大坂屋

同所

太田屋

一髪結水入師

淺草かや町

武藏

一石筆屋

南傳馬町一丁目 石筆屋十左衛門

一棕櫚箒屋

通鹽町

島田七兵衛

横山町二丁目倉前いせや理兵衛

芝井町

加兵衛

横山町

五兵衛

一蠅打

下谷池のはた ならや長兵衛

一能装束師並借装束

本町二丁目 長谷川九郎兵衛

一京都染物屋

神田鍛冶町

本町二丁目

日本橋南一丁目

京橋南三丁目 鶴屋三右衛門

一硯屋

南傳馬町一丁目 中村 石見

日本橋南四丁目 豊前守信次

京橋南二丁目

中村 主馬

日本橋北二丁目 中村忠兵衛

一紺屋

浮世せうじ

丁子屋

三河川町

水戸 楫屋

京橋南三丁目新道舛屋次郎左衛門

京橋北西がし 京 紺 屋 赤坂田町一丁目 加 賀 屋

一傘並挑灯屋

室町三丁目

京橋三丁目

五郎兵衛

増上寺御門前

同所

銀町大手

おわり町二丁目

日本橋北二丁目

かやば町

一板木屋

日本橋南二丁目

新介

川瀬石町

川島七郎兵衛

堺町

市左衛門

通油町

甚九郎

同町

四郎右衛門

一具羽足織並仕立物

京橋南一丁目

丸田喜左衛門

糺町一丁目

大原 宗藏 駿河町彌左衛門流仕出し はかりや彌左衛門

一旗天蓋仕立屋

芝増上寺片町

御能装束師 山形や吉左衛門

神明前増上寺角

近江や平左衛門

はくろ町土手

一土器師

浅草竹町

彌左衛門

一萬病圓

尾張町一丁目

虎屋

一烏犀圓

本町三丁目

七郎兵衛新橋南二丁目

大坂屋七郎兵衛

一腹 藥

京橋南三丁目

池 長安

一保童圓

大傳馬町三丁目

一外郎透頂香

本町三丁目

益田 隱居

はくろ町

伊兵衛

同町

傳兵衛

一延命散定齋

南傳馬町一丁目

見すや

南油町中通ますや松井吉左衛門

一美清香

神明前

堺屋太郎兵衛

神田天神前

柏 屋

一半黃圓

飯田町下鷹匠町

竹田 法印

江戸惣鹿子名所大全 卷の六

一國分散

大傳馬町三丁目

蓮白

一錦袋圓

下谷池のはた 勸學院大助

同所

野田 玄勝

一目 藥

本町四丁目 益田五靈香

木挽町五丁目

眞島 隱居

瀧山町

うねや

本郷

益田 隱居

銀町二丁目南かわ笠原 養仙

一膏藥屋

湯島天神前 高室藤丸 見林

同所

松本 見龍

京橋うち町一丁目

了眼

一齒藥並はぬき

竹川町 入ばし藤安 安志

日本橋南三丁目

小野 玄入

源助町

兼康 祐玄

一地 黄丸

鮫橋 野石九右衛門

一皮癬瘡藥

湯島明神下 うめや孫兵衛

一藥 麩屋

京橋南四丁目 鶴見 玄關

下谷池のはた とちきや

木挽町五町橋詰 こかしや三郎兵衛

一痲氣藥

あさくさ

一五 香湯

豊島郡王子 金輪寺

一つりばり師

浅草瓦町 つりばりや太兵衛

一刻肴屋

南鍋町 つる屋

芝井町

堺町横丁

猿 屋

一白味噲屋

京橋いなば町 三武屋

一長崎抽餅子

めつた町

浅草本鳥越

一大 佛餅

江戸惣麩子名所大全 卷の六

芝三田町 つるや

一 饅頭屋

かやば町 鹽瀬山城守

日本橋南一丁目 同

ふきや町

ゑびすや

浅草駒形 ほていや

同所

ゑびすや

一 豆腐屋

するが町 色紙とうふ

車坂

けそうゐんとうふ

一 京下り菓子屋

本町一丁目 桔梗屋和泉椽

同町

同 土佐椽

山下町

すわまや

新橋南一丁目 松屋 山城

一 白箸屋

日本橋北一丁目 新九郎

一 唐 飴

芝田町三丁目 陳三官

同札辻

西村 伊織

一 打 栗

栂町五丁目 翁 屋

一 米饅頭屋

浅草金龍山 ふもとや

同町

つるや

一 ふいこ焼

浅草文珠院前 ゑびすや

一 櫻 あめ

芝田町三丁目 あめや長左衛門

一 ぢいらとふ

花町 かまくらや

一 麥麩糸櫻

浅草すは町 榊 屋

一 刻煙草

赤坂田町三丁目横丁 郷

堺町

はげ

浅草寺内

一 饅頭そば粉

神明前 淨 雲

浅草

ひやうたんや

一 籠素麵

江戸惣庵子名所大全 卷の六